

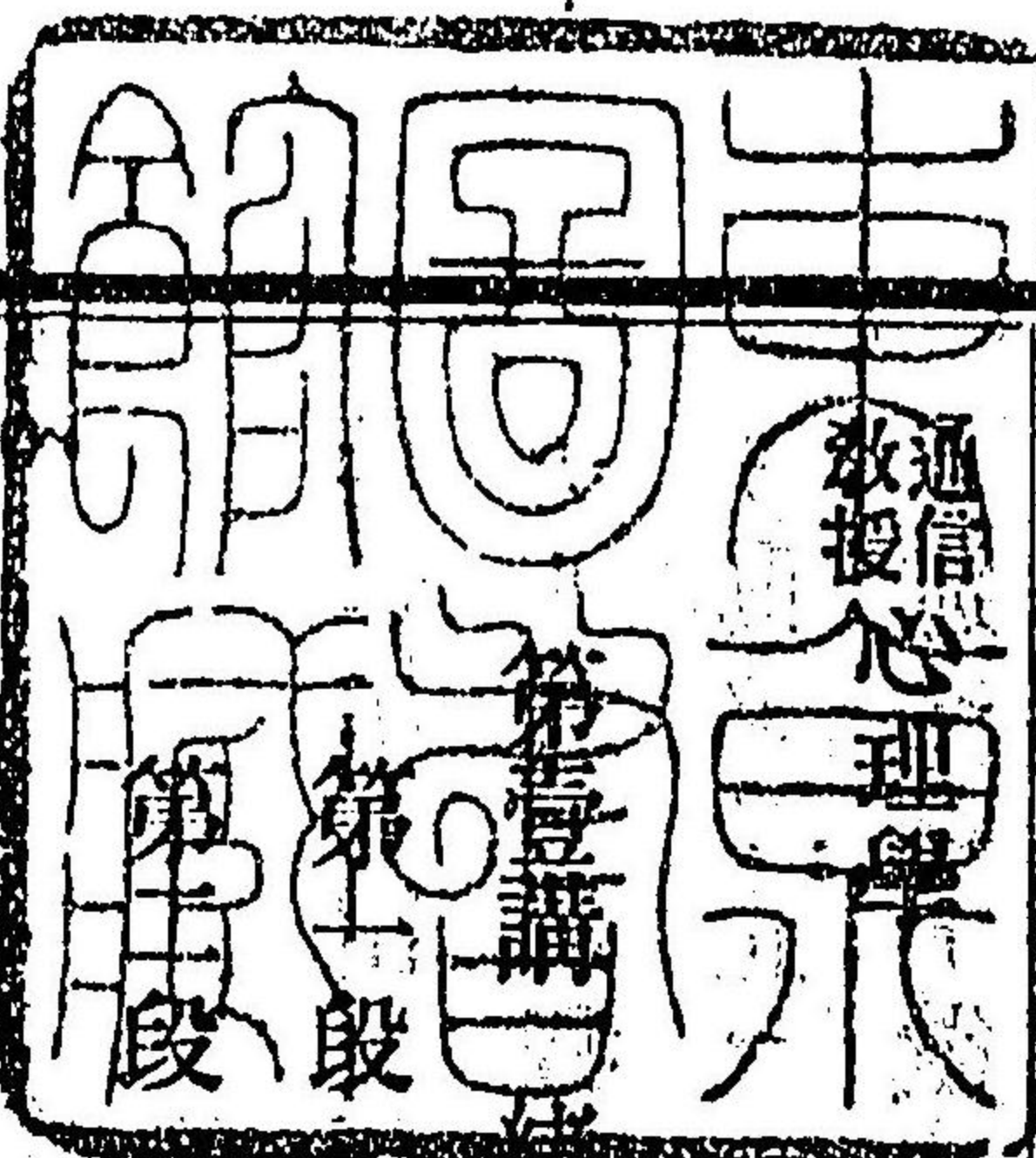
井上圓了著述

通信
教授

心理學

第一

通信講學會



- 第一段 開講旨趣
- 第二段 物心兩界
- 第三段 心體心象
- 第四段 心象分析
- 第五段 心界全圖
- 第六段 研究方法
- 第七段 哲學全系
- 第八段 諸學關係

文學士 井上圓了著述

○通信教授心理學

○通信講學會規則

- 第一條 本會の目的は通信によりて教員其他篤志者に教育學、心理學、倫理學、論理學、政治學、經濟學、社會學、生物學、數理(算術)代數幾何(三角術等)等の諸學科を教授するに在り
- 第二條 本會は通信講學會と名づく
- 第三條 本會の事務所は當分東京下谷區練馬町拾四番地開發社内に置く
- 第四條 會員たらんと欲する者は宿所姓名並に其の學修せんと欲する學科を記して本會の事務所へ申込むべし
- 第五條 講師は各専門の學士に依頼すべし
- 第六條 三ヶ月を以て一學期とし六學期を以て一學科を卒業するものとす
- 第七條 毎月一回講義筆記を印刷して會員に頒布するに依り會員は之に就て研究するものとす
- 第八條 但其紙数は三十ペーシ乃至三十ペーシとす
會員は左の割合に従ひ三ヶ月分の會費を前納すべし
一學科 一ヶ月金十錢づつ
二學科 一ヶ月金十八錢づつ
以上一學科を増すと一ヶ月金八錢づつを増加す
但郵便切手にて會費を送る人は二割増のこと
- 第九條 會員は學修せる學科上に疑義あるときは自由に質問することを得べし
但質問に關する往復の郵便税は會員の自辨とす
- 第十條 學期末に至り卒業試験を望むものは其旨を通知し本會の回答を待て上京すべし
但合格の者には該學士署名の證書を與ふべし

第一段 開講旨趣 余ハ今諸君ニ對シテ心理學ヲ講述スルノ機會
ヲ得タルバ先ヅ其學問ノ利害得失ヲ説キテ諸君ガ之ヲ研究スルノ
利益ト余ガ之ヲ講述スルノ愉快トヲ示スヲ必要ナリトス余今此講
壇ノ上ニアリテツラノ諸君ノ外容ヲ見ルニ或ハ欣ヤトシテ喜ヲ
帶ブルモノモアリ或ハ快ヤトシテ憂ヲ含ムモノモアリ或ハ微笑ス
ルモノモアリ或ハ耳語スルモノモアリ或ハ頭ヲ擧ゲ或ハ手足ヲ動
カスモノモアリテ其面貌舉動固ヨリ同一ナラズト雖モ要スルニ心
性作用ニ出テザルハナシ所謂思内ニアレバ色外ニアラハル、モノ
ナリ然ラバ我人ノ喜ブモ心ナリ憂フルモ心ナリ泣クモ笑フモ心ナ
リ動クモ止マルモ心ナリ諸君ガ心理學ヲ聽カント欲スルモ余ガ之
ヲ述ベント欲スルモ亦皆心ノ作用ナリ若シ或ハ諸君ガ進デ社會ノ

夫勢ヲ觀ルトキハ日夜孜々トシテ國益ヲ起サントスルモノモアリ
東西奔走シテ私利ヲ營マントスルモノモアリテ互ニ其間ニ競争ス
ルヲ見又諸君ガ退テ一家ノ道德ヲ察スルニ仁慈親ムベキモノモア
リ殘忍惡ムベキモノモアリテ共ニ生存スルヲ知ル其人々ノ情各異
ナリト雖モ一トシテ心性ノ發動ニアラザルハナシ然ラバ人ノ善ヲ
爲スモ惡ヲ爲スモ社會ノ有益者トナルモ害毒物トナルモ亦皆心ノ
作用ナリ且ツ夫レ我人ハ天地六合ノ間ニ立チテ目ニ現シ手ニ觸ル
、所ノ万象万物ハ其體我人ノ心ノ外ニアリト信ズレドモ目之ニ逢
フテ其色ヲ識リ手之ニ觸レテ其形ヲ覺スルハ全ク心ノ感覺ニシテ
心ヲ離レテ誰レカ能ク天地万物ノ我人ノ外ニ存スルヲ知ラシヤ然
ラバ万物ノ天地ノ間ニ存スルヲ知ルモ心ナリ我が心ノ外ニ万物ア

ルヲ知ルモ心ナリ之ヲ要スルニ我人ノ思フコト行フコト知ルコト
爲スコト感ズルコト覺スルコト皆是レ心性ノ作用ニシテ天地六合
ノ大ナル日月星辰ノ高キ山川草木ノ美ナル禽獸人類ノ多キ皆我が
心ノ中ニ其形ヲ現シ地獄モ極樂モ神モ佛モ鬼モ蛇モ過去モ未來モ
有ラユル三千世界モ皆盡ク我が方寸中ヨリ畫キアラハシタルモノ
ニ過キズ乃チ知ル心ノ作用ハ實ニ奇々妙々神變不可思議ニシテ何
トモ歟トモ言語ヲ以テ喻フベカラザルヲ余ハ今此奇々妙々ノ作用
ヲ述ベントス其愉快モ亦不可思議ナリ諸君之ヲ聽クノ愉快モ亦必
ズ不可思議ナルベシ而シテ諸君ハ唯此不可思議ノ愉快ヲ有スルヲ
以テ又不可思議ノ利益ヲ有スルヲ知ル夫レ學問ハ哲學ニアル
理學ニアル政治經濟ニアル皆心ノ作用ニ出ヅルヲ以テニトシテ心

欠

MISSING

示セザレバ其學問ノ解釋ヲ下ス亦難シトス故ニ余ハ先ヅ心ヲ物ト
 ノ區別ヲ論シテ諸君ニ心ノ何タルヲ示サントス我人目ヲ開ケハ種
 々様々ノ形象ノ前ニ列スルヲ見ル之ヲ物ト名ケ又物質ト云フ目ヲ
 閉ジレバ千差万別ノ念想ノ内ニ生ズルヲ覺フ之ヲ心ト名ケ又心性
 ト云フ或ハ物心二者ヲ客觀主觀ト名クルコトアリ而シテ客觀ノ一
 境ハ之ヲ物界又ハ外界ト稱シ主觀ノ一境ハ之ヲ心界又ハ内界ト稱
 スルナリ此三者ノ性質ヲ考フルニ物ニハ大小ノ形アリ軟硬ノ質ア
 ルヲ以テ目能ク之ヲ見手能ク之ニ觸ルベシト雖モ心ニハ一定ノ形
 質ナキヲ以テ耳目ノ力固ヨリ其何タルヲ知ルベカラズ唯二者ヲ
 區別スルハ一ハ形質ヲ有シ一ハ之ヲ有セザルニアリ心ハ此ノ如ク
 其何タル明カナラザルモ我人ノ物ヲ見テ物ノ物タルヲ知ルハ即チ



是レ心ノ作用ナルコト疑ヲ容レズ心若シ存セザレバ物亦存スルコト能ハズ所謂心ココニアラザレバ視レドモ見エズ聽ケドモ聞ハズ食ヘドモ其味ヲ知ラザルモノナリ若シ又之ニ反シテ物爰ニ存セザレバ心亦其作用ヲ呈スルコト能ハズ蓋シ此二者ハ互ニ相待チテ始メテ其現象ヲ示シ其作用ヲ呈スルナリ之ヲ喩フルニ鏡面ニ山影ヲ浮ブルガ如シ其山影ノ現象ハ山ト鏡ト相合シテ結ブ所ノモノニシテ山ノミアリテ鏡ナキモ鏡ノミアリテ山ナキモ共ニ其現象ヲ生ズル能ハズ山ハ即チ余ガ所謂外界ノ物ニ比スベク鏡ハ即チ余ガ所謂内界ノ心ニ比スベシ論シテ是ニ至レバ心ニ體ト象トノ別アル所以ヲ知ルヲ必要ナリトス

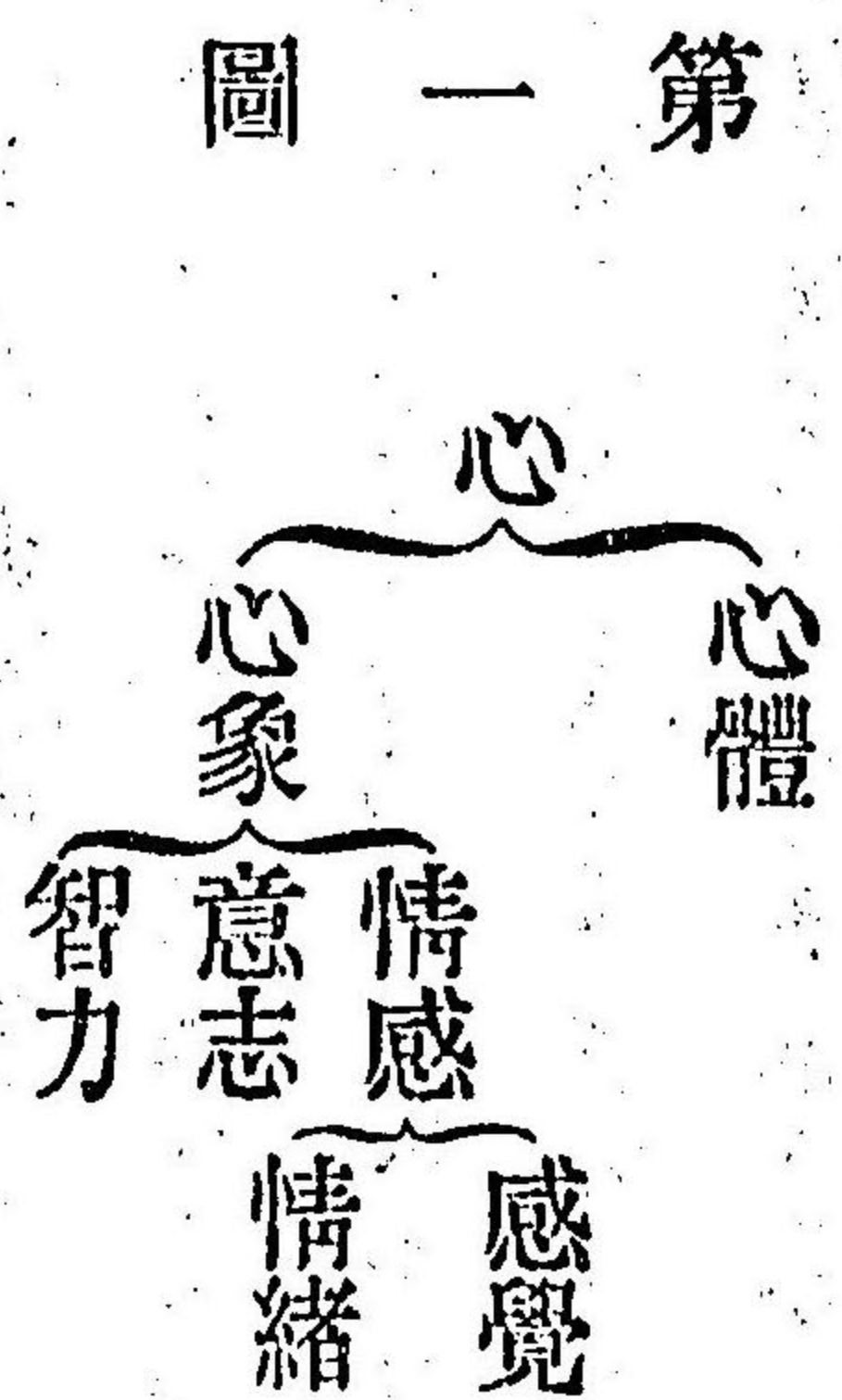
第三段ノ心體心象ノ余今諸君ニ向テ何ホカ是レ之ヲ心ニ稱スベ

シ下問ハ分諸君之答ナル種多端ニシテ到底一定ノ説ナキヲ信ズ或ハ目ニ見テ色ヲ感シ手ニ觸レテ形ヲ覺スルモノ是レ心ナリト云ヒ或ハ富ヲ得テハ喜ビ死ヲ聞テ哀ムモノ是レ心ナリト云ヒ或ハ是ヲ是トシ非ヲ非トスルモノ是レ心ナリト云ヒ或ハ惡ヲ避ケ善ニ移ルモノ是レ心ナリト云フモノアルモ此ノ如キ心ハスベテ心ノ現象ニシテ心ノ實體ニアラズ心ノ實體ハ爰ニ之ヲ心體ト名ケ心ノ現象ハ爰ニ之ヲ心象ト名クルナリ先キニ擧グル所ノ鏡面ノ山影ハ所謂心象ニシテ鏡面ノ體ハ所謂心體ナリ蓋シ象アルハ體アル所以ニシテ鏡體アルニアラザレバ焉ゾ能ク山影ノ現象ヲ見シ心體アルニアラザレバ焉ゾ能ク心面ノ現象ヲ生ゼシ是ヲ以テ我人ノ現ニ知ル所ノモノハ心象ニシテ心體ハ知ルベカラズト雖モ想像上心象ノ

外ニ心體アルヲ推定スベキナリ

第四段 心象分析 然レドモ心體ハ實驗上知ルベカラザルヲ以テ
余ハ獨リ心象ニツイテ其種類ヲ分タントス凡ソ心象ニハ外物ニ觸
レテ生ズルモノト外物ヲ待タズシテ起ルモノアリ光ヲ見テ燈アル
ヲ知リ聲ヲ聞テ鐘アルヲ知ルガ如キハ直チニ外物ニ觸レテ生ズル
心象ナリ千里ノ外ニアル人ヲ思ヒ出シ數年前ニ起リシ事ヲ回想ス
ルガ如キハ外物ニ接スルヲ待タズシテ起ル心象ナリ其外物ニ接セ
ズシテ起ル心象モ之ヲ歸スルニ其以前耳目ニ觸レタルモノノ再ビ
現出スルニヨル之ヲ喩フルニ一ハ鏡面ノ山影ノ如ク一ハ寫眞ノ山
影ノ如ク第二者モ其初ハ外物ニ接シテ起ルモノトスベシ故ニ余ハ
此二者ヲ合同シテ種類ヲ分ツニ情感意志智力ノ三種ヲ得其中情感

ヲ分チテ感覺ト情緒ノ二種トナスナリ而シテ先キニ擧グル所ノ目
ニ見テ色ヲ感シ手ニ觸レテ形ヲ覺スルガ如キハ感覺ニ屬シ富ヲ得
テ喜ビ死ヲ聞テ哀ムガ如キハ情緒ニ屬シ是ヲ是トシ非ヲ非トスル
ガ如キハ智力ニ屬シ惡ヲ避ケ善ニ移ルガ如キハ意志ニ屬スベシ
第五段 心界全圖 以上分類スル所ノ心界ノ諸象ヲ圖ヲ以テ示ス
コト左ノ如シ



此圖中ニツイテ案ズルニ心理學ハ心ノ學問ナレドモ心體ノ學ナル
 ヤ又心象ノ學ナルヤ或ハ又心象心體兩方ノ學問ナルヤ未ダ詳カナ
 ラザレバ爰ニ其點ヲ論ズルヲ必要ナリトス然レドモ此ノ如キハ古
 今東西ノ學者其解スル所各異ナルヲ以テ之ヲ一定スルコト甚ダ難
 シ古代及ビ東洋ノ學者ハ專ラ心體ヲ論究スルヲ以テ心理學ノ目的
 トス即チ弗拉多氏ノ理想論支那宋儒ノ性理論佛教ノ唯識論等ヲ讀
 デ知ルベシ然レドモ近世西洋ノ諸大家ノ論ズル所ヨ見ルニ心理學
 ハ全ク心象ノ學問ナルヲ知ル此理ヲ明カニモント欲セバ宜ク先ツ
 學問研究ノ方法ノ古今大ニ異ナル所以ヲ考フベシトモ此ノ點
 第六段ノ研究方法ノ古代ニアリテハ如何ナル學問ニテモ其研究
 實ヲ考索シテ實驗ヲ施スコトハ甚ダ稀レニシテ其研究ノ方法ハ世

人一般ニ信ズル所ノ道理ニ本キテ解釋ヲ下スル常トス此ノ如キ方
 法ヲ論理學上ニテ演繹法ト云フ之ニ反シテ事實ニ依テ研究ヲ施
 スモノ之ヲ歸納法ト云フ歸納ト演繹トノ別ハ一ハ事々物々ヲ實驗
 シテ一種ノ規則ヲ定ムルヲ目的トシ一ハ已ニ定メタル規則ニ本キ
 テ事々物々ノ解釋ヲ與フルヲ首趣トスルニアリ諸君モ已ニ知ル如
 ク我ガ東洋ノ學問ハ儒者ノ道德ヲ論ズルニモ佛者ノ宗教ヲ談ズル
 ニモスベテ古人ノ格言世間ノ道理ニ本キテ論ヲ立ツルヲ見ル是レ
 所謂演繹法ニヨルモノナリ古代希臘ノ學問モ亦此方法ヲ用フ是ヲ
 以テ希臘及ビ東洋諸國ニ實驗學ノ乏キヲ知ルベシ然ルニ獨リ西洋
 近世ニ至リテハ事々物々ヲ觀察經驗シテ學問ノ道理ヲ研究スルヲ
 以テ實驗ノ諸學一時ニ起ル是レ所謂歸納法ニヨルモノナリ今心理

學ヲ研究スルニモ亦此二種ノ方法アリテ希臘及ビ西洋ノ學者ハ人ノ心ハ世間一般ニ信ズル如ク別ニ一種ノ實體アリト定メ其體外物ニ感觸シテ種々ノ現象ヲ生ズト云フ例ヘバ孟子ノ人ノ性ハ善ナリト論ズルモ荀子ノ人ノ性ハ惡ナリト定ムルモ宋儒ノ性ニ本然氣質ノ二種ヲ分ツモ皆古人ノ言フ所ト自ラ信ズル所ヲ本トシ之ニ一ニ例ヲ加ヘテ解釋ヲ與フルニ過ギズ故ニ其論決シテ歸納法ニヨルモノト稱スベカラズ又佛者ノ阿賴耶識ト名クル一種ノ心體中ニ萬物萬象ノ種子ヲ含藏スト説クモ其體已ニ見聞ノ外ニアリテ耳目ノ力ノ及ブ所ニアラザレバ固ヨリ實驗上ノ結果ニアラザルナリ又次ニ希臘學者ノ論ズル所ヲ見ルニ比太克羅氏ノ元子體中ニ物心二者ノ原理ヲ具スルアリト云フモ弗拉多氏ノ人ノ心内ニハ本來感覺實

驗ヲ離レタル一種不變不滅ノ理想體アリテ存スト云フモ共ニ虛想推測ニ過ギザルハ明カナリ近世ニ至リテモ日耳曼哲學者ノ心理ヲ論ズル韓圖氏ヲ始トシ大抵皆人ノ心中ニハ一種不變ノ心カアリテ存スト信ズ英國ニ於テモ往々此ノ如キ論ヲ立ツルモノアルヲ見ル然レドモ今日ニアリテハ物理化學生理動物等ノ實驗ノ諸學大ニ興ルヲ以テ自然ノ勢其影響ヲ心理學上ニ及ボシ今日ノ心理學者ハ大抵心象ニ現ズル所ノ事實ヲ比較分析シテ歸納上心理ノ規則ヲ定ムルニ至ル是レ全ク百科理學ノ進歩ノ結果ニシテ實ニ心理學上ノ一大變動ト云フベシ是ヲ以テ今日ハ心理學ヲ解釋シテ心象ノ學問トナスニ至ル其他心理研究ノ方法ノ古今異ナル所以ハ主觀法ト客觀法ノ二種ヲ用フルト用ヒザルトニアリ主觀法トハ自己一人ノ心象

ヲ研究スル方法ニシテ客觀法トハ博ク他人外物ノ性質ヲ研究シテ
 心象ノ作用及ビ其規則ヲ定ムル方法ヲ云フ若シ或ハ一步進デ之ヲ
 考フレバ我人ノ心理ヲ研究スルニ當リ他人ノ心象ヲ驗スルモ外物
 ノ影響ヲ察スルモ皆自己ノ心ヲ以テ思量スル所ナレバスベテ之ヲ
 主觀法ニ屬スベキ理ナレドモ其自己ノ心ヲ以テ研究スル中ニオノ
 ツカラ主觀ト客觀ノ二種ノ法アリテ分ル、ヲ見ル別シテ客觀法ハ
 其範圍甚ダ廣キヲ以テ大ニ研究ノ事實ニ富ムヲ知ル即チ我人ノ日
 ヲ交接スル所ノ男女老少ノ顔色容貌ヲ見テ其人ノ情感ヲ知リ言語
 行爲ヲ見テ其人ノ思想意志ヲ知ルモ以テ是レ客觀法ナリ又我人ガ歷
 史ヲ讀ミ新聞ヲ見テ古人ノ思想或ハ諸國ノ未ダ交接セザル人ノ性
 質ヲ知ルコトヲ得ルモ亦其方法殊ニチリ之ニ加フルニ此方ニヨリ

ハ衆人相合シテ生ズル所ノ心ノ影響モ一國ノ輿論氣風以上ニテ觀
 ルコトヲ得ベシ其他諸動物ノ心性作用ヲ觀察比較シテ心象ノ發達
 ヲ知リ生理解剖等ノ諸學ヲ研究シテ心身ノ關係ヲ知ルモ亦皆此方
 法ニ由ルモノナリ故ニ心理研究ニ最モ要スル所ノモノハ主觀法ニ
 アラズシテ客觀法ニアリト知ルベシ然レドモ主觀法ハ全ク其用ナ
 キニアラズ他人ノ性質思想ヲ驗セント欲セバ先ヅ自己ノ心性作用
 ヲ知ラザルベカラズ自己ノ心象ヲ驗セザレバ他人ノ心象亦知ルベ
 カラザルハ勿論ナリ故ニ若シ客觀法ヲ用ヒント欲セバ第一ニ要ス
 ル所ハ主觀法ヲ用フルニアリ之ヲ要スルニ心理ヲ研究スルニ獨リ
 一法ヲ用ヒテ他法ヲ缺クモノ決シテ完全ノ結果ヲ得ベカラザルナ
 リ即チ客觀一法ヲ取りテ主觀ヲ捨ツルモ主觀ノ一法ヲ用ヒテ客觀

ヲ欲クモ共ニ不完全ノ研究法ト謂フベシ然ルニ古代ノ研究法ハ主
 觀ノ一法ヲ取りテ客觀ノ考證ヲ欲クモノ多シ或ハ客觀法ヲ用フル
 モ之ヲ一二ノ人ニ驗スルノミニテ古今東西衆人ノ上ニ試ルコト甚
 ダ尠シ別シテ諸動物ノ比較ヲ取り神經ノ組織ヲ考フルガ如キハ古
 人ノ全ク欲ク所ナリ是ヲ以テ其方法ノ疎ニシテ其研究ノ狹キヲ知
 ルベシ今日ニ至リテハ研究上啻ニ主觀客觀ノ二法ヲ用フルノミナ
 ラズ客觀ノ考證殆ンド至ラザル所ナク心理ノ研究實ニ精密ヲ盡ク
 セリト云フモ過言ニアラザルナリ

第七段 哲學全系 諸君ハ前段論ズル所ヲ以テ今日ノ心理學ハ主
 觀客觀ノ二法ヲ用ヒテ心象ノ事實ヲ研究スル所謂心象ノ學問ナル
 コトハ已ニ領會セシト信ズ故ニ余ハ是ヨリ心理學ハ哲學範圍中ノ

如何ナル地位ヲ占有スベキヤヲ述ベントス今之ヲ述ブルニ先チテ
 理學ト哲學ノ異同ヲ一言スル亦必要ナリトス一口ニ之ヲ言ハバ哲
 學ハ道理上ノ論究ニシテ理學ハ實驗上ノ學問ナレドモ今日ノ哲學
 ト古代ノ哲學トハオノヅカラ性質ヲ異ニスルアリテ爰ニ之ヲ同一
 ニ論シ難シ蓋シ哲學ハ古今共ニ道理上ノ論究ニヨルハ勿論ナレド
 モ古代ノ哲學ハ全ク人ノ空想ニ本キ事實ノ考證ヲ欲クモノ多ク且
 ツ形象外ニ事物ノ眞理ヲ求ムルノ風アリ然ルニ今日ノ哲學ハ理學
 ノ實驗ニ本キテ形象内ニ眞理ヲ求ムルノ風アリ故ニ今日ノ學者ハ
 哲學ヲ解シテ理學ノ諸說ヲ統合スル學問ナリト云フニ至ル然レド
 モ哲學ハ縱ヒ今日ニアリテモ其務ムル所獨リ形象内ニ眞理ヲ求ム
 ルニアラザルハ多言ヲ費サズシテ明カナリ若シ或ハ其目的形象内

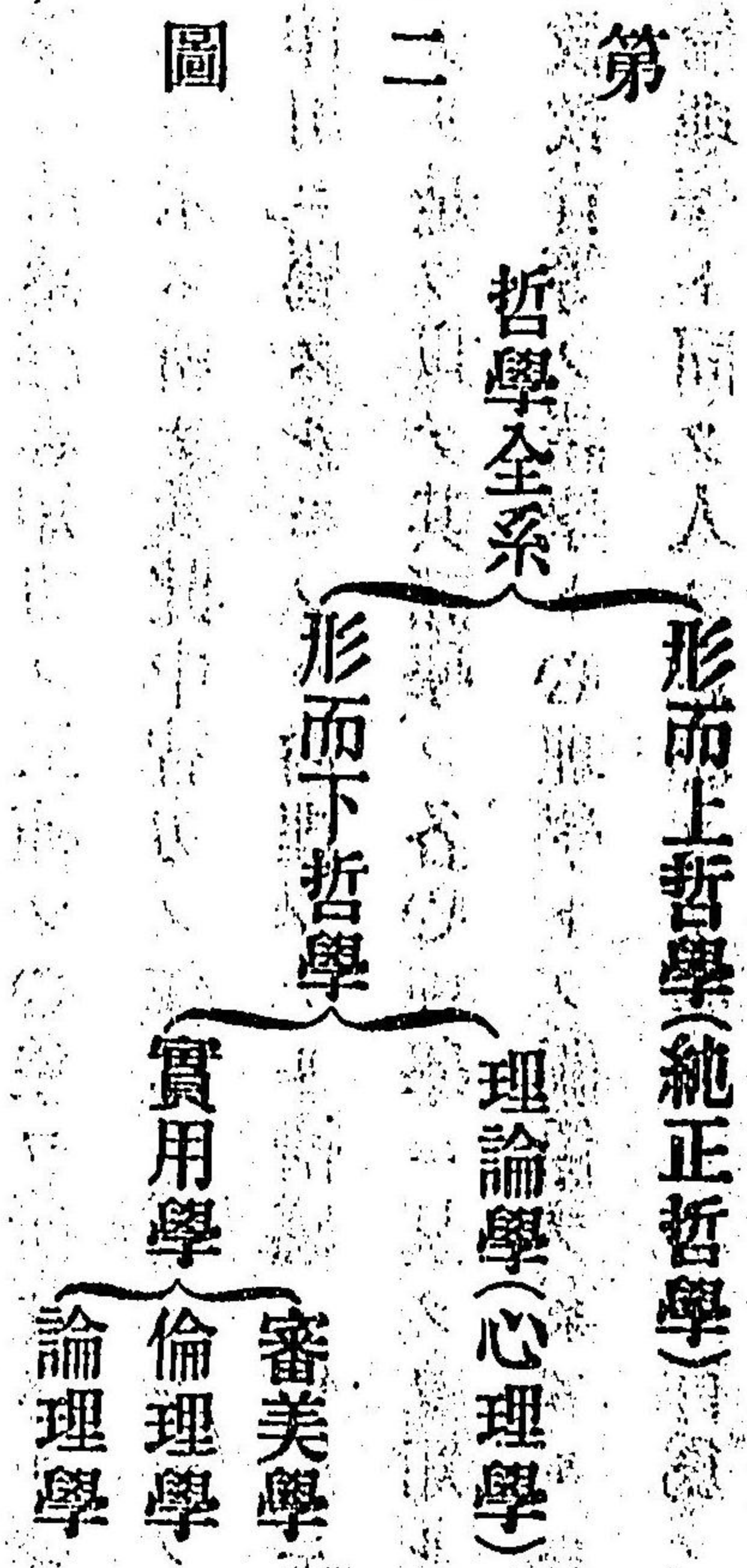
論究ニ止マルトキハ之ヲ理學ニ屬シテ然ルベシ若シ之ヲ理學ニ屬スルトキハ物心ノ實體宇宙ノ本源天帝ノ在否等ノ如キ形象外ニワタル問題ハ何レノ學ニヨリテ講究スベキヤ之ヲ講究セザレバ人其惑ヲ解ク能ハバ其惑ヲ解カント欲セバ之ヲ講究スルノ學ナクンバアルベカラズ是レ哲學ノ世ニ起ル所以ニシテ今日ニアリテモ之ヲ講究スルハ其學ノ目的トスル所ナリ但古今其學ノ異ナル所アルハ研究ノ方法ニシテ古代ノ哲學ハ空想上ノ論究ニ止マリ今日ノ哲學ハ形象内ニ實驗スル所ヲ結果ヲ以テ形象外ニ論及スルナリ此ノ如ク哲學中ニハ形象内ニ屬スル部分ト形象外ニ屬スル部分ト二種アリヲ以テ余ハ其全界ヲ分チテ形而上哲學ト形而下哲學ト兩域トナシ形而上哲學ハ昔名純正哲學並稱シ形象外ニ眞理ヲ論究スル學

間ニシテ物體心體靈魂知識天帝宇宙時間空間勢力等ノ本來何者ナルヤ如キ形而上ノ大問題ニ解釋ヲ與フルヲ目的トス之ニ反シテ形而下哲學ハ哲學上ノ問題ヲ解釋スルニ當リテ形象内ニ現スル所以事實ヲ研究スルニ止マリテ形象外ニ論及セザルモノヲ云フ例ヘバ心理學ノ問題ヲ解スルニ當リ心象ノミヲ研究スルハ形而下哲學ニ屬シ心體ヲ論究スルハ形而上ニ屬スルナリ然ルニ今日ノ心理學ハ心象ノ學問トナルヲ以テ之ヲ哲學中ノ形而下ノ部ニ屬スルヲ適當ナリトス今余ガ之ヲ講述スルモ心象ノ上ニ論究ヲ施スハ勿論ナリト雖モ諸君必ズ心體ノ如何ヲ知ラント欲スルノ志アラシクトヲ察シ心象ヲ論究シテ其結局ニ達スレバ純正哲學ニ入りテ少シク心體ノ何モノナルヤヲ論明セントス心理學ノ外形而下哲學ニ屬スル

モノ論理學アリ倫理學アリ審美學アリ若シ更ニ形而下哲學ヲ分チ
 テ理論學實用學ノ二種トナストキハ心理學ハ理論學ニ屬シ論理倫
 理審美ノ諸學ハ實用學ニ屬スルナリ理論學ハ事物ノ現象ヲ觀察シ
 テ其ノ間ニ有スル所ノ道理規則ヲ考定スルニ止マリ實用學ハ其道
 理規則ヲ實際ニ應用シテ人事ノ上ニ適合セシムルモノヲ云フ故ニ
 實用學ニ屬スルモノハ人ノ行爲思想ヲ規制シテ一定ノ法則ニ從ハ
 シメントス是ヲ以テ論理學ハ議論ノ是非ヲ判定シテ其誤ヲ正シ倫
 理學ハ人ノ意志行爲ノ善惡ヲ論シテ其不正ヲ戒ムルナリ然ルニ心
 理學ニアリテハ此思想ハ正シカラス此感覺ハ誤レリ人ノ思想感覺
 ハ此法則ニ從ハザルベカラズ等ト論ズルコトガシ以上分類スル所
 之ヲ合スルニ其ノ圖左ノ如シ

第

哲學全系



第八段 諸學關係 諸學是レヨリ心理學ト諸學トノ關係ヲ述ベン
 トスルニ先ヅ心理學ト純正哲學ヲ較スルニ一ハ心象ヲ研究シ一ハ
 心體ヲ研究スル學問ナルヲ以テ其關係ノ密ナルハ今更ニ論ズルヲ
 要セズ次ニ心理學ト實用學ノ關係ヲ尋ヌルニ實用學ハ理論學ニ定
 ムル所ノ規則ヲ應用スルモノナレバ心理學ハ論理倫理等ノ學ノ基

礎トナルコト明カナリ今其理ヲ理學ノ諸科ニツイテ示スニ理學中ニモ理論實用ノ二種アリテ物理化學天文等ハ其所謂理論學ニシテ器械學製造學航海學等ハ其所謂實用學ナリ此實用學中器械學ハ物理ニ基キ製造學ハ化學ニ基キ航海學ハ天文ニ基キテ起リシハ諸君ノ已ニ知ル所ナリ今論理倫理等ノ諸學ノ心理學ニ於ケル亦然リ心理學ハ情感意志知力ノ三種ノ心象ヲ研究スル學問ナルハ余が先キニ已ニ示ス所ナリ此中智力ノ作用ニ屬スルモノハ論理學ナリ意志ノ作用ニ屬スルモノハ倫理學ナリ情感ノ作用ニ屬スルモノハ審美學ナリ是ヲ以テ其諸學ノ各心理學ニ基クヲ知ルベシ次ニ政治法理宗教教育等ノ諸學ト心理學トノ關係ヲ案ズルニ政治法理學ノ如キハ倫理學ト同ク人ノ意志ヲ發露スル所ニ行爲ノ正邪良否ヲ判定規

制スル學問ナレバ心理學ニ關係アルヲ勿論ナリ宗教學モ人ノ思想想像ニ基ヒスルヲ以テ是レ又心理學ニ由ラザルベカラズ別シテ教育學ノ如キハ人ノ智力ヲ啓キ情感ヲ正シ意志ヲ導クモノナレバ其心理學ト密接ノ關係ヲ有スルハ言フマデモナキコトナリ故ニ教育家タラント欲スルモノハ格別ニ心理學ヲ研究セザルベカラズ然レトモ心理學ニ熟達スルモノ必ズ教育ノ大家トナレルニハアラズ例ヘバ良醫ハ生理學病理學等ニ熟達セザルベカラズト雖モ生理病理等ニ明カナルモノ必ズシモ良醫トナルニアラズ良醫トナルニハ學問ト實地ト兼備セザルベカラザルガ如シ今諸君ガ世間ノ教育家トナラントスルニモ同キ道理ニテ心理學ニモ熟達シ實地ニモ習練セザルベカラズ次ニ百科ノ理學ヲ考フルニ理學諸科ノ基ク所ハ論理

學ニアリテ論理學ハ心理學ニ基クヲ以テ諸科皆間接ニ心理學ト關係スルモノト謂フテ不可ナルコトナシ此ノ如ク諸學盡ク心理學ニ關スルハ如何ナル理ニ由ルカト云フニ諸學皆心性作用ニ出ヅルヲ見テ知ルベシ人若シ此作用ヲ有セザレバ學問ノ世間ニ起ルベキ理ナシ學問ノ起ルハ全ク心性ノ發達ニヨルヲ以テ心理學ハ諸學ノ基礎タルハ當然ノ事ナリ是ヲ以テ余ハ心理學ヲ研究スルハ其利益其愉快共ニ不可思議ナリト稱スルナリ

以上ハ心理學ト他學トノ關係ヲ述ベテ他學ヲ修ムルニ心理學ノ要用ナル所以ヲ論シタレドモ未ダ心理學ヲ修ムルニ他ノ學問ノ要用ナル所以ヲ示サザルヲ以テ爰ニ之ヲ一言スルモ敢テ無用ニ屬サザルヲ知ル夫レ今日ノ學問ハ如何ナル學問ニテモ大抵他ノ學問ト關

係セザルモノナシ別シテ心理學ハ他學ト密着ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲ研究スルモノ亦他ノ諸學ヲ修メザルベカラズ就中直接ニ其研究ニ要スル所ノモノハ生理學動物學ナリ即チ心理學上心身ノ關係ヲ研究スルニハ生理學ヲ要シ心性ノ發達ヲ研究スルニハ動物學ヲ要スルナリ其他今日ハ心理ヲ解釋スルニ物理ヲ用フルヲ以テ物理化學等ノ諸科モ心理研究ニ要スル所ナリ然レドモ余ハ知ル諸君ハ今此心理學ヲ聽講スルニ當リ傍ラ一々他學ヲ研究スルノ暇ナキヲ故ニ余ハ心理講述ノ際其他學ト關係ヲ有スル處アレバ簡單ニ其點ヲ他學中ヨリ引用シテ解釋ヲ施シ以テ諸君ヲシテ霧中ニ迷ハザラシメント欲スルナリ諸君請フ之ヲ諒セヨ

第一講 總論
 第一節 心理學之概論
 第二節 心理學之分類
 第三節 心理學之研究法
 第四節 心理學之應用
 第五節 心理學之發展
 第六節 心理學之地位
 第七節 心理學之重要性
 第八節 心理學之未來
 第九節 心理學之結論

第二講

總論第一

種類論

第十段

分類方法

第九段

情感性質

第八段

智力性質

第七段

意志性質

第六段

三種關係

第五段

三種抗排

第四段

三種連接

第三段

心力分量

第二段

內外事情

第十段 身心關係

第一段 分類方法 余ハ前講ニ於テ開講ノ旨趣及ビ心理學ノ如何ナル學問ナルヤノ大意ヲ述ベタルヲ以テ諸君ハ定メテ之ヲ領得セラレシナラン故ニ余ハ是レヨリ心理學ノ本論ニ入り心性作用ノ一ニツイテ其性質事情ヲ究明セント欲シ先ヅ之ヲ總論各論ノ二部ニ分ツナリ而シテ總論ニ於テハ心性作用一般ニ涉ル所ノ事情ヲ述ベ各論ニ於テハ心性作用各種ノ性質ヲ論ズベシ今爰ニ總論ヲ講ズルニ當リ又之ヲ種類發達ノ二論ニ分チ種類論ニ於テハ心性作用ノ種類ヲ分ツ方法及ビ其各種ノ性質自他ノ關係ヲ述ベ發達論ニ於テハ其各種ノ起ル所以分ルル所以ヲ論ジテ諸君ニ心理ノ大綱要領ヲ示サント欲スルナリ

第一ニ種類論ヲ講ズルニ當リ先ヅ分類ノ方法ヲ述ベントスルニ心理學ハ先キニ已ニ示ス如ク心象ノ學問ニシテ心性作用ノ現象ヲ論ズルニ止マルモ其現象ニハ千差万別ノ種類アリテ其種類ツ子ニ相集合シテ作用ヲ呈スルヲ以テ先ヅ其集合作用ヲ分析シテ數多ノ簡單作用ニ分チ其簡單作用ヲ合類シテ一二ノ種類ニ減ズルハ心理學研究ニ於テ最モ要スル所ナリ斯クシテ諸作用中互ニ同キ性質ヲ有スルモノハ又之ヲ合シテ一種トナシ其數種中互ニ同キ性質ヲ有スルモノハ又之ヲ合シテ一類トナシ其一二ノ種類ニツイテ論究ヲ施サントス之ヲ心性ノ分類法ト云フ猶ホ万物ヲ分類シテ有機無機トナシ有機ヲ分チテ動物植物トナスガ如シ偕テ此分類法ニ本キテ心象ノ種類ヲ分ツニ古今東西一定ノ規則ナシト雖ドモ二種ヲ設クルモ

ノト三種ヲ設クルモノトノ二法アリ先ツ支那ニアリテハ通常心性ヲ分チテ性情ノ二トナス朱子ノ言ニ「性ハ心ノ理情ハ性ノ動ナリ」ト解釋ヲ下シテ一ハ心ノ本體一ハ心ノ發動ナリト定ムルナリ又程朱ハ性ニ本然氣質ノ二種ヲ分チテ性ニ善惡ノ別アルハ氣質ノ性ニシテ本然ノ性ニアラズト云フ次ニ印度ニアリテハ佛教中ニ説ク所ニヨルニ我人ノ身體ハ色受想行識ト稱スル五種ノ原質ヨリ成ルト云フ其所謂色ハ物質ニ與フルノ名ニシテ受想行識ノ四ハ心性ニ與フルノ名ナリ此心性ヲ分チテ心王心所ノ二種トナスコトアリ之ヲ受想行識ニ配スルトキハ識ハ即チ心王ニシテ受想行ハ姑ク心所ニ屬スベシ心所トハ心所有法ノ略語ニシテ心王ノ有スル所ノ心象ナリ心王ハ之ヲ支配スル所ノ君主ナリ此二者ハ性情ノ二ト稍異

ナル所アルモ二種ノ分類法ヲ設クルノ意ニ至リテハ支那ト同一ナリ又次ニ西洋ノ分類法ヲ考フルニ古代ト近世ト大ニ其種類ヲ異ニシテ希臘ノ大儒亞里士德氏ハ智力ト意志ノ二種ヲ分チ智力ハ我人ノ思想ニシテ意志ハ其外界ニ對シテ行爲舉動ヲ指示スル作用ナリ故ニ此二種ハ性情又ハ心王心所ノ分類法トハ性質上大ニ異ナル所アルモ又稍類スル所アルヲ知ルベシ而シテ此法ハ降リテ中世ヨリ近世ニ傳ハリ蘇國ノ哲學者里氏ノ心理ヲ論ズルニ智力ト行爲トノ二種ヲ分チシモ蓋シ之ニ本ツ是ニ由テ之ヲ觀ルニ古代及ビ東洋ハ二種ノ分類法ヲ用フルモノト知ルベシ之ニ反シテ近世專ラ用フル所ノ方法ハ三種分類法ナリ此法日耳曼ニ起リ韓氏之ヲ用ヒ尋テ英國ニ傳ハリ波氏之ヲ用フ其後ノ心理學者大抵皆此法ヲ取ル即チ近

頃世間ニ行ハルル所ノ倍氏佐氏等ノ心理學ヲ讀テ知ルベシ此三種ノ分類法トハ余ガ前講第四段ニ述ブル所ノ情感意志智力ノ三種ヲ云フナリ而シテ此三種ハ心象ノ性質ノ相異ナリタルモノノ上ニ與フルノ名ニシテ發達ノ順序ノ上ニ設ケタル分類ニアラズ故ニ若シ發達ノ順序ニツイテ考フルトキハ表現的ト内現的ノ二種或ハ感覺ト觀想トノ二種ニ分ツヨ適當ナリトス表現的トハ外物ニ接シテ直チニ起ル心象ニ名ケ内現的トハ外物ニ接スルヲ待タズシテ内ニ起ル心象ニ名ケルナリ而シテ感覺ハ外物ニ感觸シテ起ル所ノ心象ナルヲ以テ表現的ニ屬シ觀想ハ外物ニ感觸スルヲ待タズシテ内ニ起ル所ノ思想ナルヲ以テ之ヲ内現的ニ屬スベシ此内現的ノ思想ハ感覺ヨリ生ズル所ノ心象心内ニ集合シテ結成セル觀想ニシテ其初

表現的ノ心象ヨリ來ルモノトス此ノ如ク表現ヨリ内現ヲ生ジ感覺ヨリ觀想ヲ生ズル順序次第ヲ究明スルモノ之ヲ發達論ト云フ然ルニ余ガ爰ニ論セント欲スル所ハ心象ノ性質種類ヲ舉グルニ止マルヲ以テ發達ノ順序ハ之ヲ次講ニ讓リ本講ハ唯情感智力意志三種ノ性質關係ヲ述ブベシ

第二段 情感性質 以上三種分類中先ヅ其第一ニ位スル所ノ情感ノ性質ヲ述ブルニ情感ニハ前講第五段ノ心圖ニ示ス如ク感覺ト情緒ノ二種アリテ感覺ハ五官即チ眼耳鼻舌皮膚ノ五種ノ官能ノ上ニ起ル所ノ心性作用ニシテ其作用ヲ分チテ視覺聽覺嗅覺味覺觸覺ノ五種トナス即チ視覺ハ眼官ノ上ニ起リ聽覺ハ耳官ノ上ニ起リ嗅覺ハ鼻官ノ上ニ起リ味覺ハ舌官ノ上ニ起リ觸覺ハ皮膚ノ官能ノ上ニ

起ルナリ之ヲ總シテ感覺ト稱シ又五感ト稱ス次ニ情緒ハ支那ノ所謂七情ニシテ喜怒哀懼愛憎欲ノ如キ心性ノ發動ヲ云フ之ヲ佛教中ニ考フレバ其心王心所二種ノ分類中ノ心所ニ屬スベシ此情緒ニモ之ヲ細分スレバ數多ノ種類アリテ決シテ七情ニ止マルニアラズ佛教中ノ心所ハ固ヨリ情緒ノミニ與ヘタル各ニアラズシテ其中ニハ意志智力ノ作用モ混シタリト雖モ心所ノ種類ハ四十乃至五十二下ラズ其數大乘ト小乗ト不同アリテ大乘ニテハ五十一種ヲ分チ小乗ニテハ四十六種ヲ分ツナリ其總數ノ三分一ヲ情緒ニ屬スルモ情緒ノ數ハ決シテ十五ニ下ラザルナリ西洋ニアリテハ倍氏ノ心理書ニヨルニ情緒ヲ分チテ驚愛怒懼等ノ十種トナシタルヲ見ル此ノ如ク其種類多端ナルモ各種互ニ相密接シテ判然タル區域ヲ其間ニ立ツ

ルコト甚ダ難シトス然レドモ簡單ニシテ知リ易キモノト複雑ニシテ知リ難キモノ即チ表現的ニ屬スルモノト内現的ニ屬スルモノトノ別ヲ立ツルコトハ敢テ難キニアラザルナリ驚愛怒懼等ハ情中ノ簡單ナルモノナリ審美道德ノ情ノ如キハ情中ノ極メテ複雑ナルモノナリ尙ホ其詳カナルハ容論ニ入リテ知ルベシ諸テ此情感ノ一種固有ノ性質ハ苦樂ノ二事情ニシテスベテ心性作用上苦痛ヲ感シ快樂ヲ覺フルモノ之ヲ總シテ情感ト稱ス例ヘバ諸君ガ目ニ花ヲ見テ快ヲ感シ耳ニ音樂ヲ聞テ樂ヲ覺フルモノ是レ情感ナリ又諸君ガ人ノ病ヲ見テ苦痛ヲ感シ人ノ死ヲ聞テ不快ヲ覺ユルモノ是亦情感ナリ故ニ情感ハ心性ニ感ズル所ノ苦樂ナリト知ルベシ而シテ情感中感覺ト情緒ノ別ヲ立ツルハ一ハ情感ノ簡單ナルモノニシテ表現的

ニ屬シ一ハ複雑ナルモノニシテ内現的ニ屬スルノ異同アルニヨル
 情緒ハ心内ニ生ズルヲ以テ爰ニ之ヲ内現的ニ屬スト雖トモ其中又オノヅカラ表現的
 ニ近キモノト遠キモノトノ別アルヲ以テ情緒中ニモ表現的ト内現的トノ二種ヲ分ツ
 コトアリト而シテ此表現的ニ屬スル感覺ハ我人ノ官能直チニ外物ニ
 接シテ苦樂ヲ生ズルモノニ名クト雖モ感覺上苦痛ヲ生ゼズシテ外
 物ヲ識別知覺スルコトアリ例ヘバ目ニ見テ外物ノ遠近ヲ推知シ手
 ニ觸レテ外物ノ大小ヲ識別スルガ如キハ情感ニ屬スルモノト稱シ
 難シスベテ識別知覺スルハ智力ノ性質ナルヲ以テ感覺ニ此性質ア
 ルトキハ之ヲ智力ニ屬サザルベカラズ故ニ感覺ハ情感ノ一部分ニ
 シテ又智力ノ起源トナルモノナリ
 第三段 智力性質 次ニ智力ハ事物ヲ識別思量スル力ニシテ一名
 之ヲ思想トモ觀想トモ云フ大學ニ其意ヲ誠ニセント欲スルモノハ

先ヅ其知ヲ致ストアリテ其所謂知ハ即チ智力ナリ此智力ニモ亦表
 現的ト内現的トノ二種アリテ目前ニ現見スル所ノ物象ヲ觀察識了
 スルモノ之ヲ知覺ト名ク知覺ハ感覺ニ伴フテ生ズルヲ以テ表現的
 ニ屬スルナリ又目前ニ現セザルモノヲ心中ニ想出スルコトアリ之
 ヲ觀想又ハ虛想ト稱シテ内現的ニ屬スルナリ虛想トハ事物特有ノ
 形質ヲ離レテ空ニ想スル思想ヲ云フ通常單ニ思想ト稱スルモノ是
 レナリ此思想ニ又概念斷定推論ノ三種ノ作用アリ其作用ノ如何相
 異ナルガハ次講ニ入りテ述ブベシ今一二ノ例ヲアゲテ知覺ト虛想
 ノ別ヲ示スニ諸君ガ聲ヲ聞キテ鐘ノ聲ナルヲ知リ光ヲ見テ燈ノ光
 ナルヲ知ルハ知覺ノ力ナリ又諸君ガ人ノ動物ニ異ナル所以ヲ考ヘ
 行爲ノ善惡ヲ識別スルガ如キハ虛想ノ力ナリ又此智力ヲ佛教中ノ

心理ニ比考スルニ廣ク心王心所ノ二者ニ關スル所アルモ主トシテ心王ニ屬スルナリト知ルベシ

第四段 意志性質 次ニ意志ハ心性ノ外界ニ對シテ發現スル所ノ決心斷行作用ニシテ我人ノ進退舉動歩行說話ヨリ命令指揮撰擇決斷制止等ノ諸作用ニ與フルノ名ナリ例ヘバ諸君ガ友人ヲ問ハント思ヒ歩行シテ其家ヲ尋ヌルモ相會シテ其思フ所ヲ話ルモ意志ノ作用ナリ又諸君ガ人ニ物ヲ施サント欲シテ猶豫決セザルニ斷然決行スルニ至ルモ意志ノ作用ナリ惡心ヲ制止シテ善心ヲ起スモ忠孝兩ナガラ全カラザルヲ知リテ二者中一ヲ擇ビ他ヲ捨ツルモ亦皆意志ノ作用ナリ凡ソ意志ハ我ガ心性ノ命令指揮ニヨリテ決行スル所ノ作用ナルヲ以テ所謂隨意作用ノミヲ有スル名目ナシトモ或ハ偶然

不隨意ニ起リタル作用モ其中ニ合シテ論ズルコトアリ何者隨意ト不隨意トハ其間判然タル分界ヲ立ツルコト難ク且ツ心性發達ノ規則ニヨルニ隨意作用ハ其初不隨意作用ヨリ起ルヲ以テ其初期ニ於テハ不隨意作用ト同一ナレバナリ又之ヲ東洋ノ心理學ニ考フルニ大學ニハ其心ヲ正フセント欲スルモノハ先ヅ其意ヲ誠ニスルトアリテ朱子之ヲ註シテ意ハ心ノ發スル所ナリト云フモ意志ノ意ト同一ニ見做スベカラス佛教中ニ用フル所ノ意ハ思量ヲ義トストアルヲ以テ又同一ニアラズ而シテ意志ノ作用ニ至リテハ其分類中ノ心所ニ屬スルモノト知ルベシ

第五段 三種關係 以上情感ト智力ト意志ノ性質ヲ略辨シタルヲ以テ是ヨリ此三者ノ關係ヲ手短ク述ブベシ情感ハ外界ノ現象ヲ内

ニ感受シテ起リ智力ハ内界ノ範圍内ニ想出シテ起リ意志ハ内界ノ
 決心ノ外界ニ發現シテ起ルモノニ名クルヲ以テ第一者ハ外界ヨリ
 内界ニ入り第二者ハ内界中ニアリ第三者ハ内界ヨリ外界ニ向フノ
 異同アリ此ノ如ク定ムルモ固ヨリ一通リノ區別ニ過ギズシテ精密
 ニ之ヲ論ズレバ情感ニモ内界ノミニテ起ルモノアリ智力ニモ外物
 ヲ待チテ起ルモノアリ意志ニモ外界ニ其作用ヲ示サザルモノアリ
 故ニ此三者ハ判然タル區域ナキモノト知ルベシ然レドモ其性質多
 少相異ナル所アルヲ以テ姑ク之ヲ三種ニ分ツナリ
 第六段 三種抗排 三種ノ性質多少相異ナル所アルヲ以テ互ニ相
 抗排スルノ性アリ抗排性トハ情感強キモノハ智力意志弱ク智力盛
 シナルトキハ他力衰ヘ三者同時ニ其力ヲ逞フスルコト能ハザル性

質ヲ云フ之ヲ一人ノ心性ニツイテ考フルニ情感非常ニ盛シナルト
 キハ他力其作用ヲ呈スルコト能ハズ例ヘバ人非常ニ怒ルトキハ道
 理ヲ辨別スルコト能ハズ且ツ舉動ヲ制止スルコト能ハサルガ如シ
 又智力上事物ノ道理ヲ考ヘ深ク思慮ヲ勞スルトキハ他力ヲ現ズル
 コト能ハズ例ヘバ歩行スルノ際深ク思慮ヲ勞スルコトアルトキハ
 知ラズ知ラズ足ヲ停メテ進マザルニ至リ其目前ニ現ズル所ノモノ
 アルモ更ニ感覺セザルニ至ルガ如シ意志亦然リ例ヘバ戰場ニ臨ミ
 活潑ニ進退運動スルニ當テハ事物ヲ想像シ苦樂ヲ感受スルノ暇ナ
 キガ如シ若シ又衆人ノ中ニツイテ案ズルニ生來情感ニ長ズルモノ
 ト智力ニ富ミタルモノト意志ニ強キモノトノ別アルヲ見ル即チ婦
 人ノ如キハ一般ニ情感ニ長シ學者ノ如キハ智力ニ富ミ軍人ノ如キ

ハ意力ニ強キモノトス是レ一ハ教育習慣ニヨリテ來ルモ生來多少ノ差異アルハ疑ヲ入レザルナリ以上ハ一箇人ノ上ニテ論ズルノミ若シ又一國上ニツイテ考フルモ此別アルヲ見ル例ヘバ希臘人ハ智力ニ長シ羅馬人ハ武力ニ長シ英人佛人米人各其長スル所異ナルガ如ク日本國內ニテモ九州人北國人中國人東京人大坂人各其性質氣風異ナルガ如シ宗教ノ上ニモ此別アルヲ見ル即チ儒教ハ情感ノ宗教ナリ耶蘇教ハ意力ノ宗教ナリ佛教ハ智力ノ宗教ナルガ如シ此ノ如ク三種ノ心性互ニ相抗排スルノ性ヲ有シテ一ヲ長ズレバ他ヲ損スルノ傾向アルハ全ク三種其性質異ニスルニヨル以テ心理上ノ自然ニ此別アル所以ヲ知ルベシ

第七段 三種連接 然レドモ又敢テ三種全ク相離シタルモノニア

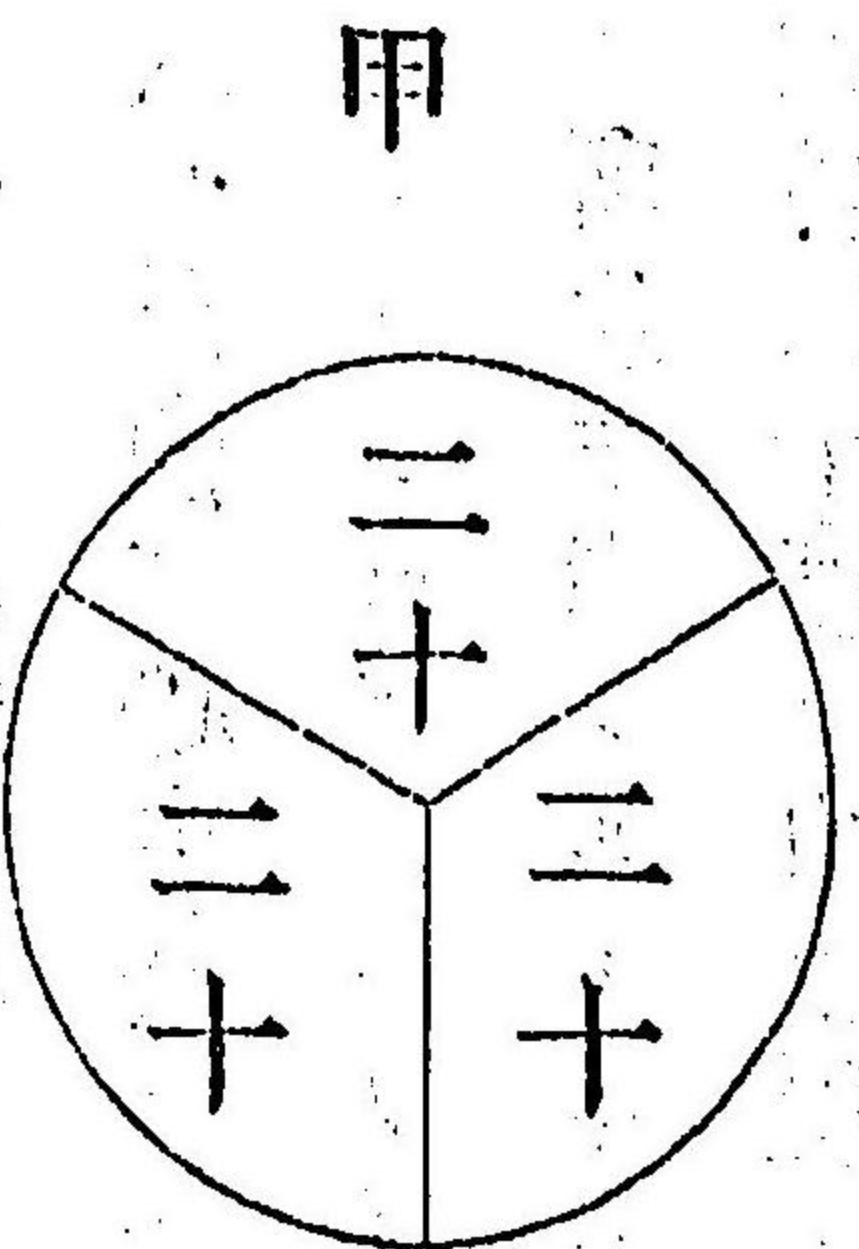
ラズ故ニ三者互ニ相連接スルノ性アリ例ヘバ身體上ニ苦感ヲ生ズルコトアルトキハ智力意力ノ伴フテ生ズルヲ見ル即チ智力ノ作用ヲ以テ其位置ヲ知定シ意力ノ作用ヲ以テ其苦ヲ避ケントスルモノ是レアリ又智力上事物ヲ觀想スルニ苦樂ノ情ノ伴フテ生ズルアリ意志ノ作用ノ從フテ起ルアリ又意志ノ起ルニモ情感ノ之ヲ促スアリ智力ノ之ヲ導クアリ故ニ三者互ニ相連接シテ一者起レバ他者從フテ起ルヲ知ルベシ是レ他ナシ此三者ハ一體ノ心性ノ上ニ生スル所ノ變化ナレバナリ之ヲ喩フルニ一樹木ニ色ヤ形ノ諸性質ヲ具スルガ如シ我人ノ樹木ヲ樹木トシテ知ルハ此諸性質ヲ具スルニヨル故ニ樹木ノ色ヲ想スレバ其形從フテ起リ形ヲ想スレバ其色從フテ生ズルナリ是ヲ以テ我人ノ心性作用ヲ見ルニ時時刻刻一物ヲ感ズ

ルニモ一事ヲ思フニモ種種ノ作用毎ニ相連接シテ起リ獨リニヲ現シテ他ヲ現セザルコト能ハサル所以ヲ知ルベシ此ノ如ク三者ノ關係密切ナルヲ以テ互ニ相抗排スルノ性アルモ又互ニ相連接シテ發達スルノ性アリ即チ智力ニ發達シタルモノハ情感意志ノ力モ從フテ發達スルノ性アルヲ云フ當時西洋人ト東洋人トヲ較ブルトキハ西洋人ノ智力情力意力共ニ東洋人ヨリ發達スルヲ見野蠻人及ビ小兒等ハ三力共ニ發達セザルヲ見ル

第八段 心力分量 此ノ如ク心性作用ニ抗排性ト連接性ノ存スル所以ハ各人有スル所ノ心力ニ一定ノ分量アルモノト推想シテ知ルベシ例ヘバ爰ニ甲乙兩人アリ甲ハ六十度ノ心力ヲ有シ乙ハ百二十度ノ心力ヲ有スト定メ其分量ハ生來具スル所ノモノト教育習慣ニ

ヨリテ得ル所ノモノトノ別アリテ時時多少ノ増減ナキニアラズト雖モ大凡此ノ如キ一定ノ分量アリテ甲ハ乙ト同等ナル作用ヲ呈スルコト能ハザルベシ即チ乙ハ甲ノ二倍ノ力ヲ現ズルコトヲ得ベキナリ若シ其力ヲ三分スルトキハ第三圖ニ示ス如ク乙ハ四十度甲ハ二十度トナルベシ即チ乙ハ智力モ情感モ意力モ共ニ甲ニ倍スルノ力ヲ有スルナリ縱ヒ其割合三者平均セザルモ乙各部ノ力ハ通常甲各部ヨリ多キハ當然ノ理ナリ是ヲ以テ小兒ヨリハ大人野蠻人ヨリハ開明人ハ三種ノ心力共ニ長ズルナリ又開明人中ニモ三力ノ共ニ發達セルモノトセザルモノノ別アル所以亦知ルベシ若シ更ニ抗排性ノ起ル所以ヲ考フルトキハ第三圖中ノ甲圖ニ掲グルガ如ク智力情感意志各二十度ノ力ヲ現ズベキ割合ナルニ其一部分四十度ノ力

第 三



三

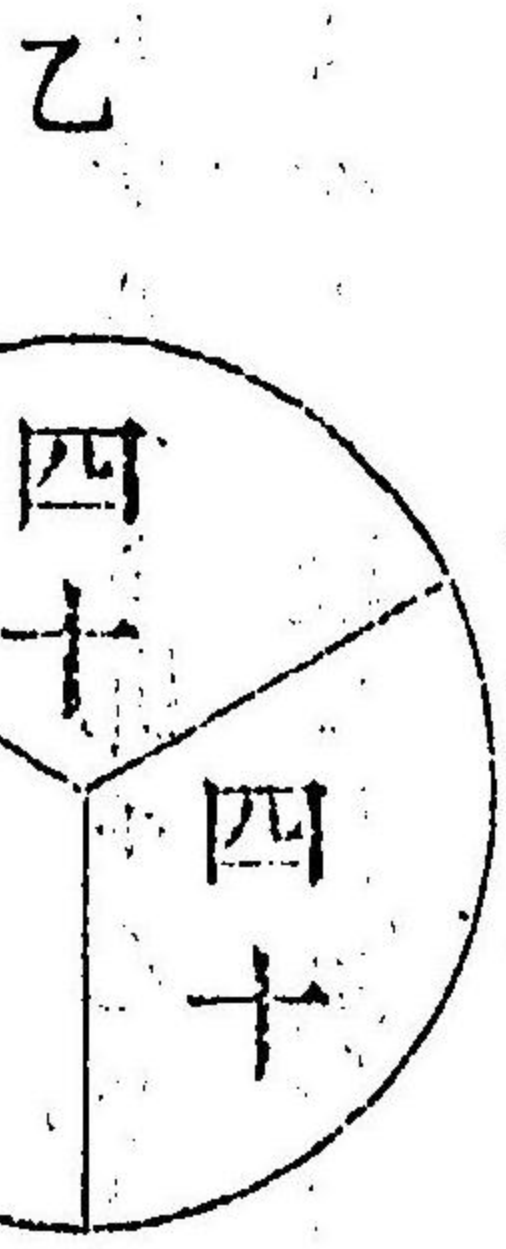
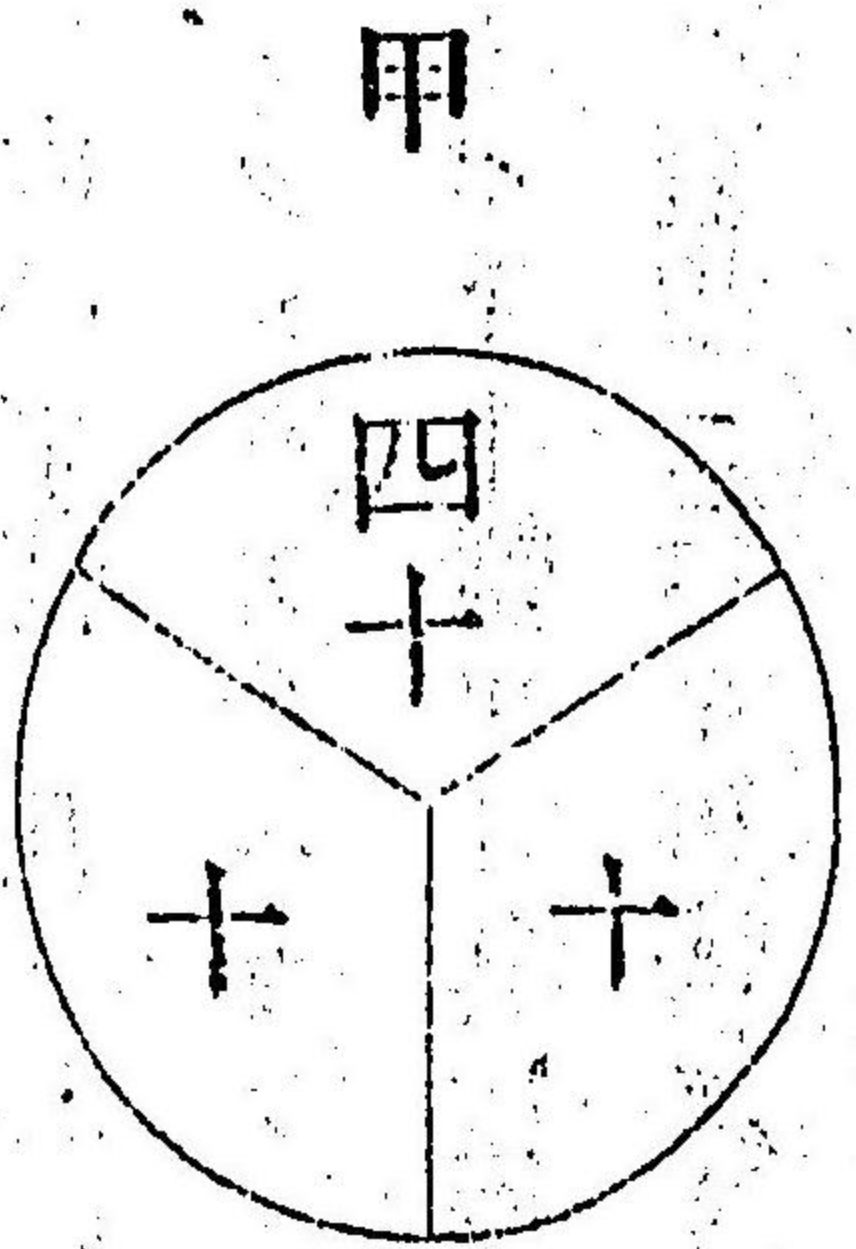


圖 乙

ヲ發スルトキハ他ノ部分ハ各十度
ノ力ニ減ズベキ理ナリ故ニ智力盛
シナルトキハ他力減シ他力盛シナ
ルトキハ智力減ズベシトス或ハ甲
ハ其總體ノ力乙ノ半分ニ當ルモ其
一部ノ力ハ時宜ニヨリ却テ乙ニ超
ユルコトアリ例ハ甲ノ情感四十
度ニ達シ乙ノ情感三十度ニ減ズル
トキハ甲ハ乙ヨリ十度多キ情感力
ヲ發スベキ理ナリ即チ第四圖ヲ見テ知ルベシ是ヲ以テ野蠻人モ其
一部分ノ力ニ至リテハ或ハ開明人モ及バザルコトアリ此規則ハ管

ニ智力情感意志ノ三力ニ適用スベキノミナラズ例ハ感覺中五感

第 四



四

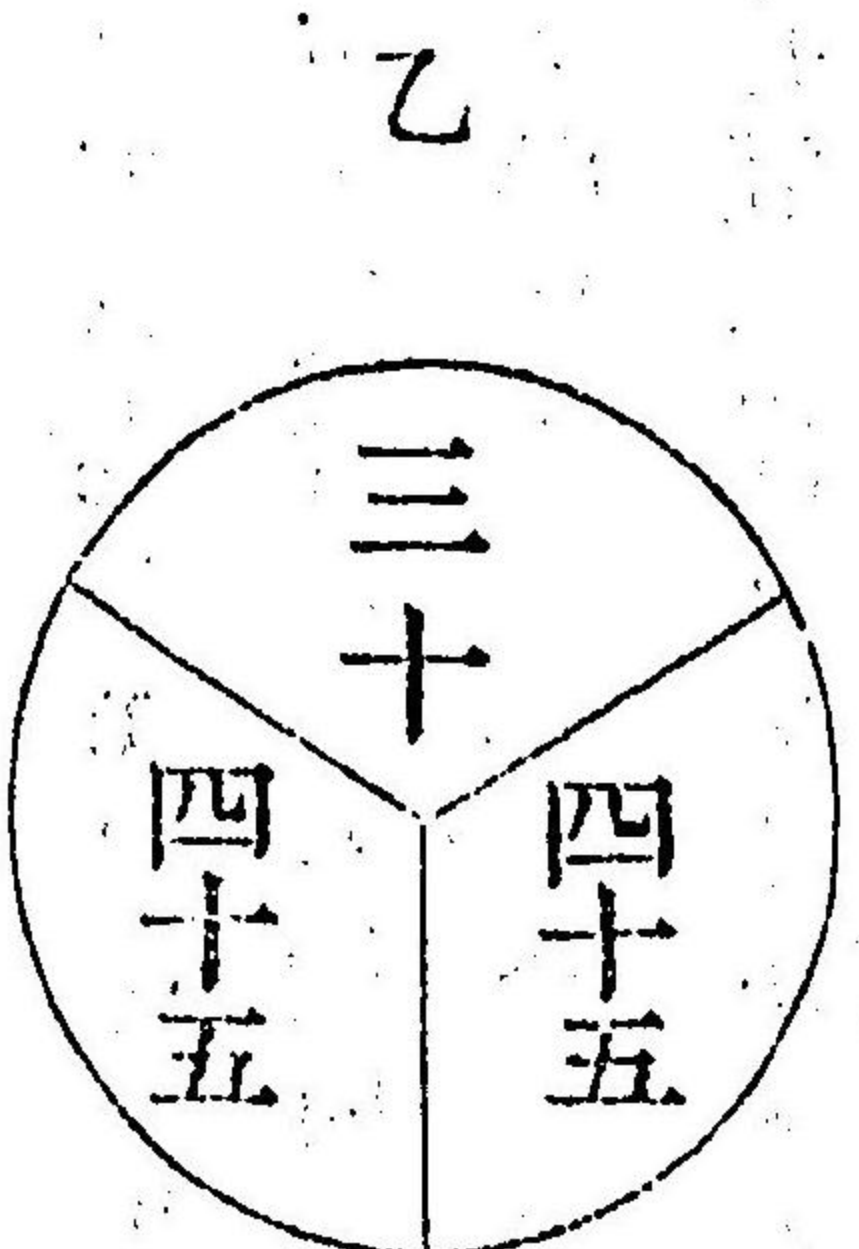


圖 乙

各四度ノ力ヲ有スルモノト定ムル
ニ其一感ヲ欲クモノハ他感ノ力各
一度ヲ増スベキ割合ナリ是ヲ以テ
盲人ノ聽覺又ハ觸覺ノ力ニ長ズル
所以ヲ知ルベシ此ノ如ク心性ノ一
部ニ心力ノ集合スルニ至ルモノ之
ヲ意向ノ作用ト名ク意向トハ注意
ノ事ニシテ心力ノ一方ニ向フテ會
注スルヲ云フ一方ニ會注スレバ他方ノ力ヲ減シ他方ノ力ヲ減ズレ
バ一方ノ力ヲ増スベキ理ハ心力ニ一定ノ分量アリト定メテ知ルベ

シ今爰ニ一例ヲアゲテ意向ノ作用ヲ示スニ諸君ガ外物ヲ觀ントスレバ心力目ノ方ニ向ヒ聽カントスレバ耳ノ方ニ向ヒ考ヘントスレバ智力ノ方ニ向フモノ是レ即チ意向ノ作用ナリ此作用ニヨリテ心力ノ一方ニ集合スルハ如何シテ生ズルカト云フニ之ヲ促ス所ノ事情アルヤ必然ナリ故ニ余ハ爰ニ其事情ノ一二ヲアゲテ諸君ニ心力ノ増減時宜ニ從フテ變更スル所以ヲ述ブベシ

第九段 内外事情 凡ソ心性作用ノ生滅スルニハ其生滅スベキ原因事情ナクンバアルベカラズ其起ルニハ起ルベキ原因アリ其歇ムニハ歇ムベキ事情アリ其發達スルニハ發達スベキ原因アリ其衰頽スルニハ衰頽スベキ事情アリ情感ノ動クニモ智力ノ發スルニモ意志ノ現ズルニモ皆各其源因事情アリテ然ルナリ其源因ハ主トシテ

外界ノ事情ニアリ凡ソ我人ノ身體ノ周圍ニ接スル所ノ外界ノ諸象ハ之ヲ環象ト云フ環象ニ變化ヲ現スレバ内界ニ又變化ヲ生ズ例ヘバ聲色寒煖ノ五官ニ觸ルルトキハ必ズ心性作用ヲ促スガ如シ智力ノ發達モ全ク環象ノ變化ニ屬スルヲ以テ變化ニ接スルコト多キモノハ從フテ智力ノ量ニ富ミ少キモノハ從フテ智力ノ量ニ乏シ是レ他ナシ智力ハ經驗ニヨリテ發達スレバナリ又心性作用ハ有機組織内ノ變化ニヨリテ増減生滅スルコトアリ例ヘバ内臟五官神經等ニ病害擾亂ヲ生ズルトキハ必ズ其影響ヲ心性ノ上ニ及ボシ榮養其宜ヲ得血行其序ヲ失ハズ身體健全ナルトモハ心性作用モ亦從フテ活潑ナリ且ツ精神ハ一定ノ時間之ヲ用フレバ疲勞スルノ性アルヲ以テ體息或ハ睡眠ノ後ニハ別シテ其作用ノ活潑ナルヲ覺シ其他最モ

心性作用ノ發動ヲ促スモノハ思想ノ連合ニシテ思想ノ連合トハ二三ノ事物數回相伴フテ起ルトキハ其事物ノ間ニ數多ノ思想互ニ相連合シテ其中ノ一事又ハ一物ノ前ニ現スルアレバ之レト連合セル事物オノヅカラ想起スル規則ヲ云フ例ヘバ諸君ガ向島ニ到ル毎ニ櫻花ヲ見團子坂ヲ問フ毎ニ菊花ヲ見ルトキハ向島又ハ團子坂ノ事ヲ聞ク毎ニ櫻花或ハ菊花ヲ思ヒ出シ又菊花ノ事ヲ聞ク毎ニ團子坂ヲ思ヒ櫻花ノ事ヲ聞ク毎ニ向島ヲ想スルガ如シ其他諸君ガ墓處ヲ過レバ幽靈ヲ思ヒ出シ僧侶ニ遇ヘバ寺院ヲ思ヒ出シ重箱ヲ見レバ牡丹餅ヲ思ヒ樽ヲ見レバ酒ヲ思フモ皆思想ノ連合ナリ之ヲ連想ノ規則ト云フ凡ソ一種ノ心性作用起ルコトアレバ數多ノ作用前後相接シテ起ルモノ皆此規則ニ由ル以上舉グルガ如キ規則事情ニヨリ

テ心性作用ノ生滅増減ヲ來スコト明カナリ意向ノ一方ニ注ギ他方ニ減ズルモ此内外ノ諸事情ニヨルヤ亦疑ヲ容レザルナリ斯ク内外ノ事情ヲ論シ來レバ身心ノ關係ヲ述ブルノ必要ヲ知ル故ニ余ハ是レヨリ身心ノ相關スル所以ヲ一言セントス

第十段 身心關係 人ノ身體ト心性トハ密着ノ關係ヲ有スルコトハ諸君等ノ常ニ經驗スル所ニシテ今更ニ其證ヲ求ムルヲ要セザルナリ諸君ハ心ニ快樂ヲ感ズルトキハ之ヲ外貌ニ發現スルヲ常トス或ハ之ヲ顔ニ發シテ喜ビ口ニ發シテ笑ヒ或ハ之ヲ手足ニ發シテ踏舞スルコトアルニ至ル若シ之ニ反シテ苦痛ヲ感ズルトキハ顔色言語舉動皆苦痛ノ狀ヲ呈スルニ至ル是ヲ以テ人ノ外貌ヲ一見シテ其人ノ心中ヲ推量スルコトヲ得ルナリ啻ニ其心ノ苦樂ヲ推量シ得ル

ノミナラズ賢愚利鈍正邪善惡マデモ多少推量シ得ルナリ學者ニハ
 學者ノ人相アリ農夫ニハ農夫ノ人相アリ狂人ノ顔色ハ一見シテ人
 皆狂人ナルヲ知ルベシ人相見ノ能ク人ノ思フ所ヲ考定シ探偵方ノ
 能ク盜賊罪人ヲ發見スルモ皆身心ノ關係密切ナルニ由ル在昔藤原
 秀郷ハ平將門ト共ニ食シ將門ノ飯粒ヲ前ニ墜シ拾フテ食シタルヲ
 見テ其性粗忽ニシテ共ニ大事ヲ謀ルニ足ラザルヲ知り去リテ貞盛
 ニ從ヒタルコトハ諸君ノ已ニ知ル所ナリ是レ人ノ舉動ヲ見テ心性
 ノ如何ヲ推量シタル一例ナリ次ニ心性ト神經ノ關係別シテ腦髓ノ
 關係ヲ一言スベキ處ナレドモ姑ク爰ニ之ヲ略シ各論中ノ神經論ニ
 入リテ其關係ノ要點ヲ證明スベシ

第三講

總論第一

發達論

第一段

心性發達

第二段

智力發達

第三段

發達外因

第四段

發達原力

第五段

發達事情

第六段

發達全圖

第七段

情感發達

第八段

意志發達

第九段

遺傳順應

○通信教授心理學

第十段 身體發達

第一段 心性發達 余前講ニ於テ心性ニ數多ノ種類アルコトヲ述ベタレドモ其種類ノ多少ハ發達ノ前後ニヨリテ不同アリ幼少ノ時ニアリテハ其種類少ナク長ズルニ及ビ其數ノ増加スルハ諸君モ已ニ知ル所ナラン例ヘバ今一箇人ノ生長ニツイテ考フルニ情緒ハ大數十種アリト定ムルモ幼兒ニアリテハ僅ニ喜怒ノ二種ヲ有スルニ過ギズ尙ホ其初期ニ派レバ唯苦樂ノ感覺ヲ有スルノミニテ別ニ情緒ト稱スベキ程ノ作用アルヲ見ズ別シテ道理ヲ辨別スベキ智力及ビ行爲ヲ指定スベキ意カノ如キハ其固ヨリ有セザル所ナリ之ヲ要スルニ發達ノ初期ニアリテハ情感智力意志各種中ノ諸作用未ダ現セザルノミナラズ三大種ノ作用スラ未ダ判然相分レズシテ唯感覺

運動ノ二作用アルヲ見ルノミ漸ク發達シテ始メテ三種ノ作用相分レ愈ニ生長シテ始メテ各種中數多ノ諸作用ヲ分ツニ至ルナリ次ニ之ヲ人種間ニ考フルニ野蠻人種ノ如キハ感覺運動ノ外ニ極メテ下等ナル情緒ヲ有スルニ過ギズシテ開明人種ニアラザレバ高等ノ情感智力意志ヲ有セザルヲ見ル此ノ如ク心性作用ハ發達ノ前後ニヨリテ不同アルヲ以テ今諸君ガ心性ノ何タルヲ知ラント欲セバ其發達ノ順序次第ヲ知ラザルベカラズ余モ亦之ヲ論ゼザレバ諸君ニ智力ハ何ヨリ來リ情感意志ハ何ヨリ生ズルカヲ示ス能ハズ是レ余ガ爰ニ種類論ニツギテ發達論ヲ述ブル所以ナリ種類論ハ已ニ發達シタル心性ノ上ニ種類ヲ分チテ其性質關係ヲ論ズルモノニシテ發達論ハ其種類ノ未ダ分レザル初期ニ派リテ心性發達ノ順序次第ヲ考

フルモノナリ之ヲ喻フルニ動物學者ガ其學問ヲ研究スルニ當リテ
 一箇ノ動物造構機能ヲ實究スル外ニ其母胎ヨリ次第ニ發育スル順
 序ヲ搜索スルヲ要スルガ如ク今心理學ヲ論究スルニモ亦此二者ノ
 方法ヲ要スルナリ然ルニ古代及ビ東洋ノ心理學者ハ心性ノ種類ヲ
 論ズルニ至リテ其發達ノ順序ヲ考フルコト甚ダ稀レナリ是レ心理
 研究ノ一大缺點ト謂フベシ而シテ今日ニテ發達上心性ノ如何
 ヲ考索スルニ至リシハ心理研究法ノ一大進歩ヲ徵スルニ足ル
 余ハ是ヨリ心性各種ノ發達ヲ述ブルニ先キテ心力一般ノ發達ヲ略
 明スルニ抑人々心性ハ其身體ト共ニ發達スルハ勿論ニシテ其順序
 恰モ一箇ノ種子ヨリ草木ノ次第ニ生長スルガ如ク種子ノ開發ハテ
 莖幹枝葉ヲ生ズルハ心性ノ原體開發シテ情感智力意志ヲ生ズルニ

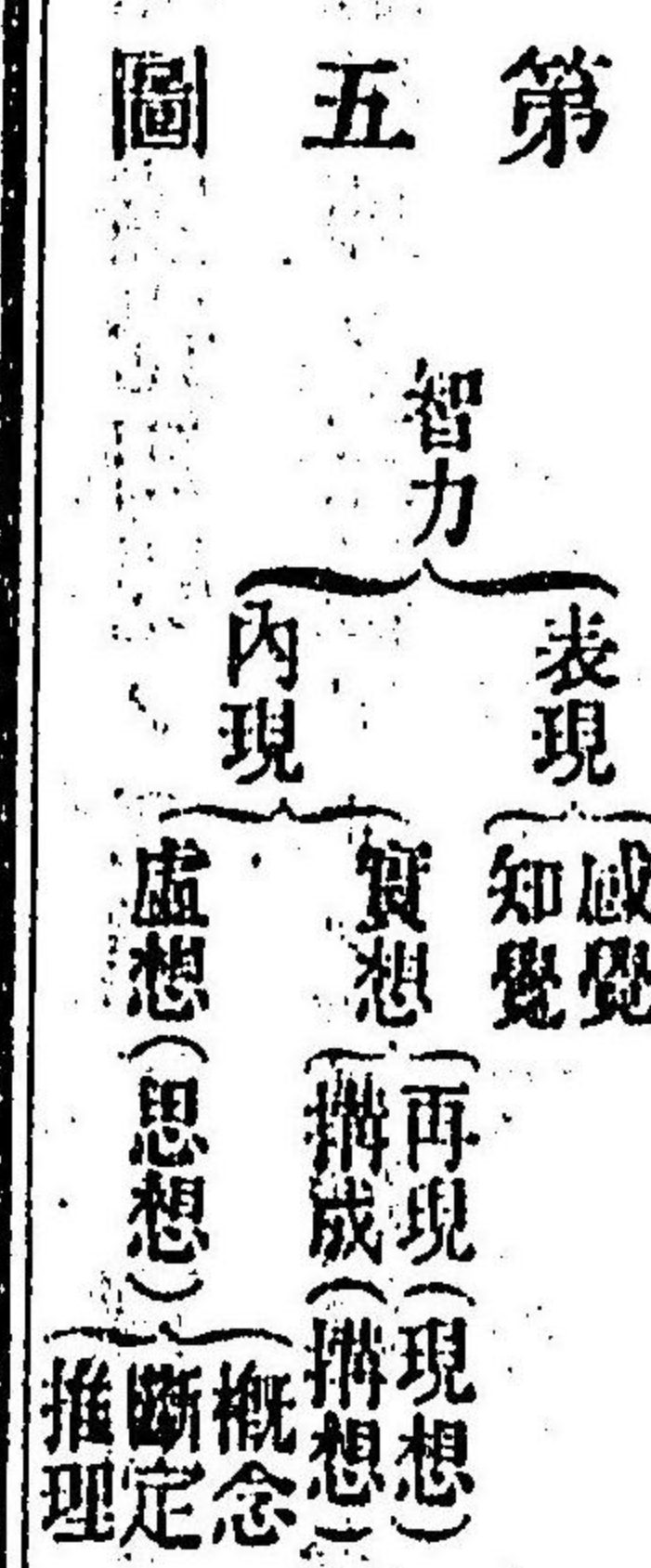
此スベシ若シ人アリ其原體ハ何レヨリ來ルカト問ハハ之ニ答ハテ
 其體父母ヨリ來ルト云フベシト雖モ更ニ其父母ノ原體ハ何レヨリ
 來ルト問ハハ之ニ答ハルニ天帝創造ヲ説ク以テ世ザレハ生物進化
 ノ理ヲ以テスルヨリ外ニシ生物進化ノ理ヲ以テ之ヲ推スニ心性ハ
 物質ヨリ成リ心力ハ物カヨリ來ルト云フコトヲ得ベシ何者人類ハ
 動物ヨリ進化シ動植ハ無機體ヨリ成來スレバチ以テ動植ヲ無
 機ヨリ成來スル所以ハ地球進化ノ次第ヲ見テ知ルベシ地球ハ其形
 成ノ初期ニアリテハ非常ノ高熱ヲ有セシヲ以テ今日其表面ニ現ス
 ル所ノ禽獸草木金石水土ハ當時皆蒸發或ハ溶解シテ存シ未ダ固體
 ヲ結ブニ至ラザリシハ必然ナリ地熱漸ク減シテ流體固體ノ諸形ヲ
 現スルモ當時ノ熱度未ダ禽獸草木ノ如キ生物ヲ存スルニ至ラズ更

ニ減シテ始メテ生物ヲ現ヌルモ其初ニアリテハ極メテ下等ノ動植物ヲ生存スルニ過ギズ下等動物愈進化シテ高等動物ヲ現スルモ未ダ人類ヲ見ルニ至ラズ高等動物更ニ進化シテ始メテ人類ヲ地球上ニ現スルニ至ルト云フ之ヲ要スルニ其意今日ノ人類ハ動植物ヨリ分化シ當時ノ動植物ハ無機物質ヨリ成來スト云フニアリ而シテ其分化ノ順序ハ地層ノ遺痕ヲ見テ知ルベシト云フ此規則ニ從フテ心性ノ發達ヲ考フルニ今日ノ人ハ情感意志智力三種ノ作用ヲ有スルモ動物界ニ入りテ之ヲ視ンバ僅ニ感覺運動ヲ有スルニミテ情緒智力等ト稱スベキ作用ヲ有スルヲ見ズ降リテ植物界ニ入レバ感覺運動スレ全ク有セザルモノシ如シ更ニ降リテ金石水土ノ如キ無機界ニ入レバ生長力スレ全ク有セザルナリ是ニ由テ之ヲ視ルニ人ハ

心性ハ其初全ク之ヲ有セザルモノヨリ進化開發シテ來ル所以稍知ルベシ縱ヒ其初無機物ヨリ來キテト云フモ極メテ不完全ナル感覺運動ヲ有スルモノヨリ來ルノ理亦大ニ信ズルニ是ル蓋シ其不充分ナル感覺ハ發達シテ情感トナリ其運動ハ發達シテ意志トナリ此二者ノ間ニ生ズルモノハ智力ニシテ其體亦感覺ヨリ發達スルナリ且ツ方今ノ學說ニヨルニ一箇人ノ發達ノ順序ハ每次動物全體ノ進化ノ階級ヲ經過スルナリト云フ其意人ノ母胎ヨリ次第ニ生長スルハ最下等動物ノ次第ニ階級ヲ追テ高等ニ進化スル同一ノ順序ヲ經過スルト云フニアリ果シテ然ラバ人ノ心性ノ諸作用ハ其初極メテ不充分ナル感覺運動ヨリ發達スル所以亦知ルベシ其他今日ノ哲學者中ニハ唯物論者ト稱スル一派アリテ物理ヲ離レテ別ニ心理スル

ニアラズ物カヲ離レテ別ニ心カアルニアラズト云フ然レドモ余ガ
 爰ニ論セント欲スルモノハ人類ハ動物ヨリ來リ有機ハ無機ヨリ求
 ルト云フノ點ニアラズ又物質ノ外ニ心性ナク物カノ外ニ心カナ
 ト云フノ點ニアラズシテ唯心性ハ身體ト共ニ發達スルヲ以テ其
 初期ニアリテハ極メテ簡單不充全ナルモノノ經驗習慣ニヨリテ次第
 ニ發達分化シ終ニ數多ノ作用ヲ現スルニ至ルト云フノ點ニアリ之
 ヲ爰ニ發達論ト名クルナリニ
 第二段 智力發達 是レヨリ心性各種ノ發達ヲ述ベントスルニ先
 ツ智力ノ發達ヲ論ズルヲ必要ナリトス智力ハ心性ノ内部ニ位シ諸
 作用ノ中心トナルヲミナラズ人類ノ動物ニ異ナリ開明人ノ野蠻人
 ニ異ナリ大人ノ小兒ニ異ナル所以ノモノ主トシテ此力ノ發達セザ

トセザルトニヨル其力發達セルモノハ情感意志モ從テ發達シ其
 力發達セザルモノハ諸作用亦從テ發達セザルナリ若シ人ニ向フ
 テ人類ト動物ノ區別ヲ問ハバ人類ハ智力ヲ有シ動物ハ之ヲ有セズ
 ト云ハシノミ心理學中智力ヲ研究スルノ必要ナル推シテ知ルベシ
 故ニ余モ專ラ智力ノ發達ヲ論シテ其順序ニツイテ各論ヲ起サント
 欲スルナリ今其順序ヲ案ズルニ智力中ニ表現内現ノ別アリ内現中
 ニ實想虛想ノ別アリ而シテ虛想ハ實想ヨリ來リ内現ハ表現ヨリ來
 ル之ヲ發達ノ次第ト云フ其圖左ノ如シ



即チ表現ニ感覺知覺ノ二種アリ實想ニ現想構想ノ二種アリ虚想ニ
概念斷定推理ノ三種アリ之ヲ發達ノ次第ニ配スルトキハ左圖ノ如
シ

第一次 感覺

第二次 知覺

第三次 現想

第四次 構想

第五次 概念

第六次 斷定

第七次 推理

即チ智力ノ發達ハ感覺ヲ始マリ推理ニ終ル然ルニ爰ニ一言ヲ加テ

ザルヲ得ザルハ感覺ヲ智力ノ一部トナスニアリ先キニ掲グル所ノ
分類法ニヨルニ感覺ハ情感ノ一部ニ屬スベシト雖モ第三講第二段
ノ終ニ示ス如ク我人感覺上外物ヲ識別スルノ作用アルヲ以テ感覺
ハ知覺ヲ構成スル要具ナリ故ニ智力ノ發達ヲ論ズルニハ先ツ感覺
ヨリ始メザルベカラズ夫レ感覺ハ外物ノ眼耳鼻舌皮膚ノ五官ノ上
ニ觸レテ直接ニ起ス所ノ簡單ナル心作用ニシテ其作用ハ唯目
ニ色ヲ感シ耳ニ聲ヲ感シ手ニ形ヲ感シ鼻舌ニ香味ヲ感ズルニ止マ
リ其諸性質ヲ合覺シテ一體ノ物質ヲ識了スルニアラズ能ク其性質
ヲ合覺シテ一物ヲ一物トシテ識了スルハ知覺ノ作用ナリ故ニ知覺
ハ心性作用ノ稍複雑ナルモノナリ例ヘバ爰ニ一箇ノ林檎アランニ
目ニ見テ其色ヲ感シ手ニ觸レテ其形ヲ感シ口ニ味フテ其味ヲ感ズ

ルハ感覺ニシテ其色其形其味ヲ合シテ之ヲ一箇ノ林檎ナリト識了スルハ知覺ナリ故ニ知ルベシ知覺ハ諸感覺相合シテ生ズル所ノ結果ナルヲ之ヲ喩フルニ木石相集合シテ一字ヲ構成スルガ如ク其木石ハ感覺上來ル所ノ外物ノ性質ニ比スベク之ヲ集合シテ一字ヲ構成スルハ知覺ノ作用ニ比スベシ而シテ此感覺ト知覺トノ二者ハ共ニ直チニ外界ノ現象ニ接シテ起ルヲ以テ之ヲ爰ニ表現的ニ屬スルナリ次ニ内現的ノ發達ヲ考フルニ其第一ニ位スル再現即チ現想ハ目前ニ現セザルモノヲ想像上ニ現スル作用ナルヲ以テ之ヲ内現ニ屬スルナリ例ヘバ他邦ノ友人ヲ想出シ故郷ノ山河ヲ想見スルノ類是レナリ此ノ如キハ前時ニ外界ニ現見シタルモノノ再ビ心内ニ現出スルモノナルヲ以テ之ヲ再現ト名クルナリ又再生トモ稱スルコトアリ而シテ其心内ニ現出スル所ノモノ其以前一回又ハ數回感覺上知覺シタルモノニ外ナラザルヲ以テ其體知覺ヨリ來ルモノトスルナリ之ヲ喩フルニ再現ハ寫真中ノ影像ノ如ク外物ノ目前ニ現セザル時ニ能ク其形ヲ示スト雖モ其形ノ初メテ生ズルハ前已ニ外物ニ接シタルコトアレバナリ次ニ構想トハ未ダ一回モ直チニ其形ニ接セザル外物ノ現象ヲ想像上構成スル作用ヲ云フ故ニ之ヲ構想ト名ク例ヘバ我人數百年前ノ古人ヲ想起シ未ダ經歷セザル土地ヲ想見スルガ如シ即チ諸君ガ今日ニアリテ釋迦ヤ孔子ノ狀貌ヲ想出シ地獄極樂ノ風景ヲ想起スルガ如シ我人ノ夢中ニ現スル所ノモノ多クハ此構想ノ作用ニヨル其作用ノ現想ニ異ナルハ一ハ未ダ經驗觸知セザルモノヲ構成シ一ハ已ニ經驗觸知シタルモノヲ再現スルノ

トアリ而シテ其心内ニ現出スル所ノモノ其以前一回又ハ數回感覺上知覺シタルモノニ外ナラザルヲ以テ其體知覺ヨリ來ルモノトスルナリ之ヲ喩フルニ再現ハ寫真中ノ影像ノ如ク外物ノ目前ニ現セザル時ニ能ク其形ヲ示スト雖モ其形ノ初メテ生ズルハ前已ニ外物ニ接シタルコトアレバナリ次ニ構想トハ未ダ一回モ直チニ其形ニ接セザル外物ノ現象ヲ想像上構成スル作用ヲ云フ故ニ之ヲ構想ト名ク例ヘバ我人數百年前ノ古人ヲ想起シ未ダ經歷セザル土地ヲ想見スルガ如シ即チ諸君ガ今日ニアリテ釋迦ヤ孔子ノ狀貌ヲ想出シ地獄極樂ノ風景ヲ想起スルガ如シ我人ノ夢中ニ現スル所ノモノ多クハ此構想ノ作用ニヨル其作用ノ現想ニ異ナルハ一ハ未ダ經驗觸知セザルモノヲ構成シ一ハ已ニ經驗觸知シタルモノヲ再現スルノ

不同ナルニ由ル而シテ第一者ノ第二者ヨリ發達シテ來ルト云フ所
 以ハ構想ノ諸部分ハ皆現想ノ影像ヨリ成ルヲ見テ知ルベシ例ヘバ
 釋迦ヤ孔子ヲ想見スル時ハ自己ノ經驗中前ニ見聞シタル人ノ顔色
 容貌相合シテ一箇ノ異人ヲ生ズルナリ 若シ其人前ニ已ニ釋迦孔子ノ木像
 又ハ畫像ヲ現見シテ其像ヲ想出ス
 ルトキハ之ヲ再現ニ屬スベシ然ルニ今ハ其
 像ヲ現見セザルモノト假定シテ論ズルナリ 即甲某ノ鼻ト乙某ノ目ト丙某ノ
 手足等相合シテ孔釋ノ像ヲ構起スルナリ地獄極樂ノ影像ヲ想見ス
 ルモ亦此理ニ由ル故ニ構想ハ現想ヨリ成ルモノト知ルベシ次ニ虛
 想即思想又ハ觀想ハ一箇一箇ノ事物固有ノ性質ヲ離レテ事物一般
 ニ渉ル所ノ無形ノ念慮ニ與フルノ名ナリ之ニ對シテ一箇一箇ノ事
 物ヲ想出スルニ止マル所ノ現想及構想ハ實想ト名クルナリ虛想ニ
 ハ概念斷定推理ノ三種アリテ概念トハ事物ノ一種又ハ一類全體ニ

渉ル思想ヲ云フ例ヘバ單ニ人ヲ稱スルトキハ我人ノ心中ニ甲某乙
 某ヲ離レテ人全體ニ渉ル思想ヲ起シ單ニ山ト稱スルトキハ富士山
 云モナク筑波山テモナク山一般ヲ渉ル思想ヲ生ジ花ト呼ブモ亦然
 リ此々如ク事物全體ニ渉ル思想ヲ概念ト名クルヲ以テ此概念ハ實想
 ノ發達ヨリ生ズルハ理已ニ明カナリト信ズ何者未ダ一箇一箇ノ事
 物ノ實想ヲ有セザル時ニ其全體ニ渉ル虛想ヲ有スベキ理ナケレバ
 ナリ次ニ斷定ハ二個以上ノ概念相合シテ生ズル所ノ思想作用ヲシ
 テ何ハ何ナリ是レハ是レナリト想定スル作用ヲ云フ例ヘバ人ハ死
 スベキモノナリ山ハ動カザルモノナリ花ハ美ナルモノナリト云フ
 ガ如シ次ニ推理ハ斷定相合シテ生ズル所ノ論理作用ニシテ一斷定
 ヨリ次第ニ推論シテ他ノ斷定ヲ結ブモノヲ云フ例ヘバ人ハ皆死ス

ハキモノナリ然ルニ甲某ハ人ナリ故ニ甲某ハ死スベキモノナリト
論定スルガ如シ此論定ハ論理法ノ所謂推測式ナリト知ルベシ以上
述ブル所之ヲ要スルニ人ノ智力ノ發達ハ簡單ヨリ複雑ニ移リ表現
ヨリ内現ニ入り實想ヨリ虚想ニ進ムモノナリ其順序小兒ノ發育ヲ
見テ知ルベシ其初期ニナリテハ表現ノ諸覺ヲ有スルヲ以テ未ダ
内現ノ諸想ヲ有セズ稍長シテ實想ノ作用ヲ生ズルモ未ダ虚想ノ作
用ヲ發セズ愈長シテ始メテ概念斷定推理ノ諸作用ヲ兼備スルニ
至ルナリ已ニ今日ニアリテハ餘輩モ諸君モ共ニ此虚想作用ヲ有シ
別シテ推理ノ力ヲ有スルヲ以テ時時刻刻自ラ思慮スルニモ人ニ對
シテ說話スルニモ一言一思皆推理ノ形ヲ成ヌヲ見ル然ルニ獸類ニ
至リテハ其高等ニ位スルモハ表現ノ諸覺ヲ有スルノミナラズ内現

ノ諸想モ全ク有セザルニアラズ雖モ推理ノ力ニ至リテハ人類特
有ノ智力ヲ稱スルモ不可ナルコトカシ其特有ノ智力ハ人獸共有ノ
感覺ヨリ順序ヲ追フテ發達シ來ル所以ヲ示スモノ之ヲ智力發達ノ
次第ト云フ其詳ガナルハ各論ニ入りテ述ブベシ
第三段ノ發達外因ハ此發達ノ順序ニヨルニ智力ハ其初外界ノ經驗
ヨリ來ルコト明カナリ我人日夜外界ノ現象即チ環象ニ接シテ五官
ノ上ニ感觸スルモノ次第ニ心内ニ積集シテ智力ノ構造ヲ組成スル
ナリ之ヲ喩フルニ生物ノ食物ヲ外界ヨリ攝取シテ體內ノ榮養ヲ營
ムガ如ク智力ノ榮養發達ハ全ク外界ノ經驗ノ上ニ屬スルナリ故ニ
外界ノ經驗ヲ積ムコト多キモノハ智力ニ富ミ少キモノハ智力ニ乏
キヲ見ル是ヲ以テ小兒ノ智力少クシテ大人ノ多キ所以ヲ知ルベシ

又身體ノ發育ハ食物ノ分量ノ多少ニ關スルソミナラズ其性質ノ良
 惡ニ關スルガ如ク智力ノ發達モ上等良種ノ教育經驗ヲ得タルモノ
 ハ下等ノ教育ヲ得タルモノニ勝ルコト勿論ナリ是ヲ以テ野蠻人ノ
 開明人ニ如カザル所以ヲ知ルベシ之ヲ要スルニ以上述ブル所其意
 智力ヲ構成スベキ材料ハ全ク外界ノ經驗ヨリ來ルト云フニアリ
 第四段 發達原力 智力ハ材料ハ感覺上ノ經驗ヨリ來ルトスルモ
 心内ニ之ヲ構成スベキ原力ナクシバ其發達ヲ期スベカラズ恰モ身
 體ノ發育ニハ外界ヨリ攝取スル所ノ食物ヲ消化スベキ原力ノ腸胃
 中ニ存セザルベカラザルガ如シ而シテ其原力ハ感覺上ヨリ得ル所
 ノ材料ヲ結合シテ智力ヲ構成スルニ要スル所ノモノナルヲ以テ外
 界ノ經驗ヨリ來ルモノト定ムベカラズ若シ此原力ナクシバ何程外

界ノ經驗ヲ累ヌルモ智力ヲ發達スベキ理ナシ恰モ腸胃中ニ消化吸
 取ノ力ナクシバ何程食物ヲ外ヨリ取ルモ身體ノ發育ヲ營ムコト能
 ハザルガ如シ故ニ智力ノ發達ニ要スル所ノモノハ外界ノ經驗ノ外
 ニ之ヲ結合シテ智力ヲ構成スベキ原力ナリト知ルベシ其原力ニ三
 種アリ辨別力契合力記任力是レナリ辨別力トハ一物又ハ其性質ヲ
 他物又ハ他ノ性質ニ識別スル力ナリ契合力トハ一物又ハ其性質ヲ
 他物又ハ他ノ性質ニ合同スル力ナリ記任力トハ一タビ感受シタル
 モノヲ心内ニ保持シテ亡失セザラシムル力ナリ例ヘバ爰ニ一箇ノ
 林檎アリト假定スルニ之ヲ見テ林檎ナリト識了スルニハ先ヅ之ヲ
 林檎ニアラザルモノト辨別スルノ力ナクシバアルベカラズ又其林
 檎ノ他ノ林檎ト同一ノ性質ヲ有スルコトヲ認ムルノ力ナクシバ

此ベカラズ而シテ又此二カヲ以テ外物ヲ知覺想像スルニハ其以前
 經驗シタルモノヲ心中ニ保持スルソカナクシハアルベカラズ此三
 功ノ一ヲ欲クモ人其智力ノ作用ヲ現スルコト能ハザルハ明カナリ
 故ニ余ハ之ヲ智力發達ノ原力ト名クルナリ更ニ之ヲ家屋ヲ造營ス
 ルニ喩フルニ其家屋ノ體ヲ組成セル木石等ノ材料ハ外ヨリ來ルト
 スルモ之ヲ構成スベキカヲ内ヨリ加メザレバ家屋トナラザルガ如
 シ是ニ由テ之ヲ觀シテ智力ヲ發達ハ外界ノ經驗ト内界ノ原力ト相
 合シテ坐スル所ノ結果ト知ルベシト云フハ其理也
 第五段 發達事情 智力ヲ發達スル環象ト内力トノ結合作用ニナレ
 ル云々モ其作用ヲ促カシ其發達ヲ助ケル所ノ事情別ニナクシハ別
 果ベカラス嗚ルハ草木ノ生長ニ其種子ト肥料トニ屬スト云々別

其坐長ヲ促スベキ雨露日光等ノ事情ヲ要スル如シ故ニ余ハ其
 事情ヲ考案シテ動作習慣連想ト三種ヲルコトモ發見セリ第一動作
 中ハ心性作用ヲ實習ニシテ例ヘバ視聽ノ作用ヲ實習スレバ知覺力
 力從テ發達スルガ如シ恰モ手足ヲ動作スレバ其筋骨發達スルト
 同一理ナリ次ニ習慣トハ一名習性ト稱シ己キ一方ニ發達シタルモ
 ソハ常ニ其方向ニ進マントスルノ性アルヲ云フ而シテ此性ヲ起ス
 モハ動作ノ影響ニシテ動作反復スレバ益其性ヲ起シテ高等ノ地
 位ニ進向スルコトヲ得ルナリ次ニ連想トハ思想連合ト略稱ニシテ
 經驗中ニ現スル所ノ事物ノ思想互ニ相連合スルノ性アリテ一思想
 起ルトキハ他ノ思想伴フテ起ルノ規則ヲ云フナリ是レ智力發達ニ
 最モ影響ヲ有スル事情ニシテ現想構想虛想皆此事情ニヨリテ發達

スルナリ例へバ余輩ガ故郷ノ友人ヲ想出スルトキハ其人ノ面貌語聲ハ勿論其住居村落其父母親戚等種種ノ思想伴フテ起ルヲ見ル是レ昔日經驗セシ所ノモ以思想中ニ連合スルコトアルニ由ル之ヲ要スルニ智力ハ其原力ト外界ノ經驗ト片ヨリテ發達スルヲ勿論ナリト雖モ感覺相合シテ知覺ヲ生シ知覺相集リテ再現ヲ生シ再現相會シテ構想ヲ生シ構想相積ミテ虛想ヲ生シ概念ヨリ斷定斷定ヨリ推理ト次第ニ相生ズルニ動作習慣連想ト三事情ノ互ニ相助クルニヨリ又明カナリト以上ハ第六段ニ於テ論シタルノ如ク是レ第六段ニ情感發達ト以上ハ智力ノ發達ニ以テ論シタルノ如ク是レ情感意志ニツケテ考テ其同ニ規則ニ從フテ發達スルヲ見ル即チ外界ノ現象ト内界ノ原力トノ二種ノ源因ト動作習慣連想ト三

種ノ事情ニヨリテ表現ヨリ内現簡單ヨリ複雑ニ向フテ次第ニ發達スルヲ見ル先ヅ情感ノ發達ヲ考フルニ其初五官上ノ感覺ニ起リ漸ク進テ驚懼等ノ如キ簡單ナル情緒ヲ生シ愈進テ道德審美心ノ如キ複雑ノ情緒ヲ生ズルニ至ル而シテ其情ノ動作習慣連想ニヨリテ發達スル所以ハ前ニ準シテ知ルベシ

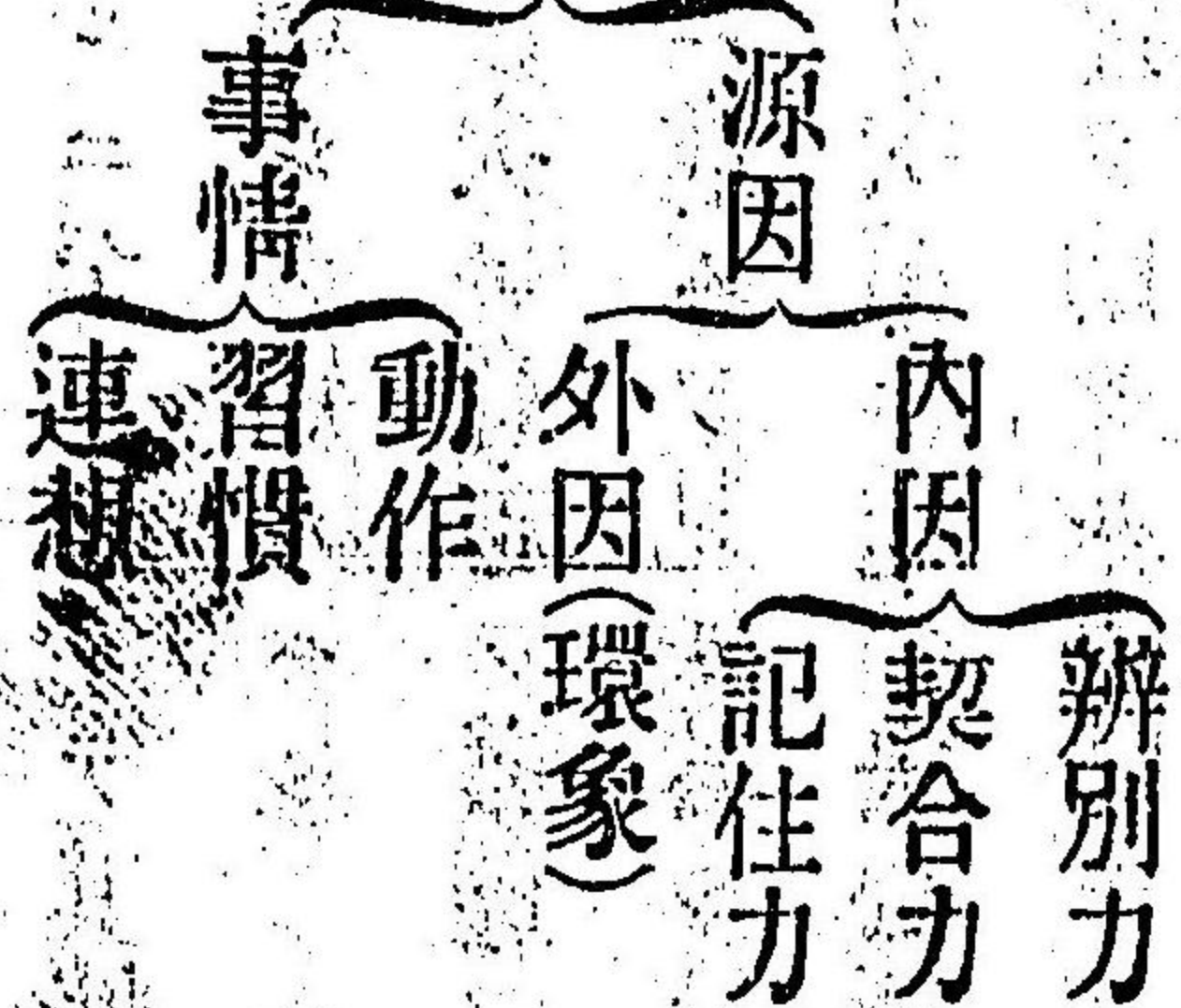
第七段 意志發達 次ニ意志ノ發達ヲ考フルニ又簡單ヨリ複雑ニ涉リ表現ヨリ内現ニ進ムヲ見ル蓋シ意志モ其初ハ身體手足等ノ簡單ナル運動ニ始マリ次第ニ進テ決心斷行撰擇ノ高等ノ意カヲ生ズルニ至ル且ツ其發達ヲ助クル事情モ前二者ト同一ナリ以上論ズル所之ヲ要スルニ智力モ情感モ意志モ同一ノ規則ニ從フテ發達スト云フニアリ

第八段 發達全圖 斯ノ如ク心性ハ内外ノ諸原因事情ニヨリテ發達スルヲ以テ今圖ヲ以テ示スコト左ノ如シ

第

六

心性發達



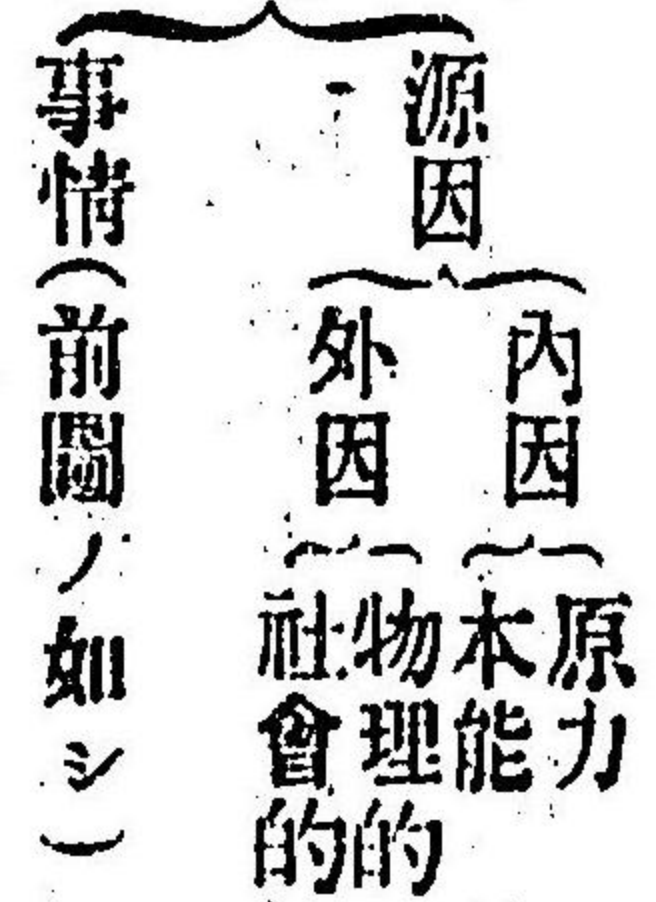
此圖中ニツイテ觀ルニ辨別契合記住ノ三カハ人人本來有スル所ナルモ其他ハ皆經驗ヨリ來ルモノノ如ク見ユレドモ爰ニ外界ノ經驗ヲ待タズシテ人人本來有スル所ノ本能ト稱スルモノアリ

人ノ生レナガラ有スル所ノ智力ニシテ例ヘバ幼兒ノ生レナガラ手足ノ動カスベキヲ知リ食物ノ食フベキヲ知リ父母ノ畏ルベキヲ知リ朋友ノ愛スベキヲ知ル等ノ類ヲ云フ故ニ内因中ニ原力ノ外ニ此本能力ヲ加フルヲ適當ナリトス其他外因中ニ風雨寒煖地味地形住居食物等ノ天然ノ現象ヨリ生スルモノノ外ニ同屬同類間ニ起ル所ノモノアリ即チ眷屬朋友國民ノ交接上ヨリ來ル所ノ源因是ナリ人ノ智力ノ發達ハ最モ此源因ニ屬ス故ニ余ハ此二種ノ外因ヲ區別セシ爲メニ一ハ物理的トシ一ハ社會的トスルナリ其圖左ノ如シ

第

七

心性發達



人一日間經驗シテ性質上變化ヲ來スハ順應ノ性アルニヨリ其變化ヲ保持シテ翌日ニ傳フルハ遺傳ノ性アルニヨル此日日時時ノ順應遺傳ニヨリテ人ノ心性ノ次第ニ發達スルハ小兒ノ發育ヲ見テ知ルベシ此ノ如ク解スルトキハ心性ノ發達ハ順應遺傳二種ノ規則ニヨルト云フモ不可ナルコトナキナリ

第十段 身體發達 今發達論ヲ結ブニ當リ心性ノ發達ハ身體ノ發達ニ伴フ所以ヲ略明セザルベカラズ先キニ屢述ゾル如ク心身ハ互ニ密切ナル關係ヲ有スルヲ以テ心性ノ發達ハ身體ノ發達ニ伴フハ必然ノ理ニシテ智力ノ發達ハ身體ノ組織中總シテハ神系全系列シテハ腦髓ノ發達ニ伴フモノナリ皆ニ腦髓ノ大小ニ關スルヲ以テナラズ其造構ノ單維ニ屬スルノ理亦知ルベシ智力ニ乏キ小兒ノ如キ

ハ腦髓ノ小ナルハ勿論ニシテ神經全系ノ造構モ之ヲ大人ニ比スルニ極メテ簡單ナルハ又明カナリ人類ト動物トヲ較スルモ亦此不同ノ著キヲ見ル其他情感意志ノ發達モ同一ノ關係ヲ有スルナリ故ニ心性ノ發達ハ神經腦髓ノ發達ニ密切ナル關係ヲ有スル所以ヲ知ルベシ尙ホ其詳カナルハ各論ニ入リテ述ブベシ

第四講 論神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容
神經論之範圍及內容

第四講

各論第十

神經論

第一段

各論緒言

第二段

身體組織

第三段

神經統系

第四段

腦髓性質

第五段

神經事情

第六段

情感發顯

第七段

心性起源

第八段

唯物論據

第一段 各論緒言 前二講八總論下題シテ心理學全體ニ涉ル所ノ

○通信教授心理學

性質事情ヲ述ベタルヲ以テ諸君ハ定メテ心性各種ノ異同及ビ其發達ノ順序ヲ大略了解セラレシナラント信ズ故ニ余ハ是レヨリ各論ニ入りテ心性作用ノ各種ニツイテ一其性質事情ヲ述ヘントス今之ヲ述ブルニ當リ心性作用中其最モ高等ニ位スル智力發達ノ順序ニツイテ研究ヲ施ス目的ナレドモ先ヅ第一ニ人身ノ構成神經ノ組織ヲ論ズルヲ必要ナリトス若シ之ヲ論ゼザルトキハ心性ノ所在及ビ心身ノ關係明カナラザルヲ以テ心性各種ノ作用モ亦明カナラザルノ恐レアリ且ツ今日ノ心理學ハ心象ノ學問ナルヲ以テ別シテ神經組織ヲ論ズルノ必要ナル所以ヲ知ルベシ故ニ余ハ神經論ヲ以テ各論ノ第一ニ置キ心性ノ所在ヨリ内想ノ發顯唯物ノ諸說ニ至ルマデヲ併セテ論明スル所アラントス

抑我人宇宙間ニ立チテ八方上下ヲ觀察スルニ森羅ノ諸象前後左右ニ並列スルヲ見自身モ其ノ萬象中ノ一物ナルヲ知ルベシ顧テ心内ノ事情ヲ觀察スルニ又千差萬別ノ諸想ノ間斷ナク連續スルヲ覺ヘ目前ニ現見スル所ノ諸象皆心内ヨリエガキ顯ハシタル影像ニ過ギザルヲ知ルベシ更ニ進テ自身ハ萬象中ノ一物ナルノ理ヲ究ムルトキハ唯物論ヲ結ズニ至リ萬象ハ心内ノ影像ニ過ギザルヲ理ヲ取ルトキハ唯心論ヲ生スルニ至ルナリ唯物論トハ物外無心ヲ論ニシテ物質ノ外ニ心性ナク物カノ外ニ生カナシト唱フルモノヲ云ヒ唯心論トハ心外無物ヲ論ニシテ天地萬物皆心内ニアリテ現存スト唱フルモノヲ云フ哲學上ヨリ之ヲ視レバ二者共ニ一理アリテ其眞非ヲ判決スル甚ダ難シト雖モ通俗ヲ解スル所ニヨレバ唯物論ヲ方正當

ヲ得タルモノノ如シ然レドモ單ニ物外無心ト斷言スルハ世人モ必
 ズ許サザル所ニシテ論理上一方ニ僻スルノ論タルヲ免レザルナリ
 故ニ余ハ敢テ唯物論ヲ主唱スルニアラズ且ツ之ヲ主唱スルハ普通
 ノ心理學ヲ講ズルニ要セザル所ナルヲ以テ唯余ガ爰ニ論セント欲
 スル點ハ我人ハ天地萬物間ノ一物ニシテ宇宙ノ一小部分ヲ占有ス
 ルモノト見做シ以テ心ノ所在ヲ示スニ過ぎズ而シテ其所在ヲ示シ
 テ心身ノ關係ヲ明カニスルニ至レバ物理上心理ヲ解釋スルノ順序
 ヲ述ベテ唯物論ノ起ル所以モ併セテ一言セントス之ヲ要スルニ此
 神經論ハ後論ヲ開クヲ端緒ニ過ギザルナリト知ルベシ
 第三段 身體組織 此ノ如ク前定シテ心性ノ所在ヲ考フルニ時間
 申存スル心性ニアラズ空間中ニ存スル心性ニテ日月星辰山

川草木中ニヤドル心性ニアラズシテ我人ノ身體中ニ發動スル心性
 ナルヲ知ルベシ已ニ心性ノ我人ノ身體中ニ存スル所以ヲ知ルトキ
 ハ其體中ノ如何ナル部分ニ存スルカヲ究メザルベカラズ之ヲ究メ
 ント欲セバ先ツ全身ノ組織ヲ考定スルヲ必要ナリトス抑人ノ身體
 ハ通常分ツ所ニヨルニ神經筋肉皮膚血液生殖器ノ五種トナス是レ
 組織上ノ分類ナリ若シ作用上之ヲ分ツトキハ營養機能運動機能輸
 送機能等ノ數種トナスベシ其中營養機能ハ腸胃肺等ノ營ム所運動
 機能ハ神經筋骨ノ營ム所輸送機能ハ心臟血管ノ營ム所ナリ故ニ或
 ハ此諸機能ヲ以テ社會ノ組織ニ比較スルコトアリ即チ腸胃等ヲ以
 テ農工等ノ製産部ニ比シ神經ヲ以テ政府ノ組織ニ比シ血管ヲ以テ
 水道陸路運輸ノ組織ニ比スルナリ今心性作用ハ此組織中ノ何レノ

部分ニ於テ營ムカヲ尋ヌルニ神經統系中ニアリテ營ムノ理ハ種種ノ實驗ヲ以テ已ニ證明スル所ナレバ更ニ爰ニ喋喋スルヲ要セザルナリ固ヨリ古代ニアリテハ人ノ呼吸氣ヲ心靈ノ精氣ナリト唱ヘ或ハ心臟ヲ以テ心性ノヤドル所ト信シ滿胸ノ不平滿腔ノ疑團ナドト稱シタレドモ今日ノ諸君ハ決シテ心性ノ肺臟ヤ心臟又ハ腸胃中ニアリテ存スルヲ信ズル人ニアラザルヲ知ル故ニ余ハ直チニ心性作用ハ神經中ニアリテ營ムモノト斷言シテ其全體ノ組織ヲ説キ示サント欲スルナリ

第三段 神經統系 神經ハ大ニ分チテ二類トナスロトヲ得曰ク神經細胞曰ク神經纖維是レナリ而シテ此二者ノ別ハ造構ノ異ナルヲ見ナラズ其色及ビ其主成分ノ割合皆異ナルヲ以テ其呈スル所ク作用又從ツテ異ナルヲ見ル即チ細胞ハ灰白色ニシテ纖維ハ白色ナリ

一ハ水量ヲ含ムコト多ク一ハ少シ一ハ其膜壁薄ク其内質稍柔カニシテ變化シ易ク一ハ之ニ反スルヲ以テ變化シ難キ等ノ異同アリ是ヲ以テ其作用亦不同アリテ一ハ中樞作用ヲ司ドリ一ハ傳導作用ヲ司ドルノ別アルヲ見ル此傳導ヲ司ドル纖維ニ又二種アリテ一ハ求心性神經ト名ケ一ハ遠心性神經ト名クルナリ求心性神經ハ其末端ニ受クル所ノ刺戟ヲ中樞ニ向フテ傳導シ遠心性神經ハ其中樞ニ起ル所ノ興奮ヲ末端ニ向フテ傳導スルモノトス故ニ感覺及知覺作用ヲ導ク所ノ神經ハ之ヲ求心性ニ屬シ運動ヲ導ク所ノ神經ハ之ヲ遠心性ニ屬スルナリ而シテ中樞作用ヲ司トル所ノ神經細胞ハ此二種ノ神經ノ中間ニ位シテ二者ヲ連結スルヲ以テ中心神經ト稱スルナ

用又從ツテ異ナルヲ見ル即チ細胞ハ灰白色ニシテ纖維ハ白色ナリ

一ハ水量ヲ含ムコト多ク一ハ少シ一ハ其膜壁薄ク其内質稍柔カニシテ變化シ易ク一ハ之ニ反スルヲ以テ變化シ難キ等ノ異同アリ是ヲ以テ其作用亦不同アリテ一ハ中樞作用ヲ司ドリ一ハ傳導作用ヲ司ドルノ別アルヲ見ル此傳導ヲ司ドル纖維ニ又二種アリテ一ハ求心性神經ト名ケ一ハ遠心性神經ト名クルナリ求心性神經ハ其末端ニ受クル所ノ刺戟ヲ中樞ニ向フテ傳導シ遠心性神經ハ其中樞ニ起ル所ノ興奮ヲ末端ニ向フテ傳導スルモノトス故ニ感覺及知覺作用ヲ導ク所ノ神經ハ之ヲ求心性ニ屬シ運動ヲ導ク所ノ神經ハ之ヲ遠心性ニ屬スルナリ而シテ中樞作用ヲ司トル所ノ神經細胞ハ此二種ノ神經ノ中間ニ位シテ二者ヲ連結スルヲ以テ中心神經ト稱スルナ

リ凡ソ神經細胞ハ一極又ハ多極ノ突起ヲ有シテ必ズ神經纖維ニ連
リ感覺運動ヲ前後傳導スルコトヲ得ルヲ以テ之ヲ傳信ノ組織ニ比
スベシ即チ其纖維ハ傳信線ノ如ク其細胞ハ傳信局ノ如キ作用ヲ有
スルナリ且ツ傳信局ハ中央本局ト各地分局ト二種アル如ク神經細
胞ニモ亦此別アルヲ見ル蓋シ神經細胞ヲ以テ成ル所ノ中心神經ニ
モ數多ノ種類アリテ之ヲ大別シテ腦髓延髓脊髓神經節ノ四種トス
ス此四種ノモノ皆中樞作用ヲ有スルヲ以テ之ヲ中樞器ト名クルナ
リ而シテ其中樞器中ノ腦髓ハ諸作用ノ最高等ニ位スルヲ以テ之ヲ
中央傳信本局ニ比シ其他ノ中樞器ハ各地ノ分局ニ比スベシ故ニ腦
髓ヲ以テ心性作用ノ本位ト定メザルベカヲザルナリ

第四段 腦髓性質 今腦髓ノ性質ヲ知ラシト欲セバ宜ク他ノ中樞

器ノ作用ヲ知ラザルベカラズ先ヅ脊髓ハ細胞ト纖維ト二種トシテ
ルヲ以テ傳導ヲ司トル外ニ中樞作用ヲ司トルモノトス蓋シ其作用
ハ反射的ニ屬シテ意志ノ命令ヲ待タズシテ起ル故ニ之ヲ自動作用
又ハ不隨意作用ト稱ス即チ脊髓ハ求心性神經ヨリ傳フル所ノ刺戟
ヲ其中樞ニ受ケテ直チニ之ヲ遠心性神經ニ傳ヘ其作用ヲ末端ニ呈
スルモ心中ニ於テ毫モ之ヲ覺知セザルコトアリ若シ之ヲ試ント欲
セバ人ノ熟眠シタルトキニ其手足ヲ刺戟スベシ其人必ズ之ヲ知覺
セズシテ其手足ヲ他ニ轉ズルトキハ自動作用ノ存スル所以ヲ證ス
ベシ而シテ又脊髓ハ此自動作用ノ外ニ腦ノ命令ヲ傳ヘテ作用ヲ呈
スルコトアリ之ヲ隨意作用ト稱ス即チ人ノ意ニ從フテ手足ヲ動カ
スガ如キモノ是レナリ次ニ延髓モ又纖維ト細胞ヲ含有スルヲ以テ

傳導の中樞の兩作用アリ其中樞又自動作用ヲ呈スルナリ今此脊髓延髓ノ二者ニヨリテ呈スル所以反射的自動作用ヲ舉グルニ其主タルモノハ消化作用呼吸作用其他手足ノ不隨意運動等ニシテ人ノ生活上最も緊要ナル作用ヲ有スルモノナリ別ニテ延髓ハ身體中第一ノ貴重ノ部分トス人之ヲ害スルトキハ直チニ其生命ヲ損スルニ至ルベシト云フ然レテモ此等の中樞ニハ未ダ正シク心性作用ト稱スルモノ有セズ他語以テ之ヲ言ハバ脊髓中ニモ延髓中ニモ未ダ情感意志智力三種ノ作用ヲ呈スルヲ見ズ是レ延髓特有ノ作用ト斷言シテ可ナリ抑延髓ハ神經統系中發育最も高等ニシテ其造構又至テ複雑ナリ隨テ其作用モ奇奇妙妙ニシテ神變不可思議ノ心性作用皆其中ニアリテ存スルヲ見ル故ニ之ヲ奇奇妙妙神變不可思議

ノ器具ト稱スルモ不當ニアラザルナリ而シテ此器具ハ高等動物ニモ存スト雖ドモ動物ハ延髓ハ其發育其造構其作用共ニ不完全ニシテ毫モ不思議ト稱スベキモノニアラズ其最も神變不可思議ナルモノハ獨リ人ノ延髓ニアリ合其延髓ノ性質ヲ考フニ通常之ヲ分テテ大脳小脳ノ二種トナス小脳ハ大脳以後下部ニアリテ其作用未ダ詳カナラズト雖ドモ動物ニツイテ實驗スル所ニヨリテ運動ヲ規整スルノ作用アリ即チ動物ノ小脳ヲ除去シ或ハ毀傷スルトキハ其運動不規則ヲ生シ正シク走行又ハ飛行スルコト能ハザルヲ見ル故ニ小脳ハ歩行走飛游泳等ノ運動ヲ一致規整スルノ作用アリト云フ然レドモ正シク心性作用ト稱スルモノハ小脳中ニアラズシテ大脳中ニアルコト明カナリ是レ亦動物ニツイテ試ルコトヲ得令ニシテ動物ヲ

取り其大脳ヲ除去スルトキハ自ラ運動ヲ發スルコトナシ之レニ刺戟ヲ與フレハ平時ノ如ク運動ヲ發スルモ外物ノ衝突ヲ避クルコト能ハズ且ツ之ニ衝突スレバ更ニ運動ヲ始ムルコトナシ是ヲ以テ之ヲ推スニ意識即チ心性作用ハ大脳中ニ存スル所以ヲ知ルベシ故ニ大脳ハ腦髓ノ本位ニシテ神經統系中ノ中央傳信本局ナリ今其造構ヲ考フルニ其體左右兩半球ヨリ成リ外面ハ灰白色ニシテ盤曲多ク其内部ハ白質ヨリ成ル故ニ心性作用ハ其外面ニアリトス蓋シ其各部ニ於テ營ム所ノ作用ハ同一ナラザルベシト雖モ今日ノ實驗未ダ明カナラザルヲ以テ各種作用ノ位置ヲ知定スルコト能ハズ今日纔カニ知ル所ノモトハ動物ノ大脳ニツイテ其一部分ヲ刺戟シ或ハ除去シテ身體ノ一定部分ニ知覺或ハ運動ヲ起滅スル反應ヲ見テ各部

同一ノ作用ヲ有セザルヲ想スルノニ情感智力意志各種ノ諸作用ハ大脳中ノ何レノ部分ニ起リ諸細胞如何相變化シテ其妙用ヲ呈スルカニ至リテハ今日ノ生理學ノ未ダ究メザル所ニシテ如何ナル理學者モ此ニ至リテ實驗器ヲ投シテ心性ノ實ニ奇奇妙妙神變不可思議ナルコトヲ嘆稱セサルハナシ嗚呼此一握ニ足ラザル一小器ニシテヨク其中ニ一大世界ヲ開立シ父母兄弟親戚朋友モ古人モ遠人モ皆其中ニ現見シ日月星辰土石草木魚蟲禽獸モ曾テ經過シタル土地ノ風色モ曾テ愛賞シタル山川ノ風月モ皆其中ニ對接シ忽チニシテ喜ビ忽チニシテ怒リ忽チニシテ憂ヘ忽チニシテ笑ヒ或ハ動キ或ハ止マリ或ハ思慮シ或ハ想像スルモノ皆其中ヨリ發スル所ノ妙用ニ外ナラズ嗚呼之ヲ不可思議ト呼バズシテ何ゾヤ余固ヨリ其不可思議

ヲ知リ之ヲ講述シテ唯益益余ガ心ニ不可思議ノ愉快ヲ感ズルヲミ
 諸君モ亦必ズ之ヲ研究シテ其心ニ不可思議ノ妙味ヲ覺フベシト信
 ズ世ノ學者或ハ此不可思議ノ妙味ヲ天帝ニ歸シテ是レ天帝ノ不可
 思議ノ作用ナリ是レ天帝ノ奇奇妙妙ノ神力ナリト稱スルモノアレ
 下モ余ハ此妙味ヲ永ク我心ニ留メテ一生ノ間其愉快ヲ感賞セシコ
 トヲ欲シ敢テ此愉快ヲ我心ノ外ニ放テ遠ク我が知ラザルモノニ
 歸スルヲ欲セザルナリ

第五段 神經事情 腦髓ハ前段述ブル如ク心性作用ノ本位神經統
 系ノ最重ノ部分ナリ之ニ次グモノヲ延髓脊髓トス其次ハ眼耳鼻舌
 皮膚五官ノ神經トス此神經ハ腦ヨリ直チニ發スルモノト脊髓ヲ經
 テ分布スルモノト別アリ又其末端身體ノ外部ニ終ルモノト内部

ノ諸組織ニ終ルモノトノ二種アレドモ五官ノ神經ハ通常其外部ニ
 終ルモノヲ云フ即チ視神經聽神經嗅神經味神經觸神經是レナリ此
 五種ノ神經ハ感覺及ビ知覺ヲ司トル作用アルヲ以テ心性作用ニ貴
 重ノ關係アルモノトスルナリ其他身體ノ諸組織諸機關ハ皆多少心
 性作用ニ關係ヲ有スルヲ以テ總テ之ヲ排置スルニ其順序第一ハ神
 經統系第二ハ運動機關即チ筋肉第三ハ五官第四ハ内臟即チ腸胃肺
 臟心臟等トスルナリ其中直接ニ心性ト關スルモノハ神經系ナルヲ
 以テ余ハ是レヨリ神經ト心性ノ關係ヲ述ベントス先キニ已ニ論ズ
 ル如ク腦髓ノ作用ハ生理學上知ルベカラズト雖モ種種ノ事情ニヨ
 リテ其中ニ心性ノ存スル所以ハ明カニ證スルコトヲ得ルナリ先ヅ
 心性作用ノ神經全體ノ事情ニ伴フ所以ヲ論スルニ第一ニ神經斷絶

シ或ハ毀傷シ或ハ錯亂スルトキハ感覺運動等ノ心性作用ニ變動ヲ
生シ第二ニ血液ノ分量及ビ成分ヨク神經ノ榮養ヲ補フニ適スルト
キハ之ニ伴フ所ノ心性作用亦健全ナリ第三ニ神經ハ之ヲ刺戟シテ
止マサルトキハ忽チ疲勞ヲ生シ心性モ之ヲ用フルコト久キニ過ク
ルトキハ均シク疲勞ヲ生ス第四ニ休息又ハ睡眠シタル後ニハ神經
ノ疲勞快復スルヲ以テ心性作用亦活潑ナリ第五ニ心性全體ノ作用
ノ發達シタルモノハ神經全體ノ組織發育シ心性ノ一部分ノ作用發
達シタルモノハ其一部分ノ神經發育スルヲ見ル第六ニ複雑ナル心
性作用ヲ有スルモノハ複雑ナル神經造構ヲ有スルヲ見ル是ヲ以テ
心性作用ハ神經ノ事情ニ伴フ所以ヲ知ルベシ次ニ其作用別シテ智
力ノ腦髓中ニ存スル所以ヲ考フルニ第一ニ智力多キモノハ腦髓ノ

重量從テ多ク且ツ其表面ノ盤曲ノ數多シトス第二ニ人生シテ腦
ノ發育不完全ナルモノ或ハ病患ニヨリテ實質ヲ損シタルモノハ其
心性作用亦不完ナリ第三ニ外ヨリ不意ノ毀傷或ハ壓迫等ヲ受クル
トキハ必ズ心性作用ニ變動ヲ起ス第四ニ心性ヲ勞役スルコト甚シ
キトキハ頭部ニ痛ヲ感シ且ツ腦ヲ組成セル成分ヲ廢泄スルコト多
キヲ見ル其他種種ノ實驗ニヨリテ腦髓中ニ心性ノ存スルコトヲ斷
定スルニ至ル

第六段 情感發顯 前段已ニ神經ト心性ノ關係ヲ略辨シタルヲ以
テ身心ノ關係ノ密切ナルコトハ更ニ證スルヲ要セザルモノノ如シ
然レドモ爰ニ情感發顯ノ理ヲ説クハ最モヨク身心ノ關係ヲ示スモ
ノナルヲ以テ今其要點ヲ述ベントスルニ凡ソ情感ノ外面ニ發顯ス

ルヤ其種類異ナレバ必ズ異ナルヲ發顯スルノ規則アリ即チ
喜怒哀懼愛憎皆各異ナリ然ル外貌舉動ヲ呈スルモ是レナリ而シ
テ又同種類ノ情緒ニ伴フ所ノ外貌舉動ハ古今東西大抵同一ナリ即
チ喜カトキハ人皆笑ハ哀カトキハ人皆泣ク類是レナリ凡ソ情感
ハ發顯ニ舉動ノ上ニ其事情ヲ示スモノト機關ノ上ニ其影響ヲ與フ
ルモノトノ三種アリ第一ニ舉動ノ上ニ其事情ヲ示スモノヲ考フル
ニ面貌ノ舉動ニヨルモノ最モ多シトス今其主タルモノヲアグルニ
顔面ノ筋肉ノ伸縮ニヨリテ鼻口及ヒ兩眼ニ情感ノ發顯ヲ示スガ如
キモノ是レナリ即チ喜怒哀懼其情ニ從フテ眼蓋ノ運動鼻孔ノ開合兩唇
ノ上下等ノ異狀ヲ呈スルモノヲ云フ其他筋肉ノ伸縮ニヨリテ呼吸
音聲ノ變動發生シ甚キニ至テハ全身ノ變動ヲ生スルガ如キモノ

皆筋肉ノ運動ニヨリテ情緒ヲ發顯スルモノナリ次ニ機關ノ上ニ其
影響ヲ與フルモノヲ舉グルニ喜怒哀懼其影響ヲ内臟及ヒ分泌作用
廢泄作用等ノ上ニ及ボシテ或ハ其作用ヲ促ガシ或ハ之ヲ妨グルガ
如キモノヲ云フ即チ消化器生殖器腺ノ分泌皮膚ノ發汗心臓ノ運
動等ノ情緒ニ異ナルニ從フテ異狀ヲ呈スルモノ是レナリ斯クシテ
人ノ心内ニ感ズル所ノ快樂苦痛ハ必ズ之ヲ外面ニ發顯スルヲ常ニ
ス或ハ其苦樂ノ小ナルモノニ至リテハ之ヲ外ニ顯サザルコトヲ得
ト雖ドモ其大ナルモノニ至リテハ始ト自ラ掩フベカラザルナリ是
ヲ以テ人相見ノ如キハヨク人ノ外貌ヲ見テ其心内ノ事情ヲ定ス
ルコトヲ得ルナリ西洋ニモ察心術ト稱シテ人ノ心中ニ思フ所ヲ察
知スル法アリ本邦ノ人相見ト稍相類スルモノヲ如シ此ヲ如キ諸術

ハ皆心内ノ諸想ノ外ニ發顯スルノ規則ニ本クヤ明カナリ是ヲ以テ
 身心ノ關係密切ナル所以ヲ知ルベシ
 第七段 心性起源 以上論ズル所之ヲ要スルニ心性ハ神經統系中
 ニ在リテ存スト云フニ過キズシテ未ダ其體如何シテ神經中ニ存シ
 如何シテ生ズルカヲ示サザルナリ若シ之ヲ前講ノ發達論ニ對照ス
 ルニ人類ハ動物ヨリ進化シテ來ルヲ以テ人類特有ノ心性作用モ亦
 動物中ヨリ發達シテ來ラザルヲエザルノ理ナリ然ルニ動物ハ神經
 組織ヲ有スルモ情感意志智力ノ如キ作用ヲ有セザルハ如何ナル理
 三頁ノ中且ツ今一步進テ之ヲ考フルニ動物及ビ植物ハ其初無機物
 質ヨリ成來シタリト云フノ論アリ無機物質ヲ集合シテ神經組織ヲ
 構成シタル原理ハ別ニ分解スルカヲ考ヘタリ余ハ爰ニ世ノ所謂唯

物論者ノ說ニ從フテ無機ヲ轉シテ有機トナリ無機元素ヲ化學所神
 經組織ヲ開キ進テ心性作用ヲ生ズルニ至ル所以ヲ一言セントス蓋
 シ其說ヲ起リシハ化學上有機體ヲ分析シテ其成分ヲ驗スルニスベ
 キ無機元素ヨリ成ルヲ見ル唯、有機ト無機ト異同アルハ有機ハ化
 學元素中其最モ性質ヲ異ナリタルモノ相集リテ極メテ複雑ナル抱
 合ヲナシ且ツ其造構至リテ精細ナルニヨルノ他語以テ之ヲ言ヘ
 バ動物ノ神經ニ感覺運動作用ヲ有スルハ之ヲ組成セル元素ノ抱合
 及ビ其全體ノ造構共ニ複雑ナルニヨルナリ蓋シ造構複雑ナレバ復
 雜ノ作用ヲ呈スベキハ當然ノ理ニシテ人類ノ心性作用ノ奇ヲ呈ス
 ルモ亦其造構ノ一層複雑ナルニヨルト云フモ同一理ナリ然レドモ
 爰ニ一言ノ證明ヲ要スル點ハ動物ノ神經ヨリ生ズル所ノ作用ハ反

射即チ自動作用ニシテ人ノ神經ヨリ生スル所ノ作用ハ意識即チ所謂心性作用ナルノ異同アルヲ以テ反射作用ノ如何シテ心性作用ニ轉スベキカノ一問題ニアリ蓋シ簡單ナル造構ニアリテハ神經ノ一端ニ起ル所ノ感動相傳ヘテ他方ニ排出スルコト容易ナリト雖モ造構複雑ニ至レバ一方ヨリ入ル所ノ感動其一部分ノ中樞器ニ達スルモ是ヨリ出ヅル所ノ神經纖維多岐ニ分ルルヲ以テ其動波直チニ他方ニ流出スルコトヲ得ズシテ暫時其點ニ止マリテ猶豫躊躇スルノ狀アルハ必然ナリ此猶豫躊躇スルノ狀アルヲ以テ情感意志智力ノ如キ心性作用ヲ生スルナリ若シ又此心性作用モ數回反復シタルトキニハ反射的ニ變スルコトアリ即チ意志ノ命令ヲ待チテ起ル所ノ作用ノ數回反復ノ末遂ニ其命令ヲ待タズシテ起ルニ至ルハ如何ト

云フニ是レ他ナシ一タビ流ルル所ノ波道數回反復スルトキハ次第ニ習熟シテ其出入猶豫ノ時ヲ要セザルニ至レバナリト云フ此理ニヨリテ神經造構ノ複雑ナルニ從ヒ反射作用ハ轉シテ情感意志智力ノ諸作用ヲ現スルニ至ル所以ヲ論定スルナリ然レドモ余固ヨリ知ル諸君ハ此解釋ヲ會得スルコト能ハザルヲ余モ此論ニ疑ナキニアラス唯爰ニ之ヲ擧ゲタルハ唯物論者ノ心性ノ起源ヲ論ズル一端ヲ諸君ニ示スノミ

第八段 唯物論據 此ノ如ク論究シテ其極點ニ達スレバ物外無心ノ論ヲ唱ヘザルヲエザルナリ其論據トスル所ハ第一ニ心性作用ハ身體ノ諸事情即神經血液內臟等ノ諸事情ニ伴フテ起リ第二ニ其發達ハ腦髓ノ大小神經ノ造構ノ發育ニ關シ第三ニ神經ヲ組成セル物

質ハ無機元素ヨリナリ第四ニ智力ノ進歩ハ教育經驗習慣等ノ事情
 ニヨリテ起リ第五ニ人ノ生長及ビ社會ノ進化ヲ見ルニ其初感情意
 志智力ヲ有セザルモノヨリ發達シテ來リ第六ニ地球ノ進化ヲ見ル
 ニ初メニ無機物質ノミアリテ次ニ動植物ヲ生ジ次ニ人類ヲ生ズ第
 七ニ動植人類ノ種類ヲ分列スルニ其各種ノ間判然タル分界ナシ第
 八ニ物理上實驗シテ得ル所ノ規則之ヲ心性作用ニ應用シテヨク其
 規則ヲ考定スベシ等ノ理ニ基キ其他種種ノ實驗論究ニヨリテ唯物
 論ヲ結ブニ至ルナリ是ニ至リテ之ヲ觀レバ先キニ余ガ第二講第八
 段ニ示ス所ノ心力ノ分量ハ血液ノ分量ト見做シテ其一部分ノ解釋
 ヲ與フルコトヲ得ルナリ即血液ノ多量腦髓ノ中ニ入レバ腦髓ノ力
 ヲ増シ腸胃ノ方ニ流ルレバ消化ノ作用ヲ進メ五官ノ方ニ注ガバ感

覺作用ヲ盛ニスルガ如キモノ是レナリ凡ソ血液ハ身内ニ攝取スル
 所ノ食物榮養ノ多寡ニヨリテ其分量ニ増減アルハ勿論ナレドモ一
 定時間ニアリテハ一定ノ分量アルヲ以テ身體中ノ一部分ニ多量ノ
 血液會入スルトキハ他ノ部分ニ其量ヲ減ズベキハ當然ノ理ナリ而
 シテ又血液ハ身體ノ諸組織ニ其養分ヲ與フルモノナルヲ以テ多量
 ノ血液ヲ得レハ其部分ノ作用從フテ活潑ナルモ亦理ノ然ル所ナリ
 故ニ意向ノ作用ハ或ハ血液ノ會注ヨリ起ルト云フモ一理アルニ似
 タリ然レドモ其血液ヲシテ一方ニ會注セシムルモノ果シテ何ニヨ
 ルヤ是レ或ハ其時ノ諸事情ニヨルト云フモ其事情ノ起ルハ果シテ
 何ニヨルヤ此ノ如ク論究シテ其極點ニ達スレバ唯奇奇妙妙ト云フ
 ニ止マンノミ故ニ此血液ノ解釋ノ如キハ生理學上ヨリ論究スル所

ナレドモ心性ノ本質ニ至リテハ實驗論理ノ外ニシテ獨リ生理學上
 ノ解釋ヲ取ルコト能ハズ別シテ唯物論ノ僻見ヲ信ズルコト能ハザ
 ルナリ而シテ顧ミテ我心ヲ思ヘバ余ガ此ノ如ク無機ノ外ニ有機ナ
 ク物質ノ外ニ心性ナク物理ノ外ニ心理ナシト論ズルモノ皆心ヨリ
 想出シタルモノニシテ心ヲ離レテ此理ヲ知ルコト能ハザルヲ見ル
 果シテ然ラバ心アリト思フモ心ニシテ心ナシト論ズルモ心ナリ心
 性ノ奇奇妙妙神變不可思議ナルコト推シテ知ルベシ嗚呼心理學ヲ
 研究スルモノニアラズンバ誰レカヨク此妙味ヲ樂マンヤ

第五講

各論第二 感覺論

- 第一段 感覺義解
- 第二段 感覺種類
- 第三段 感覺性質
- 第四段 味嗅性質
- 第五段 觸覺性質
- 第六段 聽覺性質
- 第七段 視覺性質
- 第八段 筋覺性質
- 第九段 感覺發達

第一段 感覺義解 感覺ハ苦樂ノ二種アルヲ以テ情感ノ一部分ニ屬スルヲ適當ナリトスト雖モ感覺相集リテ知覺ヲ生ジ智力ノ本源トナルコト亦明カナルヲ以テ智力ノ發達ヲ論ズルニハ先ヅ感覺ヨリ始メザルヲエズ夫レ感覺ハ通常人ノ解スル所ニヨルニ身體ノ外部ニ於テ起ル所ノ心性作用ナリト云フト雖モ其實獨リ外部ノ作用ノミヲ義トスルニアラズシテ内部諸臟諸組織ノ感覺モ其中ニ加ヘザルベカラズ故ニ或ハ之ヲ解シテ求心性神經ノ末端ノ刺戟ニ伴フテ起ル所ノ單純ナル心性作用ナリト云フヲ寧ロ適當ナリトス求心性神經ハ余ガ前論ニ於テ已ニ述ブル如ク神經ノ末端ヨリ其刺戟ヲ中樞器ニ向フテ傳導スル纖維ニシテ感覺及ビ知覺ハ此纖維中ニ起ル所ヲ作用ナルコト更ニ論ズルヲ要セズ且ツ感覺ハ心性作用中ノ

最モ直接簡單ナルモノヲ以テ之ヲ茲ニ單純ナル心性作用ト稱スルナリ而シテ此義解ニ以テ諸君ノ注意ヲ要スル點ハ感覺ハ神經ノ末端ノ刺戟ニ伴フテ起ル所ノ作用ナリト定ムルモ其末端ニ於テ直チニ起ルニアラズシテ刺戟ニヨリテ生ジタル所ノ動波相傳ヘテ腦中ニ入りテ始メテ感覺ヲ生ズルナリ若シ之ヲ試ント欲セバ宜ク求心性神經ヲ切斷シテ其末端ニ刺戟ヲ與フベシ然ルトキハ何程刺戟ヲ與フルモ感覺ヲ生ズルコトナシ是ヲ以テ感覺シ中樞ハ腦中ニアリテ存スルヲ知ルベシ又爰ニ感覺ノ智力ノ本源ナル所以ヲ證スルニ第一ニ外界ノ經驗ニ富ミタルモノハ智力ニ長シ經驗ニ富マザルモノハ智力ニ乏キヲ以テ智力ノ發達ハ經驗ノ多少ニ屬スルヲ知ルベシ而シテ經驗ハ外物ノ我人ノ感覺ニ接觸シテ生スル所ノ結果

ニ外ナラザルヲ以テ感覺ハ智力ノ材料ヲ與フルコト瞭然タリ第二ニ生來視覺ヲ缺キタルモノハ色ノ思想ヲ有セズ聽覺ヲ缺キタルモノハ聲ノ思想ヲ有セザルヲ以テ思想ハ感覺ヨリ生ズルコト明カナリ且ツ智力ノ作用中其下等ニ位スル知覺作用ノ如キハ感覺アリテ生ズルコト更ニ論ズルヲ待タザルナリ是レ余ガ爰ニ感覺論ヲ掲グル所以ナリ

第二段 感覺種類 感覺ノ種類ハ全身ノ官能ノ種類ニ從テ分ツヲ常トスルヲ以テ味覺嗅覺觸覺聽覺視覺ノ五種ノ感覺ヲ立ツルナリ然レドモ此五種ノ外ニ飢渴寒温疲勞爽快ノ如キ全身ノ組織間ニ起ル所ノ感覺アルヲ以テ感覺ヲ分チテ五種ニ限ルハ妥當ナラザルモノナリ故ニ此第六種ノ感覺ヲ加スルトキハ六感トナサザルベカ

ヲズ而シテ此感覺ハ有機組織ニ固有ノ感覺ナルヲ以テ之ヲ有機感覺ト稱スルナリ或ハ又有機感覺ハ全身ノ諸部分ニ於テ起リ一種特別ノ部分ヲ有セザルヲ以テ他ノ感覺トハ自ツカラ異ナル所アリ故ニ感覺ヲ大別シテ普通性ト特異性トノ二種トナシ有機感覺ヲ以テ普通性ニ屬スルナリ他ノ諸感覺ハ各特別ノ部分アリテ起リ自他相互ニ作用ヲ轉換スルコト能ハザル性質ヲ有スルヲ以テ之ヲ特異性ニ屬スルナリ即チ視覺ハ目ノ部分ニ於テ起リ聽覺ハ耳ノ部分ニ於テ起リ觸覺ハ皮膚ノ部分ニ於テ起リ嗅覺ハ鼻ノ部分味覺ハ舌ノ部分ニ於テ起リ耳ヲ以テ色ヲ見ルコト能ハズ舌ヲ以テ聲ヲ聞クコト能ハザル特異ノ性質ヲ有スルト雖モ獨リ有機感覺ハ然ラズ手ヲ勞動スレバ手ニ疲勞ヲ感シ足ヲ勞動スレバ足ニ疲勞ヲ感シ腦ヲ用フレ

パ腦ニ感シ腸胃ヲ用フレバ腸胃ニ感シ耳目ヲ用フレバ耳目ニ感シ
 テ疲勞ヲ感ズベキ一定ノ部分アルコトナシ故ニ之ヲ普通性ニ屬ス
 ルナリ今有機感覺ノ種類ヲ舉グルニ第一ハ筋覺ト稱シテ勞動又ハ
 休息ニヨリテ筋肉上ニ生ジタル感覺ノ類ヲ云フ第二ハ飢渴ノ感覺
 ニシテ食物血液ノ過不足ヨリ生ジタル感覺ヲ云ヒ併セテ呼吸上酸
 素ノ多寡ニヨリテ生ジタル感覺ヲ合稱スルナリ第三ハ寒温ノ感覺
 ニシテ身體ノ諸部分ニ於テ寒冷温煖ヲ感受スルヲ云フ此感覺ハ主
 トシテ皮膚ノ上ニ起ルト雖モ組織内ニモ亦此感覺アリ故ニ皮膚上
 ニ起ル所ノ寒温ノ感覺ハ之ヲ觸覺ニ屬スベキモ全身ノ組織間ニ起
 ルモノハ有機感覺ニ屬セザルベカラズ其他消化ノ感覺血行ノ感覺
 等アリテ腸胃中ノ食物不消化ナル時ハ之ヲ感シ血管中ノ血行常ヲ

失スル下キム之ヲ感ズルノ類ニ舉グルニ暇アラズ次ニ特異性ノ
 感覺ハ別ニ論ル所アルベシト雖モ爰ニ一言ヲ要スル點ハ視覺聽覺
 等ノ五種ノ感覺ハ其實皆觸覺ナル所以ヲ示スニアリ先ツ視覺ハ
 「エーテル」ト稱スル精氣ノ波動眼球ニ觸レテ生ズル所ノ感覺ナリ
 聽覺ハ空氣ノ波動耳官ニ觸レテ生ズル所ノ感覺ナリ嗅味兩覺ハ外
 物ノ直チニ鼻舌ニ觸レテ生ズル所ノ感覺ナリ故ニ是レ皆觸覺ト稱
 シテ不可ナルコトナシ且ツ感覺ノ發達ヲ考フルニ動物ノ初期ニア
 リテハ皮膚上ノ觸覺ヲ有スルノミニシテ未ダ眼目鼻舌ノ諸官ヲ有
 セザルナリ其例胎兒ノ初期及ビ最下等ノ動物ヲ見テ知ルベシ漸ク
 進デ始メテ觸覺中ニ種種ノ部分相分レ各異リタル感覺ヲ生ズルニ
 至ル故ニ視覺聽覺等ハ觸覺ノ變形ト稱シテ然ルベシ此ノ如ク諸覺

盡ク觸覺ニ屬スベキノ理ナレドモ今日ニ在テハ觸覺中亦オソヅカ
 ラ異ナリタル作用ヲ呈スル部分アリテ相分ルルヲ見ル其各種ノ作
 用ニ亦相異ナリタル名稱ヲ與ヘテ總シテ五感トスルナリ
 第三段 感覺性質 我人ハ感覺ノ度量ト性質ヲ辨別スルノ力アリ
 テ凡ソ外物ノ五官ノ上ニ與フル所ノ刺戟強キ時ハ之ニ伴フテ生ズ
 ル所ノ感覺亦強ク刺戟弱キトキハ其感覺亦弱シ是ヲ以テ聲ノ大小
 色ノ厚薄等ヲ辨別シ又聲色ヲ發スル所ノ外物ノ遠近ヲ推量スルコ
 トヲ得ルナリ之ヲ度量ノ感覺ト稱ス次ニ我人ハ色ノ赤白聲ノ清濁
 ヲ辨別スルノ力アリ之ヲ性質ノ感覺ト稱ス而シテ同性質中ニ度量
 ノ異ナルヲ感シ同度量ノ中ニ性質ノ異ナルヲ覺スルコトアリ例ヘ
 バ同色中ニ其厚薄ヲ見同音中ニ其清濁ヲ分ツガ如シ之ヲ感覺ヲ辨

別力ト稱ス其他感覺ニハ時限ト地位ヲ感ズル力各異ナルヲ見ル
 先ヅ時限トハ感覺ノ連續スル時間ノ長短ヲ云フナリ例ヘバ光線ノ
 感覺ハ其連續スル時間至テ少フシテ香味ノ如キハ其時間稍々長キ
 ノ類是ナリ蓋シ此長短ノ差アルハ各種ノ感覺神經ノ興奮スル時間
 ノ長短同シカラザルニヨル次ニ地位トハ同一ノ官能中ニ於テ其刺
 戟スル所ノ部分異ナルトキハ之ニ伴フテ生ズル所ノ感覺亦異ナル
 ヲ云フ例ヘバ人ノ皮膚ニ左右兩點ニ於テ刺戟ヲ與フルトキハ之ヲ
 同點ニ感セズシテ左右兩點ニ感ズルノ類是レナリ是レ他ナシ同種
 ノ官能中ニアリテモ其部分異ナレバ之ニ分布セル神經纖維亦異ナ
 ルニヨル蓋シ人ハ此地位ノ感覺ヲ有スルヲ以テ外物ノ大小廣狹容
 量距離及ビ空間ノ現存ヲ知ルコトヲウルナリ以上ノ諸事情アルヲ

以テ我人ハ感覺上智力ヲ養成スルコトヲ得ルハ勿論ニシテ其智力ノ發達ヲ助クルコト最モ多キモノハ度量性質地位ヲ辨別スル力最モ多ク少キモノハ其力亦少キヲ見ル今其多少ノ順序ニ從フテ五感ノ位次ヲ定ムルニ第一ハ視覺第二ハ聽覺第三ハ觸覺第四ハ嗅覺第五ハ味覺トスベシ即チ視覺ハ最モ辨別力ニ富ミ且ツ最モ智力ヲ助クルコト多ク味覺ハ最モ辨別力ニ乏ク且ツ智力ヲ助クルコト少シ時限ノ長短モ亦此順序ニヨル視覺ハ連續スルコト短ク味覺ハ長キヲ見ル而テ普通性感覺即チ有機感覺ハ苦樂ノ事情ニ富ムモ甚ダ辨別力ニ乏キヲ以テ之ヲ特異性感覺ニ比スルニ殆ンド智力ノ發達ヲ助ケザルモノノ如シ是レ他ナシ有機感覺ハ主トシテ全身ノ組織間ニ起ルモノニシテ直チニ外物ノ感觸ヲ受ケザルニヨル

第四段 味嗅性質 以上述ブル所ニヨルニ智力ノ發達ヲ助ケザル第一ヲ有機感覺トシ之ニ次グモノヲ味覺嗅覺トス味覺嗅覺ハ特異性感覺中最モ多ク有機感覺ニ似タル性質ヲ有シ共ニ辨別力ニ乏クシテ共ニ苦樂ヲ感ズルノ力最モ強キヲ見ル之ヲ要スルニ嗅味兩覺ハ有機感覺ノ如ク智力ノ性質ヲ有スルコト少クシテ情緒ノ性質ヲ有スルコト多キ者ト知ルベシ例ヲ舉ゲテ其證ヲ示スニ諸味相合シテ同時ニ食フ時ハ一一其味ヲ辨別シテ是レハ醫油ノ味ナリ是レハ鰹節ノ味ナリ是レハ味淋ノ味ナリ是レハ砂糖ノ味ナリト判然知定スルコト能ハズ且ツ前後相接シテ食フ時ハ砂糖ノ味ハ何レノ時ヨリ始マリ味淋ノ味ハ何レノ時ニ終リシカ判然相分ツコト能ハズ是レ其辨別力ニ乏クシテ智力ノ發達ヲ助ケザル一證ナリ而シテ苦樂

ヲ感ズルノ力ハ他覺ヨリ多クシテ一物ヲ口中ニ入ルレバ直チニ苦
感或ハ樂感ヲ生ズベシ此ノ如ク苦樂ヲ感ズルノ力多キヲ以テ人ニ
ハ飲食ヲ欲スルノ情至テ甚キヲ見ル蓋シ味覺ニ此情アルハ飲食ハ
生存發育上最モ必要ナルニヨル且ツ食物中其發育ヲ助クルモノハ
之ヲ食フテオノヅカラ樂ヲ感シ發育ニ害アル者ハオノヅカラ苦ヲ
生ズルノ事情アルヲ以テ人其情欲ニ任スルモ發育ヲ助クベキ事情
ニ從フテ進ムハ自然ノ勢ナリ是ヲ以テ味覺ハ苦樂ヲ感ズルノ力ニ
長シテ智力ヲ助クルノ事情ニ乏キニ至ルナリ嗅覺亦然リ香臭ヲ辨
別スルノ力ニ乏クシテ苦樂ヲ感覺スルノ性ニ長ズルナリ此嗅味兩
覺ハ感覺ヲ連續スル時間之ヲ他ノ諸覺ニ比スレバ稍長キヲ覺フ食
味ヲ感ズルモ香臭ヲ感ズルモ其源因去リテ猶ホ暫時之間其感覺ヲ

止ムルノ事情スル此ノ如ク此二者ハ互ニ相似タル性質ヲ有スルヲ
以テ爰ニ之ヲ合シテ論ズト雖モ若シ此二者中孰レカ最も多少智力
ノ發達ヲ助クルカヲ考フルトキハ嗅覺ヲ以テ味覺ノ上ニ置カザル
ベカラズ味覺ハ其官能ニ接觸シタルモノノミヲ感ズルヲ以テ毫モ
外物ノ遠近方向ヲ知ル能ハズ而シテ之ニ接觸シテ其形質ヲ感ズル
ハ舌官ノ觸覺ニヨルモノニシテ味神經ノ感ズル所ニアラズ然ルニ
嗅覺ハ外物ヨリ發散セル分子ヲ感ズルヲ以テ多少外物ノ遠近方向
ヲ知ルベキ事情アリ是レ嗅覺ハ味覺ノ上ニ位スル所以ナリ
第五段 觸覺性質 觸覺ハ外物ノ皮膚ニ接觸シテ起ス所ノ感覺ニ
シテ其區域甚ダ廣シト雖モ其主タル部分ハ唇頭ト指端ナリ其感ズ
ル所ノ性質ハ外物ノ大小輕重軟硬龜滑寒温等ナリ故ニ其外物ヲ知

覺スルノカアルハ味嗅兩覺ノ比ニ非ズ味嗅ハ同時ニ諸性質ヲ辨別シテ感ズルノカナシト雖モ觸覺ハ同時ニ諸性質ヲ辨別シテ感シ且ツ一たび起リタル感覺ハ忽チ止ミテ永ク連續セザルヲ以テ一物ヲ感シテ直チニ他物ニ觸ルルモ前後ノ性質ヲ混同スルコトナシ別シテ觸覺ハ地位上ノ辨別力ニ長シテ異ナリタル部分ニ觸ルルトキハ異ナリタル感覺ヲ生ズルヲ以テ物ノ大小距離等ヲ知ルコトヲ得ルナリ故ニ觸覺ノ智力ノ發達ヲ助タル味嗅兩覺ノ比ニアラザルナリト知ルベシ

第六段 聽覺性質 聽覺ハ觸覺ヨリ一層細密ニ外物ヲ感覺スルノ力アリテ音聲ノ高低大小其他諸種類ヲ辨別シテ感スル事ヲ得ルナリ例ヘバ一々旅窓ニアリテ庭前ノ泉聲樹間ノ風聲雨滴人語絃歌等

ヨク其種類高低ヲ辨別スル以ミナラズ人ノ語聲又ハ足音ヲ聞キテ如何ナル人ナルヤヲ知ルコトヲ得ルナリ是レ別シテ盲人ノ能ク感スル所ニシテ余ハ屢屢盲人ニ接シテ聽覺ノ作用ヲ試ミタルコトアリ盲人曰ク吾ハ視覺ヲ缺クト雖モ聽觸兩覺ノ存スルヲ以テ行爲上毫モ不自由ヲ感シタルコトナシ唯自ラ不自由ト思フハ拾錢ノ紙幣ト二拾錢ノ紙幣ト區別スルコト能ハザルノ一事ヲミト云ヘリ蓋シテ人視覺ヲ失フトキハ聽覺ノ發達スルアリテ其缺ヲ補フノ作用アリ音曲ヲ業トスルモノニ盲人多キハ此理ニヨル是理ヲ推シテ聽覺ノ視覺同様ニ智力ヲ助クル力ニ富ミタル所以ヲ知ルベシ唯其感覺ノ視覺ニ一步ヲ讓ル點ハ外物ノ地位ヲ知定スル力ニ乏キニアリ聽覺ノ力ヲ以テ外物ノ方向距離ハ多少音聲ノ大小及ビ左右兩耳ニ感

ズル所異ナルニヨリテ知ルベシト雖モ之ヲ視覺ニ比スレバ其力大ニ微ナルヲ覺フ余曾テ常總ノ間ヲ來往スルニ當リ利根江畔ノ旅亭ニ休ヒ江上ヲ上下スル汽船ノ聲ヲ聞クニ其聲ノ上流ヨリ來ルカ下流ヨリ來ルカヲ區別シテ感ズルコト能ハズ然ルニ目ヲ以テ一見スレバ直チニ汽船ノ何レノ處ニアルカヲ明知スヘシ

第七段 視覺性質 視覺ハ他ノ諸覺ニ比スルニ最モヨク外物ノ性質ヲ辨別シ智力ノ發達ヲ助クルモノナリ之ヲ例スルニ視覺ハ色ノ種類及ビ厚薄ノ度一一明知スルノミナラズ外物ノ大小遠近ヲ知ルノ力アリ蓋シ外物ヨリ來ル所ノ光線眼球内ニ入リテ網膜面上ニ其影像ヲ結ビ視神經ノ興奮ニヨリテ之ヲ感覺スルモノトス然ルニ網膜ハ多少ノ面積ヲ有スルヲ以テ異ナリタル地位ニ落ツル所ノ光線

ハ異ナリタル神經ノ興奮ヲ促ガスヲ以テ外物ノ方向距離ヲ推知スル事ヲ得ルナリ是レ視覺ノ聽覺ニ勝ル所以ニシテ智力ノ發達ヲ助クルノ多キコト明カナリ然レドモ視覺ノミヲ以テ初メヨリ外物ノ方向距離ヲ知ル能ハズ其理次講ニ入りテ論スル所アルベシ

第八段 筋覺性質 以上舉グル所ノ感覺ノ外ニ筋覺ト稱スルモノアリ此感覺ハ普通性ノ感覺ニアラズシテ一種ノ特異性ノ感覺ナレドモ亦五感ノ中ニ加フベカラズ精密ニ之ヲ論ズレバ感覺ノ名ヲ與フルモ已ニ不適當ナリトス何者スベテ感覺ハ外物ノ感觸ヲ待チテ起ルモノニシテ其作用ヲ外物ノ上ニ及ボシテ自ラ之ニ感觸スルモノニアラズ他語以テ之ヲ言ハバ感覺ハ所作用ニシテ能作用ニアラズ然ルニ筋覺ノ如キハ能作用ニシテ所作用ニアラザルヲ以テ前ニ

舉ゲタル感覺トハ大ニ其性質ヲ異ニスルアリ故ニ先キニ普通性感
 覺中ニアゲタル筋覺ト爰ニ舉グル所ノ筋覺トハ固ヨリ同一ニアラ
 ズ前ノ筋覺ハ所作用ニシテ此筋覺ハ能作用ナリ且ツ此筋覺ハ常ニ
 視覺觸覺ト連合シテ起リ獨立シテ起ラザルヲ以テ特異性感覺中別
 ニ此一覺ヲ設クルヲ要セザルナリ然レドモ智力ノ發達上ニ關シテ
 ハ此感覺最モ貴重ナル關係ヲ有スルヲ以テ爰ニ五感ノ外一項ヲ設
 ケテ其性質ヲ論ズルナリ或ハ此感覺ハ前ノ普通性中ノ筋覺ニ區別
 センガ爲メニ力覺ト稱スルモ不可ナルコトナシ抑此力覺ニハ二種
 ノ異類アリテ第一ヲ運動ノ感覺ト稱シ第二ヲ抗抵ノ感覺ト稱スル
 ナリ運動ノ感覺ハ手足又ハ全身ノ運動ニ伴フテ起ル所ノ感覺ニシ
 テ此感覺ニヨリテ運動ノ方向及ビ距離ヲ知ルコトヲ得ルナリ例ハ

ハ手足ヲ右ニ動かスト左ニ動かストハ異ナリタル感覺ヲ生ズルヲ
 以テ左右ノ方向ヲ知ルコトヲ得又手足ノ伸縮ハ異ナリタル感覺ヲ
 生ズルヲ以テ空間ノ距離ヲ知ルコトヲ得ルガ如シ其他運動ノ感覺
 ハ時間ノ長短ヲ知ルコトヲ得ルナリ例ハ長ク運動シタルトキハ
 短ク運動シタルトキトハ異ナリタル感覺ヲ生ジ又運動ノ速カナル
 時ト遅キトキトハ感覺上其別ヲ知ルコトヲ得ルガ如シ次ニ抗抵ノ
 感覺ハ手足又ハ全身ヲ以テ外物ニ接觸衝突シテ起ル所ノ感覺ニシ
 テ此感覺ニヨリテ物ノ固質重量彈力性等ヲ知ルコトヲ得ルナリ例
 ハ足ヲ以テ物ニ觸レハ其軟硬ヲ知り手ヲ以テ物ヲ舉グレハ其輕
 重ヲ知ルガ如シ其他抗抵ノ感覺ヲ以テ時間ノ長短ヲモ知ルコトヲ
 得ルナリ例ハ手ヲ以テ物ヲアグルトキハ時間ノ長短ニ從フテ異

ナリタル感覺ヲ生ズルガ如シ此二種ノ力覺ハ人ノ身體中主トシテ手足ト兩眼トノ作用ニヨルヲ以テ觸覺及ビ視覺ト密接ナル關係ヲ有スルモノナリ手足ト兩眼トハ筋肉ノ作用ニヨリテ左右上下自在ニ運動スルコトヲ得ルヲ以テ外界ノ諸部分ニ於テ經驗ヲ施スコトヲ得ルナリ手足ノ運動ナクンハ恰モ草木ノ如ク外物ノ來テ之ニ接觸スルニアラザレハ其事情ヲ知ルコト能ハズ兩眼ノ運動ナクンハ外界ノ一點ヲ明視スルコトヲ得ルノミニテ同時ニ諸點ヲ連視スルコト能ハズ然ルニ高等動物及ビ人類ハ手足及ビ兩眼ノ運動ヲ有スルヲ以テ外界ノ諸部分ニ於テ其事情ヲ經驗スルコトヲ得ルナリ故ニ視覺觸覺ハ筋覺ト相合シテ大ニ智力ノ發達ヲ助ケルモツトス之ニ反シテ筋覺ハ視覺觸覺ナキトキハ亦其作用ヲ呈スルコト能ハズ

別シテ觸覺ハ筋覺上缺クベカラザルモノニシテ手足ヲ動カシテ外物ニ觸ルルモ之ヲ感ズベキ皮膚ノ觸覺ナキトキハ筋覺其用ナキハ明カナリ故ニ筋覺ト觸覺トハ姑ラク能作用所作用ノ上ニテ之ヲ別ツノミニテ其實筋覺ハ一種ノ觸覺ニ過ギザルナリ

第九段 感覺發達 若シ感覺ノ發達ヲ知ラント欲セハ宜ク胎兒ノ發育及ビ動物ノ進化ノ順序次第ヲ見ルベシ其初期ニアリテハ全身唯觸覺ノ一感ヲ有スルノミニテ漸ク進ンデ觸覺中五感ノ作用相分ルルニ至ル五感已ニ其作用ヲ異ニスルモ各感ノ發達未ダ完全ナラズシテ外界ノ諸事情外物ノ諸性質ヲ一一辨別シテ感ズルコト能ハズ愈進デ已ニ辨別シテ感ズルノカヲ有スルモ人類ノ如キハ未ダ其感覺完全ナルニアラズ唯之ヲ動物ニ比シテ幾多ノ完全ヲ見ルノミ

蓋シ其發達ニ際シテ如何ナル力ノ生ズルアリテ外界ノ性質ヲ知ル
 コトヲ得ルヤト云フニ曰ク余ガ先キニ舉グタル辨別力契合力記住
 カノ三種ノ原力ノ發達ニヨルナリ辨別力ノ發達ニヨリテ外界ノ諸
 性質ヲ辨別シテ感ズルコトヲ得契合力ノ發達ニヨリテ其性質ヲ明
 瞭ニ感ズルコトヲ得ルナリ而シテ此三力ノ發達ハ記住力ノ存スル
 ニヨル記住力愈發達スレハ益ニ力ノ發達ヲ見ルベシ例ヘハ花ノ色
 ヲ見テ櫻ノ花ノ色ナルヲ知ルハ前已ニ見タル所ノ櫻ノ色ヲ記憶シ
 テ忘レザルニヨリ之ヲ記憶スルコト愈明カナレハ櫻ノ色ヲ判スル
 コト愈易ク記憶明カナラザレハ之ヲ判スル甚ダ難シ且ツ其發達ノ
 動作習慣ニヨルコト亦疑ヲ容レズ數回見聞シタルモノハ感覺上容
 易ク其何タルヲ知ルベシ此ノ如ク諸力ノ發達ニヨリテ感覺上ヨリ

微細ノ種類ヲ辨別シ微細ノ性質ヲ明知スルコトヲ得ルナリ之ヲ感
 覺ノ發達トス其發達ハ人ノ全身ノ發育ニ從フヲ常トスト雖モ人盡
 ク同一ニ發達スルコト能ハズ感覺ノ發達充全ナルモノト充全ナラ
 ザルモノアリ又感覺中一感ノ發達他感ノ發達ニ勝ルモノアリ樂人
 ハ耳ノ一感ニ發達シ易牙ハ味ノ一感ニ發達スルガ如シ是レ一ハ遺
 傳ノ力ニヨリ一ハ順應ノ影響ニヨルナラン

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible.]

第六講

各論第三

知覺論

第一段

感覺作用

第二段

知覺義解

第三段

味嗅作用

第四段

觸覺作用

第五段

運動作用

第六段

物體知覺

第七段

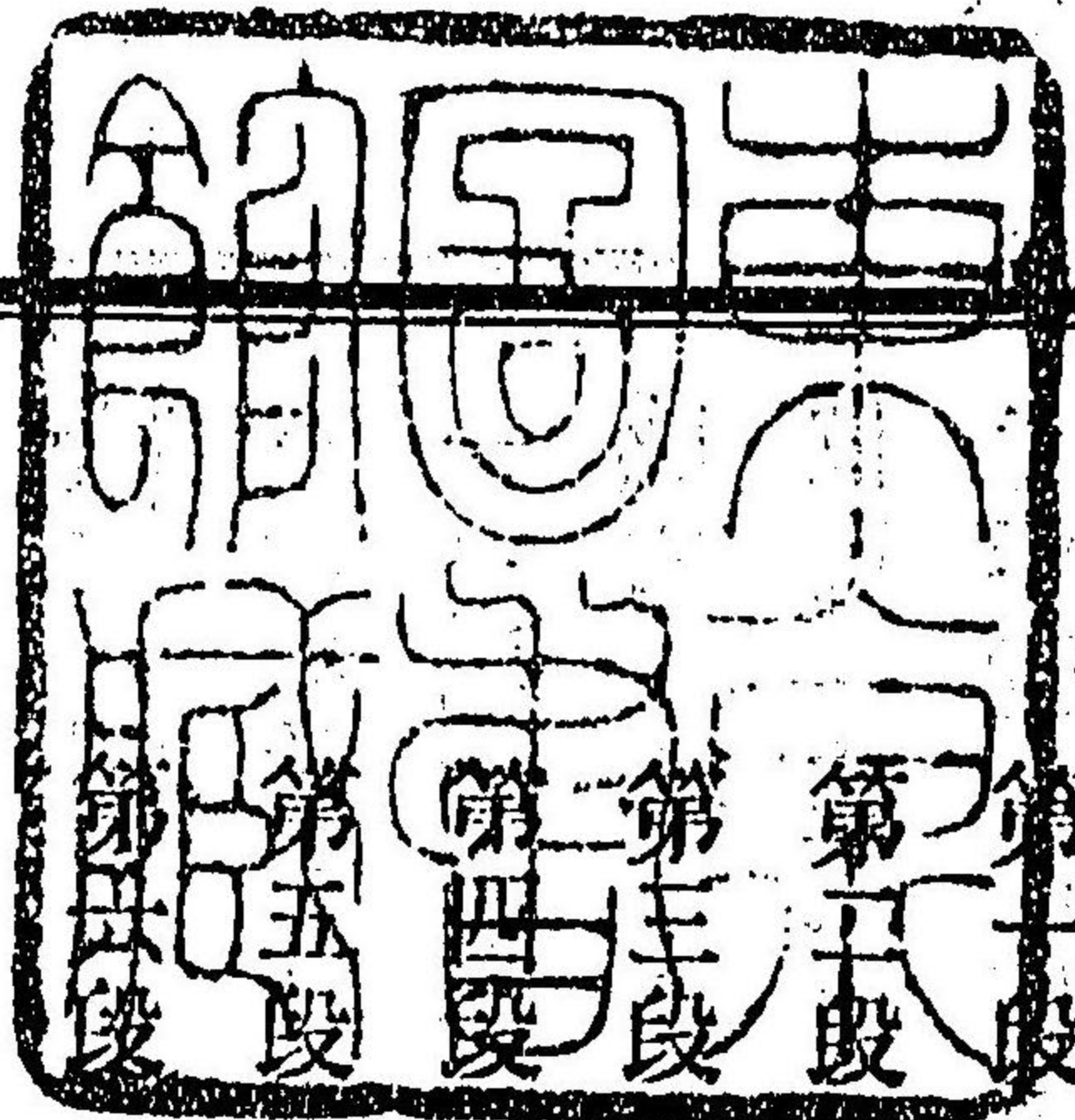
視覺作用

第八段

身體知覺

第九段

聽覺作用



第十段 知覺發達

第一段 感覺作用 前講述ブル所ノ五感ノ作用ハ其體直チニ智力ナルニアラズト雖モ智力ヲ構成スベキ材料タルハ疑ヲ容レズ即チ感覺ハ智力ノ本源ナリト謂フベシ其感覺相集リテ知覺ヲ生ズ知覺ハ表現的ニシテ智力ノ初級ナリ今感覺ト知覺ノ異同ヲ考フルニ第一ニ感覺ハ單純ニシテ知覺ハ複雜ナリ第二ニ感覺ハ外物ノ刺戟ヲ感受スルノミニテ之ヲ一物トシテ認識スルコトナク知覺ハ外物ノ位置ヲ知定シ其一物タルヲ認識スルナリ第三ニ感覺ハ所作用ニシテ知覺ハ能作用ナリ第四ニ感覺ハ再現ニ屬スルモノ少クシテ知覺ハ再現ニ屬スルモノ多クシ等ノ異同アリ先ヅ感覺ト知覺トニ單雜ノ異同アルハ感覺ノ集合シテ知覺ヲ生ズルニヨル目ニ色ヲ見耳ニ聲

ヲ聞クハ感覺作用ニシテ色ト聲ヲ相合シテ感ズルニ非ズ故ニ其作用單純ナリト雖モ知覺ニ至リテハ色モ聲モ香モ味モ諸性質相合シテ之ヲ一物ナリト識了スルヲ以テ其作用稍複雜ナリ其作用複雜ナルヲ以テ知覺ハ外物ヲ一物トシテ認識スルコトヲ得ルモ感覺ハ單純ナルヲ以テ外物ヲ知定スルノカナシ耳ニ聲アルヲ感シ目ニ色アルヲ感ズルモ唯感覺上ノ變動ヲ覺知スルノミニテ未ダ外物ノ如何ヲ知定スベカラズ外物ノ如何ヲ知定スルニハ諸感覺相合シテ一物ノ一物タル性質ヲ識了セザルベカラズ之ヲ識了スルハ知覺ノ作用ナリ次ニ感覺ハ外物ヲ感受スルニ止マリテ之ヲ外界ノ一物トシテ知ルニアラザルヲ以テ所作用ニ屬シ知覺ハ之ヲ外界ノ一物トシテ其地位分界ヲ知定スルノカアルヲ以テ能作用ニ屬スベシ此能作

用ト所作用トノ名ハ先キニ已ニ示ス如ク外物ノ方ヨリ我感覺ヲ叩
 キテ其變動ヲ生ズルトキハ外物ハ能作用ニシテ感覺ハ所作用ナリ
 ト稱スベシ若シ之ニ反シテ我ヨリ其心カヲ外物ノ上ニ及ボシテ其
 如何ヲ知ルトキハ外物ハ所作用ニシテ心カハ能作用ナリ今知覺ハ
 之ヲ感覺ニ比スルニ稍能作用ノ性質アリテ存スルヲ見ル其他感覺
 ハ其作用單純ニシテ現ニ感覺上ニ起ルモノヲ感ズルノミニテ其前
 ニ感シタルモノヲ再ビ想出シテ感ズルニアラズト雖モ知覺ハ複雑
 作用ニシテ諸覺相合シテ生ズル所ノ能作用ナルヲ以テ過ギタル時
 ニ起リタル諸感覺ヲ想出シテ外物ノ外物タル所以ヲ識了スルノ性
 質アリ故ニ感覺ハ再現ニ屬スル作用ナシト稱スベキモ知覺ハ再現
 ニ屬スル作用アリト云ハザルベカラズ再現トハ過ギタル時ニ起リ

タルヲ再ビ想出スルヲ云フナリ余ハ此ノ如ク感覺ト知覺ヲ區別シ
 テ其異同ヲ擧ゲタルモ是レ理論上ノ分界ニ過ギズシテ實際上――
 其別ヲ知ルコト能ハズ例ヘバ爰ニ一知覺ノ起ルアラシニ其中ノ何
 ヲノ部分ハ單純ノ感覺作用ニシテ何レノ部分ハ複雑ノ知覺ナルヤ
 ヲ明示スルハ至テ難ク又全ク知覺ノ關セザル單純ノ感覺作用ヲ見
 ルコト固ヨリ容易ナラザルナリ是レ何ノ理ニヨルヤト云フニ第一
 ニ今日ノ我人ニアリテハ感覺ト知覺ト常ニ相結合シテ起ルニヨリ
 第二ニ感覺モ知覺モ其實同一ノ心性作用ニシテ初ヨリ其體別物ナ
 ルニアラザルニヨル而シテ今爰ニ其別ヲ立ツルハ姑ク發達ノ前後
 ノ次第アルニヨル其未ダ發達セザルモノヲ感覺ト名ケ其稍々發達
 シタルモノヲ知覺ト名クルノミ例ヲ擧ゲテ其證ヲ示スニ幼兒ノ未

だ發達セザルニ當リテハ聲色ヲ感ズルノカアルモ外物ヲ識了スル
 ノ力ナキ時アリ是レ感覺作用ノミアリテ未ダ知覺作用ノ起ラザル
 ニヨル其次第二ニ成長シテ外物ヲ識了スルニ至レバ感覺ニ伴フテ知
 覺ノ毎ニ起ルアリテ全ク知覺ヲ離レタル感覺ヲ見ルコト能ハザル
 ナル然レドモ我人ノ經驗中往往音聲ノミヲ聞キテ其何物ヨリ起リ
 何レノ方向ヨリ來ル何レノ地位ヨリ生ズルカヲ覺セザルコトアリ
 是レ所謂單純ニ感覺ナリ唯爰ニ諸君ノ注意ヲ要スル點ハ感覺モ知
 覺モ同一類ニシテ感覺ノ發達シタルモノハ即チ知覺知覺ノ發達セ
 ザルモノハ即チ感覺ニシテ判然タル分界ヲ其間ニ立ツルコト能ハ
 ザルニアリ他語以テ之ヲ言ヘバ智力發達ノ前後ノ次第ニ感覺知覺
 ノ別ヲ見ルニシテ其他感覺ノ知覺ニ異ナルハ感覺ハ苦樂ノ二事情ヲ

有タルモ知覺ハ此性質ヲ有セザルニアリ是レ其ハ情感ニ屬シ其
 以テ智力ニ屬スル所以ナリ
 第二段、知覺義解 前段述ブル所ニヨリテ知覺ノ義解ヲ知ルコト
 容易ナリトス知覺ハ諸感覺ヲ結合シテ外物ヲ外物トシテ認識スル
 種種ヲ複雜ナル心性作用ナリ之ヲ複雜ト稱スルハ感覺ニ對シテ云
 フノニ若シ之ヲ内現ノ諸想ニ比スレバ一種ノ單純作用ニ過ギザル
 ナリ
 第三段、味嗅作用 知覺ハ感覺ヲ合シテ外物ヲ外物トシテ認了ス
 ル作用ナルヲ以テ諸覺盡ク知覺ヲ構成スルノ材料トナルベキハ勿
 論ナリ其雖モ五感同一ニ之ヲ構成スルノ力ヲ有スルニアラズ最モ
 多ク其力ヲ有スルモノハ觸視兩覺ニシテ最モ少ナキモノハ味嗅兩

覺ナリ味嗅兩覺中其最モ知覺ニ關係少ナキモノハ味覺ナリ味覺ハ外物ノ地位方向ヲ知定シテ之ヲ外界ノ一物トシテ認了スルノ力ナシ嗅覺モ其力甚ダ弱シト雖モ其作用味覺ノ如ク直接ニ外物自體ニ接觸シテ起ルニアラズシテ外物ヨリ飛散セル分子鼻官ニ接シテ其作用ヲ促スヲ以テ多少外物ノ地位方向ヲ知ルノ性質アリ然レドモ之ヲ一物トシテ識了スルニハ味覺モ嗅覺モ視覺モ觸覺モ聽覺モ皆相結合セザルベカラザルハ勿論ノ事ナリ其中視覺ト觸覺ト二者相合シテ知覺ヲ生ズルコト最モ多シトシ味覺嗅覺ヨリ生ズルコト最モ少ナシトスルナリ

第四段 觸覺作用 通常人ノ信ズル所ニヨルニ知覺ハ視覺ヨリ生ズルガ如シト雖モ觸覺ヨリ生ズルコト疑ヲ容レズ外物ノ大小方圓

軟硬輕重ノ觸覺ニヨリテ知ルベキハ皆人ノ經驗スル所ニシテ別々ニ輕重ト軟硬トハ獨リ觸覺ニヨリテ知ルベキモ亦人ノ疑フベカラザル所ナリ而シテ此輕重ト軟硬トハ外物ノ一物質トナルニ最モ要スル所ノ性質ナリ故ニ觸覺ハ外物ヲ知覺スルニ最モ要スル所ノ作用ナリト知ルベシ若シ之ヲ試ント欲セバ宜ク盲人ノヨク外界ノ事物ヲ知覺スルヲ見テ驗スベキナリ其他觸覺ハ前講ニ述ブル如ク地位上ノ感覺ヲ有シテ外物ノ皮膚上異ナリタル部分ニ接觸スルトキハ異ナリタル感覺ヲ生ズルヲ以テ物ノ距離空間ノ現存ヲ推知スルコト人ヲ得ルナリ

第五段 運動作用 然レドモ物ノ距離及ビ空間ノ現存ハ所作用ノ觸覺ノミニテハ明カニ知ルコト能ハズ明カニ之ヲ知ルハ能作用ノ

筋覺ニ由ラザル只ガヲ能作用ノ筋覺中ヨク之ヲ知ルハ獨リ運動
 筋覺ニアリ即チ手足ノ運動ニヨリテ生ズル所ノ感覺是シテ我
 人ニ此感覺ニヨリテ外物ノ地位方向距離及ヒ空間ノ現存ヲ容易ニ
 識了スル事ヲ得ルナリ人若シ手足ノ運動ナクシバ外物ノ地位遠近
 ヲ知ル甚ク難キハ更ニ證スルヲ要セズ第一ニ運動ノ感覺ニヨリ
 テ外物ノ地位方向距離ヲ知ルベキ所以ヲ述ブルニ手足ヲ動かシテ
 外物ニ接觸スルトキハ其物ノ左右ニアルガ前後ニアルガ及ヒ若キ
 ノ距離ニ於テ存スルガハ筋肉上ノ感覺ニヨリテ知ル事ヲ得ルナリ
 例ハ左手ヲ動かシテ物ニ觸ルレバ其物ノ左方ニアルヲ知ルベキ
 遠シ手ヲ出シテ物ニ觸ルル時ハ其物ノ遠キニアルヲ知ルベキガ如
 シ第二ニ物ノ形狀大小ヲ知ルベキ所以ヲ述ブルニ指端ヲ轉シテ外

物ノ諸點ニ連續スル時ハ其諸點ニ生ズル所ノ感覺相連續シテ物ノ
 大小方圓ノ知覺ヲ生シ及ヒ其容量固體ノ知覺ヲ生ズルナリ斯クモ
 テ空間ノ現存ハ獨リ運動ノ感覺ニヨリテ知ルコトヲ得ルモトス
 第六段 物體知覺 觸覺ハ外物ノ諸部分ニ接シテ一其地位ノ形
 狀及感覺スルカアルヲ以テ其感覺相合シテ外物ノ平面ノ廣狹ヲ
 知ルシテテラズ立體ノ縱橫深淺ヲ知ルコトヲ得ルナリ例ハ手ヲ
 以テ一小體ヲ握ルニ其第一指第二指乃至第五指ハ各異ナリタル地
 位ニ接觸シテ其地位ノ方向距離ヲ感覺スルヲ以テ其諸覺相合スル
 下蓋ハ物ノ立體容量ヲ知ルコトヲ得ルガ如シ若シ手足ノ運動ニ
 ヲ以テ遠近以諸部分ニ接觸スルトキハ別シテ諸體ノ形狀ヲ明知ス
 ル事ナリ也ニ一物ノ形狀立體ヲ知ルトキハ物體ノ知覺ヲ生ズルハ

必然ナリ例ヘバ爰ニ數箇ノ木石アランニ其體數箇ノ物體ヨリ成ル
ヲ知ルベシ即チ諸物體中ニ一物體ヲ認識覺了スルコトヲ得ルヲ云
フ蓋シ之ヲ覺了スルコトヲ得ルハ感覺ニ連續アルト間斷アルトニ
ヨル例ヘバ一石ニ觸ルルトキハ其諸部分ニ起ル所ノ感覺互ニ相連
續スルヲ覺へ衆石ニ觸ルルトキハ其諸部分ノ間ニ感覺上間斷アル
ヲ見ル是ヲ以テ一物ヲ一物體トシテ知ルコトヲ得ルナリ又手ヲ以
テ動ク所ノ外物ニ觸ルルトキハ其物ノ空間ノ一點ヨリ他點ニ轉ズ
ルヲ知ルベク且ツ運動ノ方向及ビ速カヲ知ルベシ其他觸覺ニヨリ
テ知ルベキモノハ外物ノ地位方向大小形狀ノミニ止マルニアラズ
シテ物質ノ寒温軟硬輕重龜滑ニ至ルマデ盡ク知ルベキモノトス先
ヅ手ヲ以テ外物ニ觸ルルトキハ小兒モ猶ホ其寒温ヲ知リ手ヲ以テ

外物ニ接スルトキハ其軟硬ヲ知リ之ヲ舉グルトキハ其輕重ヲ知リ
之ヲ探グルトキハ其龜滑ヲ知ルモ又皆人ノ常ニ經驗スル所ナリ是
レ所作用ノ觸覺ト能作用ノ筋覺ト相合シテ生ズル所ノ知覺ナリト
知ルベシ而シテ余ガ爰ニ物體知覺ト題セシハ物象物體ノ物體ニア
ラズシテ一箇ノ物質ヲ義トスルモノナリ

第七段 視覺作用 視覺ハ觸覺ノ如ク多少外物ノ地位方向距離大
小形狀及ビ空間ノ現存ヲ知ルコトヲ得ルモノトス其之ヲ知ルコト
ヲ得ルハ眼球内ノ網膜多少ノ面積ヲ有スルヲ以テ外物ノ異ナリタ
ル部分ヨリ來ル所ノ光線ハ網膜面上ノ異ナリタル部分ニ落ツルニ
ヨル故ヲ以テ視覺ハ同時ニ外物ノ諸點ヲ認了シテ其形狀及ビ距離
ヲ知ルコトヲ得ルナリ然レドモ網膜ハ其諸部分盡ク同一ニ外物ヲ

明視スルニアラズ其最モヨク明視スル點ハ黃班ト稱スル一點ニ限
 ル黃班ハ網膜ノ中央黃色ヲ帶ビタル一點ヲ云フ此點獨リ能ク外物
 ヲ明視スルヲ以テ或ハ之ヲ名ケテ明視點ト稱スルナリ凡ソ外物ヨ
 リ來ルノ所ノ光線其點ニ落ツルニアラザレバ明視スルコト能ハズ
 故ニ以テ我人一物ヲ取リテ之ヲ見ルニ一時ニ其諸部分ヲ明視スル
 コト能ハズシテ眼球ヲ轉シテ漸時ニ明視スルナリ例ヘバ書ヲ讀ム
 トキニ次第ニ眼球ヲ上下左右ニ轉ズルガ如シ之ヲ轉ズレバ外物ノ
 諸點ヨリ來ル所ノ光線ヲシテ盡ク黃班ノ中ニ落ツルコトヲ得セシ
 ム故ニ視覺ヲ以テ外物ノ形狀距離ヲ知ルニハ眼球ノ運動ヲ要スル
 ナリ即チ先キニ舉グル所ノ能作用ノ筋覺ヲ要スルナリ能作用ノ筋
 覺ト所作用ノ視覺ト相合シテ外物ノ形狀ヲ知ルハ能作用ノ筋覺ト

所作用ノ視覺相合シテ外物ノ形狀ヲ知ルト同一理ナリ此能所兩作
 用ノ相合シテ外物ノ大小方圓深淺方向距離ヲ知ルコトヲ得ルノミ
 ナラズ一物ヲ一物體トシテ認識覺了スルコトヲ得ルモノトス即チ
 視覺ハ網膜面上ノ視神經ノ感覺ニヨリテ外物ノ地位ヲ知リ眼球ノ
 運動ニヨリテ上下左右ノ方向ヲ知ルヲ以テ外物ノ左方ニアルカ右
 方ニアルカヲ知ルベク遠キニアルカ近キニアルカヲ知ルベク高低
 深淺モ亦從フテ知ルベシ已ニ大小遠近高低深淺ヲ知ルトキハ一物
 ヲ一物體トシテ知ルコト亦容易ナリ外物ノ運動速力モ亦又知ルコ
 トヲ得ベシ然レドモ人生レナガラ視覺ノ作用ノミヲ以テ外物ノ地
 位形狀ヲ知ルニアラズ能ク之ヲ知ルハ經驗上視覺ト觸覺ト相合シ
 テ生ズルノ所ノ結果ナリ他語以テ之ヲ云ヘバ視覺ハ外物ノ距離方

向ヲ指示スルノミニテ直接ニ之ヲ知覺スルニアラズ其之ヲ直接ニ知覺スルニハ觸覺ノカヲ持タザルベカラズ今爰ニ視覺ノ外物ノ距離ヲ指示スルニ五種ノ事情アリ其第一ハ眼球ノ内部ニ筋肉ノ緊張スル感覺第二ハ兩眼ノ集合スルト分離スルトノ感覺第三ハ兩眼ニ現スル所ノ影像ノ不同第四ハ遠キモノハ朦朧トシテ近キモノハ明瞭ナルノ異同第五ハ網膜面上ニ結ブ所ノ影像ノ大小ナリ此事情ヲ解釋スルニ至テ近キモノニ眼球ヲ適合シテ之ヲ見シトスルトキハ眼球ノ内部ニ筋肉ノ緊張スルノ感覺アリテ遠キモノヲ見ルニハ此感覺ナシ又近キモノヲ見ルトキハ兩眼次第ニ中間ニ集合スル傾向アリテ遠キモノヲ見ル時ハ兩眼次第ニ分開シテ眼軸平行スル傾向アリ次ニ近キモノヲ見ルトキハ兩眼ニ現スル所ノ影像同シカ

ラズシテ右眼ニハ右方ノ影像ヲ現シ左眼ニハ左方ヲ現スルモ遠キモノニ至リテ左右兩眼ニ現スルモノ同一ナリ第四ニ近キモノハ明カニ見ルベク遠キモノハ明カナラザルハ皆人ノ常ニ知ル所ナリ第五ニ同一物ニシテ遠キニアルトキハ其形小ニシテ近キニアルトキハ其形大ナルヲミルモ又皆人ノ經驗スル所ナリ以上五種ノ事情アルニヨリテ多少外物ノ遠近ヲ指示スベシト雖モ人若シ生レナガラ觸覺及ビ運動ナクンバ距離ヲ知覺スベキ理ナシ而シテ人ノ幼時ニアリテ已ニヨク目ヲ以テ距離ヲ判定スルガ如ク見ユルハ生レナガラ之ヲ知ルノカヲ有スルニアラズシテ生レテ後人ノ之ヲ乳育スルノ際觸覺及ビ運動ノ作用ニヨリテ次第ニ判定スルコトヲ得ルニ至リシナリ若シ果シテ人生來視覺ヲ以テ距離ヲ知ルノカアラバ小兒

ノ月ヲ見テ握ラントスルハ何ゾヤ又生來盲人タリシモノ壯年ニ至リ目ノ開キタルモノアリシニ月ヲ見テ其遠近ヲ判スルコト能ハズシテ之ヲ掌握センコトヲ務メタリト云フ是ニ由テ之ヲ觀レバ人生レテ運動經驗スルノ際視覺ト觸覺ノ相合スルアリテ知ラズ識ラズ眼ヲ以テ遠近ヲ判スルコトヲ得ルニ至リシヤ必然ナリ然レドモ余ガ第三講ニ述ブル如ク人ニ本能力アリテ生來經驗ヲ待タズシテ智力ノ作用ヲ有スルコトアリ故ニ或ハ本能力ノ作用ニヨリテ生レナガラ多少外物ノ距離遠近ヲ知ルノカアルカモ計リ難シト雖モ其本能力モ之ヲ歸スルニ父祖數世間ノ經驗ニ出ヅルコト明カナレバ視覺上遠近ヲ判定スルコトヲ得ルハ經驗積習ノ結果ナリト斷言スベシ

第八段 身體知覺 此ノ如ク外界ノ物質ヲ一物體トシテ感ズルトキハ自己ノ身體ヲ自己ノ身體トシテ知ルコトナクンバアルベカラズ一己ノ身體モ外界ノ諸物ニ比スルニ宇宙間ノ一物體ナルコト明カナリ己ニ之ヲ一物體トシテ知ルモ自身ト外物トノ別ハ如何シテ知ルベキカト云フニ外物ニ觸ルルトキト自身ニ觸ルルトキトハ感覺上大ニ異ナリタル所アリテ其別ヲ知ルベシ自身ハ其諸部分ニ於テ感覺及ビ知覺作用ヲ有スト雖モ外物之ヲ有セザルヲ以テ外物ニ觸ルルトキハ其觸レタル部分ニ於テ感覺ヲ生ズルコトナシト雖モ自身ニ觸ルルトキハ自ラ其部分ニ感覺ノ生ズルヲ覺フ即チ自身ハ知覺體ニシテ外物ハ無覺體ナルニヨル是ヲ推シテ自身ト他人トノ間ニ其別ヲ知ル所以モ亦了スベシ例ヘバ手ヲ以テ自身ノ體ニ觸ル

ルトキハ一種ノ感覺ヲ自身ニ覺知スベシト雖モ他人ノ體ニ觸ルルトキハ毫モ自ラ覺スルコトナシ是ヲ以テ我人ハ自身ト自身ニアラザルモノヲ識別スルコトヲ得ルナリ

第九段 聽覺作用 聽覺ノ視覺及ビ觸覺ニ數歩ヲ讓ル所以ハ第一ニ皮膚及ビ網膜ノ如ク平面ノ地位ヲ有セザルヲ以テ同時ニ外物ノ諸點ヲ認了スルコト能ハズ即チ空間ノ現存ヲ知ルコト能ハザルナリ第二ニ運動作用ヲ有セザルヲ以テ種種ノ點ニ耳ヲ轉シテ諸音ヲ聽受スルコト能ハザルナリ視覺ト觸覺ハ毎ニ運動作用ト連接シテ起ルヲ以テ其經驗スル所ノ範圍從テ廣シト雖モ耳官ハ頭足ノ運動ヲ待ツニアラザレバ自ラ運動スルコトナキヲ以テ外物ノ地位形狀距離ヲ知ルコト至テ難シ然レドモ多少之ヲ知ルノ作用アリ先ヅ外

物ノ方向ハ其體ヨリ發スル所ノ音聲兩耳ニ感ズル所異ナルニヨリテ判スルコトヲ得ルナリ例ヘバ左方ヨリ來ル所ノ音聲ハ左耳ニ感ズルコト強ク右方ヨリ來ルモノハ右耳ニ感ズルコト強キノ差別アリ其他耳ハ頭ノ運動ニヨリテ外物ノ前後左右ニアルカヲ試ルコトヲ得ルナリ次ニ外物ノ遠近ハ音聲ノ大小明微ニツイテ判スルコトヲ得ベシ然レドモ外物ノ方圓形狀ニ至リテハ聽覺ノ知ル能ハザル所ニシテ之ヲ知ルハ視覺觸覺ヲ待タザルベカラズ而シテ聽覺ハ時間ノ連續長短ヲ知覺スルコトヲ得蓋シ時間ノ知覺ハ視覺ノ有セザル所ニシテ之ヲ知ルハ獨リ聽覺ニアリ唯視覺ハ外物ノ運動スルヲ見テ僅ニ時間ノ長短ヲ推量スルノミ故ニ視覺ハ空間ヲ知覺スルノ作用ヲ有シ聽覺ハ時間ヲ知覺スルノ作用ヲ有スト定ムルナリ

第十段 知覺發達 知覺モ幼時ヨリ次第ニ發達スルモノトス幼少
 ノ時ニアリテハ唯ハ不完全ナル感覺ヲ有スルニ過ギズシテ未ダ知
 覺ト稱スベキモノヲ有セズ漸ク發達シテ知覺ヲ有スルモ一般ニ關
 スル最大ノ點ヲ知覺スルノミニテ未ダ細密ニ涉リタル諸點ヲ知覺
 スルニ至ラズ例ヘバ外物ノ距離方向ノ如キハ幼兒輩ノ測知スルコ
 ト能ハザル所ニシテ往往外物ニ衝突シ又ハ高處ヨリ倒下スルコト
 アルヲ見ル知覺力愈發達シテ始メテ距離遠近ヲ精密ニ知ルコト
 ヲ得ルナリ又外物ノ形狀容貌モ知覺ノ力發達スルニアラザレバ明
 カニ辨別スルコト能ハズ幼少ノ時ニアリテハ一一父母兄弟ヲ辨別
 スルコト能ハズ漸ク長シテ父母兄弟ヲ辨別スルニ至ルモ他人ヲ辨
 別スルコト能ハズ愈長シテ日本人ヲ辨別スルニ至ルモ外國人ヲ辨

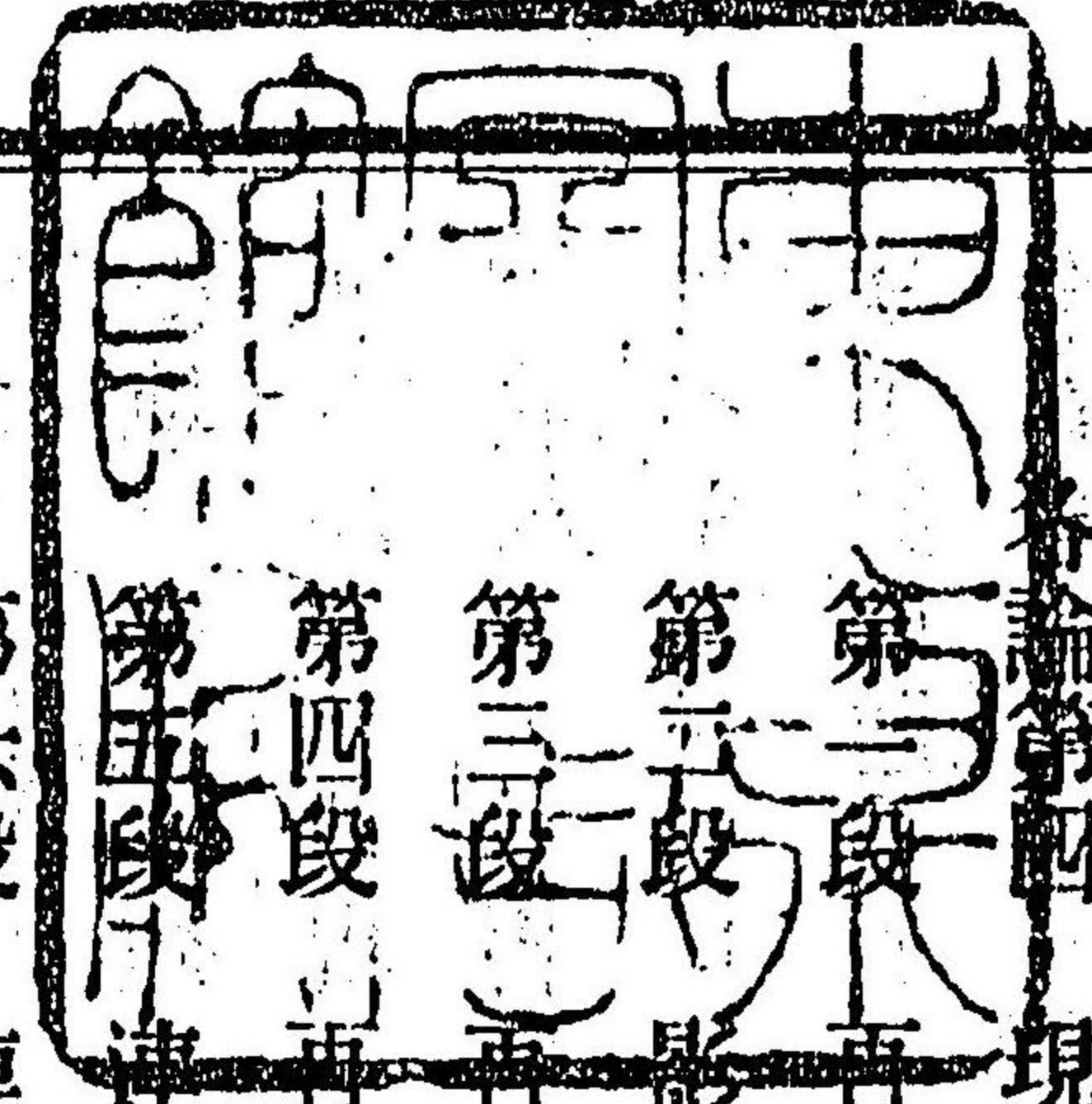
別スルコト能ハズ已ニ今日ニアリテモ我人ハ外國人ヲ見ルトキハ
 大抵皆類同シタルモノノ如ク現シテ一一其人ヲ辨別スルコト能ハ
 ズ英國人モ米國人モ佛蘭西人モ以太利人モ獨逸人モ大抵同國ノ人
 ノ如ク見エテヨク之ヲ辨別スルモノ甚ダ少ナシ然レドモ永ク外國
 人ニ接スルトキハ容易ク辨別スルコトヲ得ベシ是レ習慣動作ノ影
 響ニヨルモノナリ故ニ人各其職業ニヨリテ一部分ノ知覺非常ニ發
 達スルコトアリ船頭ハヨク遠キニアルモノヲ明視シ動物學者ハヨ
 ク小ナルモノヲ識別シ山ニ遊ブモノハヨク山ヲ知り水ニ遊ブモノ
 ハヨク水ヲ知り馬ヲ見ルモノハヨク馬ヲ知り人ヲ相スルモノハヨ
 ク人ヲ知り百姓ハ米穀ヲ一見シテ其何ソノ種類ナルヲ知り商人ハ
 物品ヲ一見シテ其ノ價ノ若干ナルヲ知り書畫屋ハ書畫ニ明カニ古

物家ハ古物ニ明カナル等ハ皆其職業ニヨリテ一部分ノ知覺發達ス
 ルナリ然レドモ智力ノ發達ハ知覺一部分ノ發達ヨリ寧ロ全體ノ發
 達ヲ要スルナリ知覺ハ智力ノ本源ナルヲ以テ知覺發達スルニアラ
 ザレバ智力ノ發達ヲ期スベカラズ故ニ知覺ノ發達ハ智力ノ發達ニ
 最モ要スル所ナリト知ルベシ

明治十九年八月二十六日 内務省 文部 185

第七講

各論第四 現想論 一名再現論



- 第一段 再現起源
- 第二段 影像種類
- 第三段 再現性質
- 第四段 再現事情
- 第五段 連想種類
- 第六段 連想事情
- 第七段 附近連想
- 第八段 類同連想
- 第九段 背反連想

○通信教授心理學

第十段 記憶發達

第一段 再現起源 再現即チ現想ハ智力發達ノ順序中知覺ノ上位スル心性作用ニシテ之ヲ内現的即チ内想ノ初級トス今其起源ヲ考フルニ知覺ヨリ生シタルコト疑ヲ容レズ例ヘバ去年經過シタル土地ノ風色ヲ想見シ昨日面接シタル友人ノ容貌ヲ想出スルハ再現ナリ而シテ其現ニ接見シタルハ知覺ナリ故ニ知ルベシ知覺アリテ後再現アルヲ再現アリテ後知覺アルニアザルナリ但爰ニ疑ヲ抱クベキハ一タビ現見シタルモノ如何シテ再ビ想出スベキカノ問題ナリ此問題ニツイテハ未ダ判然タル解釋ヲ附セシモノナキヲ以テ余固ヨリ確答ヲ與フルコト能ハズト雖モ推シテ之ヲ考フルニ一タビ現見シタル外物ノ影像ハ其形ヲ腦髓ヲ組成セル細胞ノ或ル部分

ニ留ムルヲ以テ之ヲ刺戟スル源因又ハ事情ヲ待チテ再ビ現起スルナリト云フベシ蓋シ一タビ外物ヲ知覺シタルトキハ其變動ヲ最も變化シ易キ細胞ニ與フルヲ以テ其體多少變形又ハ變質スベキハ必然ノ理ナリ而シテ一タビ變形又ハ變質シタルモノハ永ク其形質ヲ保存セントスルノ性アルヲ以テ其後若干ノ時日ヲ經ルモ依然トシテ其影像ヲ留ムベシ故ニ他日更ニ之ヲ刺戟スベキ事情ニ際會スルトキハ其影像再ビ現スベキハ明カナリ是レ固ヨリ推想ニ過ギズト雖モ亦理ノ稍取ルベキモノアリ其證ヲ示サン爲メニ爰ニ影像ノ種類及ビ再現ノ性質事情ヲ述ブルナリ

第二段 影像種類 凡ソ影像ト稱スルモノニ二種類アリ第一ヲ暫時影像ト云ヒ第二ヲ永時影像ト云フ暫時影像トハ影像ノ連續スル

時間ノ短キモノヲ云フ例ヘバ太陽ヲ見テ目ヲ他ニ轉ズルモ尙ホ其影像ヲ留ムルガ如キモノ是レナリ然レドモ其形暫時ニシテ消滅スルヲ以テ之ヲ暫時影像ト稱スルナリ即チ此影像ハ知覺ニ屬ス之ニ反對シテ若干ノ時日ヲ經テ尙ホ其影像ヲ留ムルモノアリ現想ノ再現是レナリ而シテ此永時ノ影像ト暫時ノ影像トハ全ク相異ナルモノノ如シト雖モ亦互ニ相關係ヲ有スルヤ明カナリ蓋シ知覺ニ伴フテ暫時ノ影像アルハ一タビ腦中ノ細胞ヲ刺戟スレハ暫時ノ間其興奮ヲ連續スルニヨル全ク其興奮ヲ失ヘバ其影像一時消滅スルモ再ビ他ノ事情ニヨリテ其興奮ヲ促ストキハ再現ノ影像ヲ生ズベキナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ一タビ腦中ニ感傳シタル外物ノ變動ハ細胞ノ變形又ハ變質ニヨリテ其中ニ保存シ他日更ニ其興奮ヲ促スベキ

事情ニ接シテ影像ノ再起スルニ至ルナリ

第三段 再現性質 再現即チ永時影像ト知覺ト其性質ヲ異ニスルハ第一ニ知覺ハ表現ニシテ再現ハ内現ナリ第二ニ知覺ハ意力ニヨリテ左右スベカラサルモ再現ハ意力ヲ以テ動カスベシ第三ニ知覺ハ運動ニヨリテ生滅スルモ再現ハ然ラズ第四ニ知覺ハ其生ズルモ滅スルモ共ニ速カナレドモ再現ハ漸漸ニ生滅ス第五ニ知覺ハ明瞭ナレドモ再現ハ不明ナリ其中第一ハ格別解釋ヲ附スルヲ要セズ第二ノ意ヲ敷衍スルニ例ヘバ爰ニ山水ノ風景ニ對接シテ之ヲ見ザラシコトヲ務ムルモ意力ヲ以テ動カスベカラスト雖モ再現ノ影像ハ現ニ亡友ノ容貌ヲ想出スルモ隨意ニ之ヲ轉シテ他ノ物ヲ想見シ以テ其影像ヲ消滅セシムルコトヲ得ベシ第三ノ意ヲ述ブルニ知覺上

現見シタルモノハ運動シテ其場處ヲ轉ズレハ前者ノ形象忽チ滅シテ他ノ形象ヲ見ルモ再現ハ手足ヲ動カシ眼ヲ他ニ轉ズルモ前時ノ影像依然トシテ連續スルコトヲ得ルナリ第四ノ意ハ知覺ハ外物ヲ現見スレバ其形象俄カニ心内ニ浮ビ目ヲ閉ヅレハ其象忽チ消滅スルガ如ク俄カニ起リ俄カニ滅スルコトヲ得ルモ再現ハ其生ズルモ次第ニ影像ヲ現出シ其滅スルモ次第ニ消失スルナリ次ニ第五ノ意ハ直接ニ目前ニ現スルモノハ其象明瞭ナルモ間接ニ心内ニ想スルモノハ其像不明ナルヲ見テ知ルベシ然レドモ夢中ニアリテハ再現ノ影像至テ明カニシテ現ニ知覺セルモノノ如ク感ズルハ興奮ノ強弱度ヲ異ニスルニヨルナリ興奮強キトキハ再現毎ニ知覺ト相混同シテ分ツベカラザルコト多シ例ヘバ亡友ヲ憶フコト甚キトキハ現

ニ其ノ容貌ニ接スルノ思ヲチスガ如シ別シテ夢中ニアリテハ他ノ部分盡ク靜止シテ腦中ノ一部分ノミ興奮スルヲ以テ明ニ其部分ノ影像ヲ想起スルコトヲ得ルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ知覺ノ中樞ト再現ノ中樞トハ腦中異ナリタル部分ニ存スルニアラズシテ同一ノ中樞ナルコト推シテ知ルベシ唯、再現ノ影像ノ不明ナルハ刺戟ノ力弱クシテ興奮ノ少キニヨルノミ
 第四段 再現ノ事情 凡ソ再現ノ起ル原因ハ外物ノ感覺其象ヲ心面上ニ留ムルヲ云フ其留メタル物象ヲ爰ニ印象ト名ク他語以テ之ヲ云ヘバ感覺及ビ知覺神經ヨリ傳ヘタル外物ノ形象ヲ腦中ノ細胞ニ印スルヲ以テ再現ノ起ルニ至ルナリ而シテ又其原因ヲ助クル事情アリ其事情ヲ分チテ六種トス其第一種ハ印象ノ深淺ニシテ感覺

ヨリ與フル所ノ印象深ク且ツ著キトキハ之ヲ再現スル易ク淺ク且ツ微ナルトキハ之ヲ再現スル難キヲ云フ第二種ハ意向ノ事情ニシテ意カノ向フタルモノハ其印象明カニシテ再起シ易ク意カノ向ハザルモノハ再現シ難キヲ云フ第三種ハ腦髓ノ勢力ニシテ腦ノ勢健全且ツ強壯ナルトキハ其印象明カニシテ再起シ易ク然ラザレバ難キヲ云フ第四種ハ時間ノ遠近ニシテ心面ノ印象ハ時日ヲ經ルニ從ヒ次第ニ消滅スルヲ以テ時間ノ懸隔近キモノハ再起シ易キヲ云フ第五種ハ習慣ノ事情ニシテ反復數回印象ヲ結ビタルモノハ再現シ易キヲ云フ第六種ハ連合ノ規則ニシテ前ニ述べタル思想ノ再合即チ連想ト云フモノ是レナリ以上六種ノ事情ニヨリテ一タビ感受シタル印象再ビ現起シテ外物ノ影像ヲ想見スルニ至ルナリ即チ再

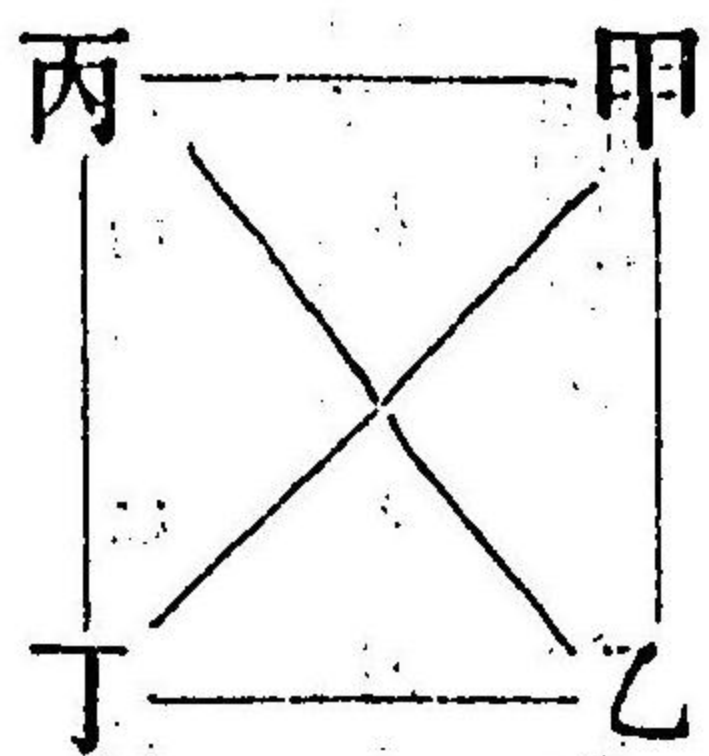
現ノ起ルハ神經纖維ヨリ腦中ノ中樞ニ傳ヘタル外物ノ形象變化ハ其細胞ノ變形變質ヲ促シテ物象ヲ其中ニ印スルニ由ルナリ然レドモ爰ニ解スベカラザルハ其印象ヲ留ムルハ果シテ何シノ力ニヨルヤノ一問題ナリ是レ記住力ノ然ラシムル所ニシテ其力ハ人ノ本來有セザルヲ得ザルモノト云フヨリ外ナシ若シ之ヲ遺傳力トシテ父祖數世間ノ經驗ニ成ル者トスルモ其根元タル原力初メヨリ存セザルベカラズ之ヲ物力トスル時ハ其力果シテ何者ナルヤノ疑問亦起ルベシ此ノ如クニシテ蓋シ際涯ナク何レノ點ニ至リテ疑問ノ全ク解スルヲ知ラザルナリ是レ余カ疑フ所ニシテ諸君ノ亦解スベカラザル所ナリ別シテ細胞中ニ如何ナル變形變質ヲ起シ腦髓中ノ如何ナル部分ニ印象ヲ留ムルヤノ一點ニ至リテハ遠ク理學實驗以外ニ

アリテ論理ノ力僅ニ之ヲ推想スルニ過ギズ而シテ顧テ其論理ノ力ハ果シテ誰レノ力ナルヤヲ考フルトキハ是レ我カ心ノ力ナルコト容易ク了スベシ己ニ其力ノ心ニ屬スルヲ知ラバ再現ハ細胞ノ變質ヨリ生ズト論ズルモノ都テ是レ心ノ力ニシテ其原力ノ果シテ何レヨリ來ルト怪ムモノ亦皆心ノ力ニ外ナラザルコトヲ知ルベシ果シテ然ラバ我人ハ一心海内ニ波動ヲ起シテ是レハ物質ノ生ズル所ノ力ナリト證シ彼レハ天帝ノ與フル所ノ力ナリト論ズルモノアレドモ其實皆一心中ノ現象ニシテ心ヲ以テ心ヲ論シ心ヲ以テ心ヲ證スルモノナリ心性ノ神妙不可思議ナルコト愈明カナリト謂フベシ

第五段 連想種類 前段ニ掲ゲシ六種ノ事情中第六ニ連想ノ事情ヲ舉ゲタレドモ未其意ヲ説明セザルヲ以テ爰ニ其一段ヲ設クルナ

リ凡連想ト稱ヌル者ハ諸思想ノ互ニ相連合スルアリテ一思想起レバ他ノ思想伴フテ起ル作用ヲ云フ例ヘバ左圖ノ如ク甲乙丙丁ノ四

第八圖



種ノ思想アリト假定スルニ其四者互ニ相連合シテ甲思想ノ起ルアレバ乙若クハ丙若クハ丁ノ伴フテ起ルノ類是レナリ之ニ二種アリ一ヲ附近連想ト稱シ一ヲ類同連想ト稱ス附近連想ニ亦二種アリ一ハ空間ノ附近一ハ時間ノ附近ナリ空間ノ附近トハ空間上互ニ相附近シタル者ノ連合スルヲ云フ例ヘバ農家ト田圃ハ互ニ相附近スル

ヲ以テ農家ヲ思フ毎ニ田圃ヲ想出シ田圃ヲ見ル毎ニ農家ヲ想見スルガ如シ次ニ時間ヲ附近トハ時間上互ニ相附近シタルモノノ連合スルヲ云フ例ヘバ電光ト雷鳴ハ前後相接觸スルヲ以テ電光ヲ見テ雷鳴ヲ想シ雷鳴ヲ聞テ電光ヲ思フガ如シ次ニ類同連想ニモ亦三種ノ別アリテ其第一ハ同種類中ノ互ニ相同キモノ又ハ似タルモノノ連合スルヲ云ヒ其第二ハ同種類中ノ全ク反對シタルモノノ連合スルヲ云フ例ヘバ水ヲ見テ酒ヲ想出スルハ其第一種ニ屬シ暑ニ遇フテ寒ヲ想起スルハ其第二種ニ屬ス而シテ余ハ此第二種ヲ背反連想ト稱シテ第一種ニ區別シ別ニ一段ヲ設クルナリ

第六段 連想事情 連想ノ起ルニモ種種ノ事情アリテ之ヲ大別シテ意向ト習慣ト二種トナス意向ノ事情トハ意ノ傾キタル事ハヨク

連合シ且ツ想起シ易キ事情アルヲ云ヒ習慣ノ事情トハ動作習慣ニヨリテ反復數回經驗シタル時ハヨク連合シ且ツ想起シ易キヲ云フ是ニ由テ之ヲ觀レバ思想ノ連合ハ外界ノ經驗ヲ待チテ生ズルコト明カナリ外界ニアリテ互ニ相附近又ハ類同シタルモノハ必ず内界ニアリテ連合シ内界ニアリテ連合スルモノハ必ず外界ニアリテ附近又ハ類同ノ關係ヲ有スルモノナリ且ツ外界ニアリテ經驗數回ニ渉ルモノハ必ず内界ノ連合強クシテ内界ノ連合強キモノハ又必ず外界ノ經驗數回ニ及ブモノナリ然シテ今第八圖ニツイテ考フルニ甲ノ思想ノ起ルトキニ乙ノ思想ノ起ルコトアリ又ハ丙ノ思想ノ起ルコトアリ又ハ丁ノ起ルコトアルハ如何ナル原因ニヨルト云フニ是レ即チ意向ト習慣ト二事情ニヨルコト已ニ明カナリ動作習慣ニ

ヨリテ甲乙ノ連合密ニシテ且ツ強キトキハ甲ヲ見テ乙ヲ想起スベク
 甲丙ノ連合強キトキハ丙ヲ想起スベキハ勿論ナリ又意ノ方向ニ
 應ジテ甲ヲ見テ或ハ乙ヲ思ヒ或ハ丙ヲ思フコトアルベシ是等ハス
 ベテ其時ノ内外ノ事情ニヨルモシニシテ今爰ニ一其事情ヲ明示
 スルコト能ハズ然レドモ連想ヲ生ズルハ外界ノ經驗ニヨルコトハ
 更ニ證スルヲ要セザルナリ而シテ又爰ニ怪ムベキハ腦髓中ニ如何
 ナル組織アリテヨク連想ノ作用ヲ呈スルヤノ一點ナリ唯物論者ノ
 説ク所ニヨルニ各細胞間ニ之ヲ連結スル纖維ヲ存スルマリテ諸細
 胞盡ク其變動ヲ互ニ相通ズルコトヲ得ルヲ組織ヲ有スルヲ以テ經
 験上甲乙二者ノ互ニ相附近連合スルトキハ甲細胞ト乙細胞ノ間ノ
 通路殊ニ開達シテ甲細胞中ニ起ル所ノ變動ハ忽チ其動波ヲ乙細胞

ニ向フテ通シ甲ノ影像ニ伴フテ乙ノ影像ヲ想起スルニ至ルナリ且
 ツ意向ノ之ニ加ハルアリテ甲ニ伴フテ他ノ一部ノ思想ヲ想起スル
 ハ其時ノ内外ノ事情ニ應ジテ獨リ其一方ノ部分ニ向フテ動波ヲ傳
 フルニ至ルナリト或ハ臆想スベキモ心性ノ造構及ビ作用ニ至リテ
 ハ決シテ明カニ知ルベカラズ縦ヒ之ヲ明知スベシトスルモ之ヲ知
 ルモノ即チ是レ心性ニシテ唯心力ノ妙用ヲ嘆ズルヨリ外ナシ
 第七段 附近連想 附近連想ニハ前ニ掲ゲタル如ク空間上ノ附近
 ト混同シテ連合スルモノアリ各別ニ連合スルノ例ハ前ニ舉ゲタル
 モノヲ見テ知ルベシ混同シテ連合スルノ例ハ雷電風雨雲霧等皆共
 ニ連合シテ同時ニ想起スルコトアルヲ見テ知ルベシ其他諸感覺ノ
 間ニ又互ニ連合スルコトアリ物ノ色ト音ト相連合シ味ト香ト相連

合スルガ如シ斯クシテ物ノ名ト形トノ間ニ連合シ記號ト其實物トノ間ニ連合スルアリテ名ヲ呼ヘバ直チニ其形ヲ思ヒ文字ヲ見テ其實物ヲ想起スルコトヲ得ルナリ又感覺ト運動トノ間ニ連合シ運動ト意力トノ間ニ連合スルコトアリ例ヘバ目前ニアル食物ヲ食ハシト欲スルトキハ手ヲ出シテ之ヲ取ルガ如キハ意力ト運動トノ間ニ連合シタルモノナリ或ハ又歩行ヲ思フテ其際ニ生ズル所ノ諸感覺ヲ想起スルガ如キハ感覺ト運動トノ連想ナリ口舌ヲ動カシテ語ノ意味ヲ知り筆ヲ動カシテ字ノ意味ヲ想スルハスベテ此連想ニ屬ス斯クシテ言語文字文章ノヨク人ノ思想ヲ通ズルニ至ルナリ此ノ如ク時間空間五感意力運動等ノ種種ニ混同シテ連合スルモノヲ複雑ノ連想トス通常我人ノ連想ハ此複雑ノ連想ニ屬スルモノナリ

第八段 類同連想 類同連想ニモ時間又ハ空間ノ上ニ起ル所ノ二

種アリト雖モ附近連想ト異ナルハ主トシテ其遠隔シタルモノノ間ニ連合スルニヨル例ヘバ東京ノ銀座通りヲ見テ英國ノ龍動ヲ想起シ面貌ノ似タル旅人ニ遇フテ亡友ヲ想出スルカ如シ此銀座ト龍動トハ固ヨリ空間上附近シタルニアラズ旅人ト亡友トハ固ヨリ時間上附近シタルニアラズト雖モ唯二者ノ間ニ互ニ相似タル點アルヲ以テ想起スルニ至ルノミ又五感ノ間ニ互ニ連合スルアリテ美ナル聲ヲ聞キテ美ナル色ヲ想見スルコトアリ或ハ又感覺ト運動トノ間ニ連合スルコトモアリ凡ソ我人ノ學問知識ハ此連想ノ力ニヨリテ得ルモノ多シトス幼少ノ時ニ漢書ノ音讀ヲ修ムルニモ其音ノヨク似タルモノニツイテ之ヲ記憶シ長シテ洋學ヲ學ブニ及ンデモ其日

本語トヨク相似タルモノニツイテ之ヲ記憶スルナリ例ヘバ「ベン
 ガル」ニ「ベン」ハ辨慶ノ辨ナリト記憶シ「ボンペイ」ノ「ペイ」ハ勘平
 ノ平ナリト記憶スルガ如シ或ハ此類同ノ記憶ニヨリテ却テ誤ヲ生
 ズルコトアリ余嘗テ某地方ヲ旅行スルノ際途中ニアリテ前驛ノ旅
 宿ヲ問ヒ國府屋ニ泊スベシト聞キタルノニ國府ハ烟草ノ名ナルヲ
 以テ烟草ノ類同ニヨリテ其名ヲ記憶セリ而シテ其驛ニ入ルニ及ン
 デ已ニ國府屋ナルコトヲ思フテ烟草屋ナリト信シ驛中其名ヲ尋子
 テ遂ニ其家ヲ得ズ始メテ類同連想ニヨリテ國府屋ト烟草屋トヲ誤
 認シタルコトヲ知レリ此ノ如キ誤リヲ生ズルコト往往之レアリト
 雖モ此連想ニヨリテ記憶ヲ助ケ學識ヲ補フコト亦少カラザルナリ」
第九段 背反連想 背反連想ハ白ヲ見テ黒ヲ思ヒ雨ニ逢フテ晴ヲ

思ヒ苦ヲ受ケテ樂ヲ思ヒ貧ニアリテ富ヲ思フガ如キモノヲ云フ而
 シテ之ヲ類同連想ノ一部分トナスハ同類中ノ反對シタル性質ノ間
 ニ連合スルニヨル即チ黑白ハ共ニ色ノ種類ニシテ晴雨ハ共ニ氣象
 ニ屬スルガ如シルソ事物ハ全ク相反對シタル種類ニ分ツヲ常トス
 之ヲ分解法ト云フ例ヘバ物質ヲ分チテ有機無機ノ二種トシ有機ヲ
 分チテ有感無感ノ二種トシ有感ヲ分チテ有智無智ノ二種トナスガ
 如シ此二種ノ間ニ連合シタルモノ之ヲ背反連想トスルナリ蓋シ此
 ノ如キ連想ノ起ルハ我人ノ知識ハ相對ヨリ成ルニヨル白ノ白タル
 ヲ知ルハ白ニカラザルモノアルニヨリ無機ノ無機タルヲ知ルハ有
 機ノ存スルニヨルガ如シ且ツ人ノ小兒ヲ教育スルニ反對ノ例ヲア
 ゲテ示スコト多シ即チ善ノ勸ムベキヲ教フルニ惡ノ厭フベキヲ以

テスルガ如シ小兒モ亦記憶ヲ助クルニ反對ノ事實ヲ用フルコト
 故ニ背反連想モ又大人ノ記憶ヲ助クルモノナリ
 第十段、記憶構成 以上三種ノ連想相離レテ作用ヲ示スコト相
 合シテ作用ヲ示スコトアレドモ我人ノ思想ハ諸連想相合シテ作用
 ヲ示スコト最多シトス之ヲ複雑中ノ複雑ノ連想トス人ニ此ノ如キ
 複雑ノ連想アルハ其ノ智力ノ高等ニ進ミタル所以ヲ知ルニ足ル故
 ニ我人ノ事物ヲ記憶スルニモ種々ノ連想相合シテ助クルヲ常トス
 時間空間感覺運動附近類同等ノ諸連想皆相合シテ一種ノ記憶ヲ構
 成スルナリ例ヘハ歴史上ノ事實ヲ記憶スルニ其前後ノ事實及ビ其
 同時代ノ他ノ事實ニツイテ記スルコトアリ人ノ容貌及ビ姓名ヲ記憶
 他ノ時代ノ事實ニツイテ記スルコトアリ人ノ容貌及ビ姓名ヲ記憶

スルニモ附近及ヒ類同ニヨリテ記憶スルナリ此ノ如ク諸連想ノ相
 合スルハ大ニ記憶ノ力ヲ助クルモノニシテ一種ノ連想ニツイテ想
 出スルコト能ハザルモノハ他ノ連想ニヨリテ想出スルコトヲ得ル
 ナリ例ヘハ歴史上ノ事實ヲ想出セントスルニ其前後ノ事實ニツイ
 テ知ルコト能ハザルトキハ他ノ國ノ類同シタル事實ニツイテ知ル
 コトヲ得ルガ如シ又人ノ姓名ヲ如何呼ブカヲ忘レタルトキニ其字
 ノ形ヲ思フテ想出スルコトアリ又他ノ人ノ名ヲ思フテ想出スルコ
 トアリ然ルニ又種種ノ連想相混シテ却テ記憶ヲ妨ゲルコトアリ是
 レ蓋シ連想ノ間ニ混雜ヲ生シテ直チニ一思想ヲ喚起スルコト能ハ
 ザルニヨル凡ソ此記憶ノ力ハ人人各異ニシテ同一ナル能ハザルノ
 ミナラズ一人ノ中ニ於テモ想出シ易キ事實ト想出シ難キ事實アリ

テ存スルヲ見ル我人ノ平常接見シ且ツ利害得失ノ關係ヲ有スル事實ハ想出シ易シ例ヘバ他人ノ職業ヤ姓名ハ忘ルルコトアルモ自己ノ職業ヤ姓名ハ決シテ忘ルルコトナシ其次ヲ親戚朋友トス他人中最モ關係ノ少キモノハ最モ忘レ易シ又現今目前ノ事ハ忘レザルモ數年前ノ事ハ忘レ易シ是レ皆連想ノ事情ニヨルモノナリ

第十一段 再現發達 以上述ブル如ク再現ハ意向習慣連想等ニヨリテ次第ニ發達スルモ高等ノ再現ハ主トシテ連想ノ力ニヨル連想愈々複雑ニ涉レバ再現又隨フテ複雑ニ進ムヲ見ル而シテ再現ニ最モ要スル所ノモノハ記憶ノ力ナリ一タビ經驗シテ得タル所ノ事實ハ之ヲ記憶ノ力ニヨリテ心中ニ保存スルヲ以テ再ヒ想出スルコトヲ得ルナリ而シテ記憶ハ記住力ノ初ヨリ存スルアリテ外物ヨリ來

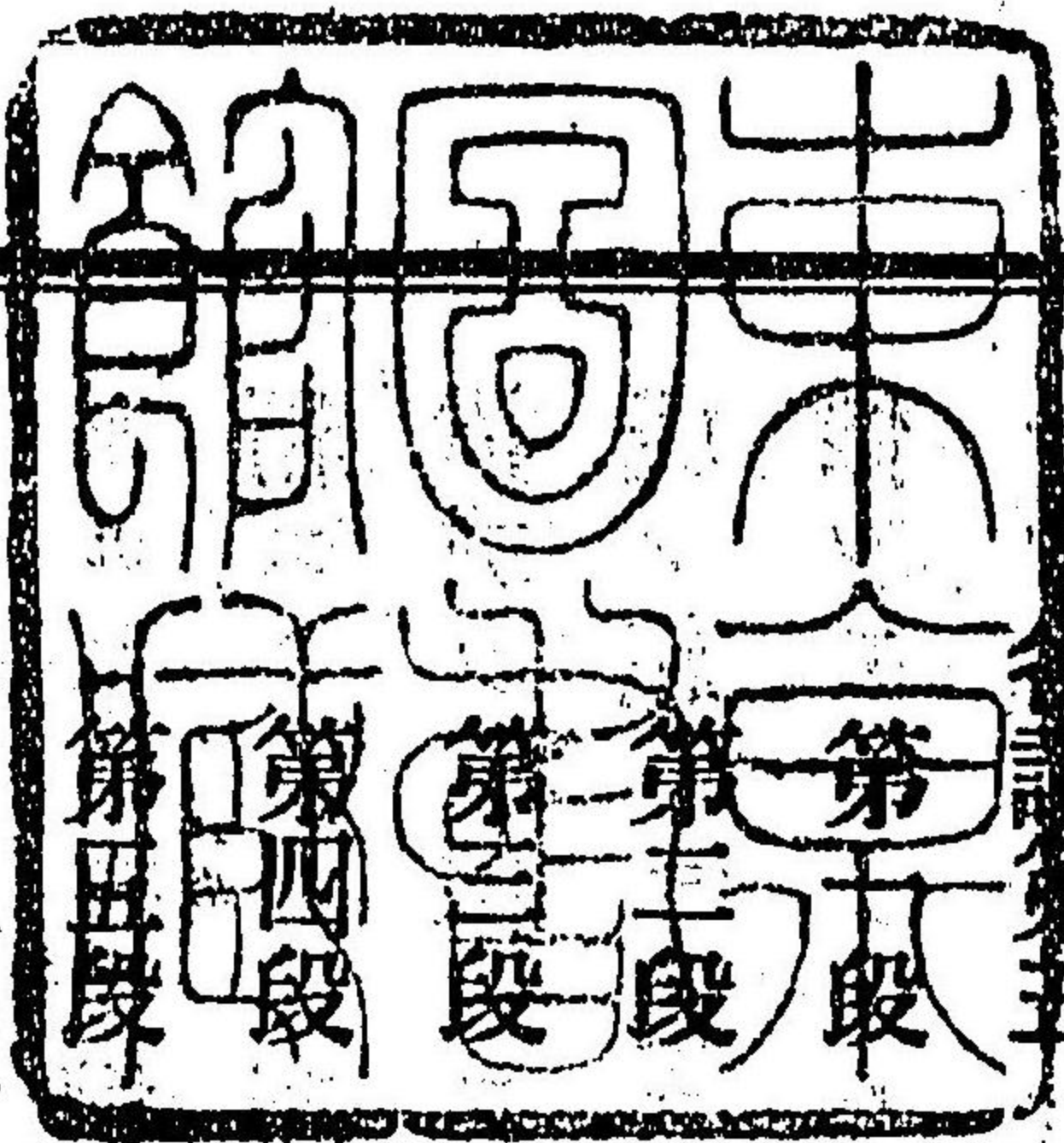
ル所ノ現象ヲ腦中ニ留メテ失ハザラシムルニヨリ其發達スルハ連想ノ事情ニヨル故ニ余ハ今再現ヲ論ズルニ當リ併セテ記憶連想ノコトヲ述ブルナリ即チ知ルベシ再現ハ經驗ト連想ニヨリテ發達スルヲ感覺知覺ノ再現ノ源因タルコト亦了スベシ幼兒ノ智力未ダ發達セザルニ當リテハ感覺知覺上表現的ノ外象ヲ識了スルノ力ヲ有スルモ未ダ内現的ノ諸想ヲ有セズ漸ク進シテ暫時ノ影像即チ知覺ノ影像ヲ有スルモ未ダ永時ノ影像即チ再現ノ影像ヲ有セズ當時己ニ記住力ヲ有スルモ未ダ純然タル記憶及ヒ連想ノ諸作用ヲ有セザルヤ明カナリ愈々長シテ始メテ記憶連想ノ作用ヲ生シ從フテ再現ノ發達ヲ見ルナリ而シテ其發達ハ人人不同アルハ一ハ教育順應ノ影響ニヨルト云フモ遺傳ノ影響ニヨルモノ亦尠シトセズ故ニ人人

生來有スル所ノ記憶再現ノ力已ニ異ナリト知ルベシ又生來人ニ色
 ノ記憶ノ強キモノト聲ノ記憶ノ強キモノ等アリテ五感ノ記憶大ニ
 異ナルモノアリ是レ又遺傳ニヨルト云フヨリ外ナシ次ニ順應異ナ
 レバ連想亦異ナリ連想異ナレバ記憶亦異ナラザルヲエザルヲ以テ
 再現力ノ不同ハ順應ヨリ生ズルコト亦明カナリ果シテ然ラバ再現
 力ノ發達モ亦此遺傳順應ノ二種ノ規則ニ本クモノト知ルベシ

明治十九年十一月十日 山内啓者 付 182

第八講

各論第五 構想論



- 第一段 構想性質
- 第二段 構想作用
- 第三段 構想種類
- 第四段 智力構想
- 第五段 意力構想
- 第六段 情感構想
- 第七段 想像關係
- 第八段 構想發達

第一段 構想性質 余前講ニ於テ現想ノ起ル所以ヲ論シテ影像記

○通信教授心理學

臆ノ如何ヲ述ベタレドモ未想像ノ何モソタルヲ示サズ想像ヲ再現
 ヨリ起ルコト固ヨリ明カナリト雖之ヲ現想ノ影像ト同一ニ見做ス
 ベカラズ影像ハ過去ノ印象ヲ其儘現スルモノナレドモ想像ハ多少
 其形ヲ變シテ現スルナリ此ノ如ク形ヲ變シテ一種ノ新影像ヲ構成
 スルモノ之ヲ構想ト云フ即チ構成ノ想像ヲ義トス故ニ單ニ想像ト
 稱スルトキハ現想構想共ニ其中ニ攝シテ現想ハ再現ノ想像構想ハ
 構成ノ想像ト云フテ然ルベシト雖モ通常人ノ用フル所ノ想像ハ構
 成ノ想像ヲ稱スルヲ以テ此ニ舉グル所ノ想像モ主トシテ構成ノ想
 像ヲ云フナリ今其起ル所以ヲ考フルニ我人ノ前已ニ經驗シタルモ
 ノヲ想スルトキハ記臆ノ力ニヨリテ同一ノ影像ヲ現スベキヲ以テ
 構成ノ想像力ヲ要セズト雖未一回モ見聞セザルモノヲ想スルトキ

ハ經驗外ニ涉ルヲ以テ一種ノ新影像ノ構成ナカルベカラズ例ヘバ
 幼時ノ舊友ヲ想スルトキハ其前時ノ容貌其儘再現スベキモ古代ノ
 英雄學者等ヲ想スルトキハ其以前ノ經驗ナキヲ以テ其儘再現スル
 コト能ハズ故ニ他人ニツイテ前已ニ經驗シタル種種ノ影像多少相
 混同變形シテ想像ノ影像ヲ現出スベシ此想像ノ影像ヲ派生影像ト
 稱シ之ニ對シテ再現ノ影像ヲ根元影像ト名クルナリ即チ構想ハ現
 想ヨリ生ズル所以ヲ知ルベシ凡ソ想像ニアリテハ影像ノ一部分ハ
 ミヲ現シテ他ノ部分ヲ見ザルコトアリ例ヘバ外物ノ定形ヲ離レテ
 色ノミヲ想スルコトアルガ如シ或ハ又別ニ新部分ヲ附加シテ現ス
 ルコトアリ例ヘバ人ニ羽翼ヲソナヘタルモノヲ想スルコトアルガ
 如シ此脫離スル作用ト附加スル作用ト相合シテ構想ノ作用ヲ現ス

ルアリ即チ現想ノ影像ノ一部分ヲ脫離シ他ノ部分ヲ附加シテ一種ノ新影像ヲ構成スルヲ云フナリ

第二段 構想作用 想像ヲ以テ新影像ヲ構成スル作用ハ我人日夜常ニ現スル所ナリ人ノ談話ヲ聞キテ其事實ヲ想スルモ物ノ外面ヲ見テ其内情ヲ察スルモ皆想像力ノ關セザルハナシ歴史ヲ讀ミ古人ヲ思フガ如キ未經験セザル事實及ヒ未經歴セザル土地ヲ想スルガ如キハ固ヨリ構想ニ由ラザルハナシ文章ヲ作り新法ヲ發明スルガ如キモ亦此作用ニヨル而シテ諸部分ノ相合シテ新影像ヲ生ズルハ連想ノ力ニヨル連想中別シテ類同連想ニヨリテ構成セルモノ最モ多シトス例ヘバ極樂ヲ想見スルニ其事情ノ最モヨク之ト類同シタル者相合シテ想像世界ヲ現立スルガ如シ之ヲ現立スルニ自然ニ生

ズル者ト意力ニヨリテ起ル者トノ二種アリ例ヘバ夢中ニ諸想ノ現スルハ自然ニ生ズルモノナリ幼兒ノ構想モ意力ニヨリテ起ルモノニアラズ是レ唯類同連想ニヨリテ連合シタル部分ノ自然ニ生起スルモノナリ之ニ反シテ意力ヲ用ヒテ想像ヲ構成スルコトアリ例ヘバ新詩文ヲ作成スルガ如キ新器械ヲ發明スルガ如キハ皆思想ノ勞カヲ待チテ生ズルモノナリ又人ノ書ヲ讀ミテ其事實ヲ想像スルモ意力ニヨリテ現スルモノ多シトス之ヲ要スルニ構想作用ノ起ル所以ハ第一ニ現想其源因トナリ連想其事情トナリテ記憶上ノ影像ヲ再現スルニヨリ第二ニ其諸影像互ニ相離合シテ一種ノ新想ヲ構成スルニヨル恰モ諸材ヲ斷續取捨シテ一家ヲ構成スルガ如シ其意力ニヨリテ生ズル構想ハ豫メ其結果ヲ想定セザルベカラズ猶ホ一家

ヲ構成スルニ其圖形ヲ豫定セザルヲ得ザルガ如シ而シテ構想ノヨク成ルト成ラザルトハ其想定ノ明ト不明ト三屬ス詩人ノ詩ヲ作ルヲ見テ知ルベシ故ニ高等ノ構想ハ智力總体ノ發達ヲ要スルナリ

第三段 構想種類 構想作用ハ諸心性作用ト相混同シテ種種ノ異類ヲ生ズルナリ今之ヲ大別シテ三種トナス即チ其第一ハ事物ノ智識思想ニ加ハリテ其進歩ヲ助クル構想ナリ之ヲ智力構想ト名ク第二ハ行爲舉動ノ實習發達ニ關係ヲ有スル構想ナリ之ヲ意力構想ト名ク第三ハ審美上ノ構想ナリ之ヲ情感ノ構想又ハ審美ノ構想ト名クルナリ

第四段 智力構想 構想ノ作用ニヨリテ人ノ智識思想ハ其己ニ經驗シタルモノヨリ其未經験セザルモノニ及ボスコトアリ是ヲ以テ

知識ノ範圍ヲ擴大スルコトヲ得所謂一ヲ聞テ十ヲ知ルノ類是レナリ或ハ又偶然ニ新知識ヲ發見スルコトアリ故ニ人ノ學問得識ハ獨リ記憶ノ力ニヨルノミナラズ想像ノヨク新知識ヲ構成スル作用アルニヨル例ヘバ我人ガ學校ニアリテ書ヲ讀ミ事ヲ聞ク毎ニ一一其情況事實ヲ心中ニ構成シテ始メテ其意ヲ會得スルコトヲ得是レ即チ構想ノ作用ニヨルモノナリ又通常我人カ互ニ相對シテ談話應答スルニモ毎ニ此作用ニヨリテ其意ヲ迎フルナリ理學上ノ研究モ亦然リ物理ノ研究ニテモ化學ノ研究ニテモ天文學ノ研究ニテモ我人ノ知覺上ニテ觀察スルコト能ハザル事實ハ想像ニヨリテ推知スルヨリ外ナシ元素ノ離合光線ノ波動天體ノ回轉ノ如キハ觀察力ノ外ニアルヲ以テ豫メ之ヲ知ルハ想像力ニヨラザルベカラズ然レドモ

之ヲ知ルモノ全ク想像力ナルニアラズ想像力ノ外ニ虚想別シテ推
 理ノカアリテ之ヲ知ルハ固ヨリ明カナリト雖ドモ想像力ヲ以テ其
 情況ヲ前知スルヲ要スルコトモ亦疑ヲ入レズスベテ理學上ノ發明
 ハ觀察推理ノ二カト想像力トニヨリテ起ルモノナリ學問ノ研究ハ
 既知ヨリ未知ニ及ボシ知覺ノ範圍内ヨリ其外ニ及ボスヲ常トスル
 ヲ以テ想像力ヲ要スルハ勿論ニシテ別シテ一種ノ新規則ヲ發明ス
 ルニ至リテハ最モ精密ナル構想作用ヲ要スルナリ近世學問世界ニ
 有名ナル牛董氏^{ニヒト}ノ重力論達賓氏ノ進化論等モ豫メ想像力ヲ以テ其
 發明ヲ迎ヘタルハ問ハズシテ明カナリ已ニ外界ノ事物ヲ研究スル
 ニ想像力ノ必要ナル所以ヲ知ル時ハ内界ノ事情ヲ知ルニ亦其力ヲ
 要スル事容易ク了スベシ我人ノ學問上ノ研究ハ獨リ外界ノ事物ニ

限ルニアラズ内界ノ思想情感モ亦ヒトシテ研究ヲ要スル所ニシテ
 之ヲ研究スル學問ハ余ガ今講ズル所ノ心理學是レナリ而シテ外界
 ノ物質ハ形質ヲ有シ内界ノ心性ハ形質ヲ有セザルコトハ前已ニ述
 ブル所ニシテ形質アルモノハ知覺上ノ觀察ニヨリテ容易ク知ルベ
 シト雖モ形質ナキモノニ至リテハ最モ想像力ノ助ヲ要スルコト亦
 已ニ明カナリ是レ又學問研究ニ構想作用ヲ要スル一理由ナリ其他
 構想作用ノ必要ナル所以ハ我人ノ知識ハ目前現今ノ事實ヲ知ルヲ
 以テ足レリトスルニアラズ未來ノ事情ヲ前知スルモ亦要スル所ナ
 リ之ヲ前知スルニ想像力ノ欲クベカラザルコトハ前ニ述べタル所
 ヲ見テ知ルベシ

第五段 意力構想 次ニ人ノ其行爲舉動ヲ指示スルニ當リ想像力

ヲ用フルコトアリ例ヘバ談話歌舞裝飾應接等ヲ爲スニ當リ之ヲ以テ其未ダ經驗セザル事情ニ能ク適合セシムルコトヲ得ルガ如キハ構想作用ニヨルモノナリ即チ小兒ノ其生長ノ際自然ニ坐作進退禮法等ヲ知リ之ヲ諸事情ニ適合スルハ構想作用ナリ此ノ如ク意力上ノ舉動ニ構想ノ相加ハリテ作用ヲ示スモノ之ヲ意力構想ト云フ而シテ意力ニ由ラザル行爲モ亦此中ニ屬スルナリ此構想ノ初級ヲ模倣作用ト云フ模倣作用トハ他人ノ爲ス所ニ模倣スル作用ナリスベテ小兒ノ行爲ハ模倣ヨリ始マル談話スルニモ歌舞スルニモ書ヲ學ビ畫ヲ習フニモスベテ人ノ爲ス所ニ模倣スルノミニテ未ダ獨立ニニ種ノ新舉動ヲ構成スルノ力ナシ之ヲ構成スルコトヲ得ルハ種種ノ行爲ヲ模倣シタル後ニアリ即チ已ニ模倣シテ得タル所ノ行爲ヲ

種種結合シテ一種ノ新舉動ヲ構成スルニ由ル故ニ小兒ノ生長ノ際教育順應ニヨリテ得ル所ノモノハ他人ノ行爲ヲ模倣スルニ始マリ新舉動ヲ發明スルニ終ル而シテ他人ノ行爲ヲ模倣シテ同一ノ舉動ヲ現スルコトヲ得ルハ記憶力ニヨリ其舉動ヲ結合シテ新舉動ヲ發明スルコトヲ得ルハ想像ノ力ニヨル故ニ一ハ現想ニ屬シ一ハ構想ニ屬スル作用ナルコト已ニ明カニシテ構想ノ現想ヨリ生ズル所以亦知ルベシ

第六段 情感構想 情感構想ハ智力構想及ビ意力構想ト其性質ヲ異ニシテ知識ヲ得ルヲ以テ目的トスルニアラズ行爲ヲ應合スルヲ以テ目的トスルニアラズ其目的トスル所唯快樂ヲ得ルニアリ故ニ其構想或ハ道理ニ合セズ或ハ事實ニ適セザルコト多シ然レドモ通

俗ノ唱フル所ノ想像ハ此構想ヲ云フナリ即チ詩文中ニ用フル所ノ構想是レナリ故ニ或ハ之ヲ審美ノ想像ト云フハ詩歌等ノ美術ニ關スル構想ナルニヨル此ノ如ク快樂ヲ以テ目的トシ且ツ情感ニ屬スル構想ナルヲ以テ爰ニ之ヲ情感構想ト稱スルナリ凡ソ情感ノ發スルヤ大抵想像ノ伴フテ起ルアリ例ヘバ恐怖ノ情感發スルトキニ恐怖ノ想像ノ起ルガ如シ又其想像ニヨリテ快樂ヲ增長スルコトアリ例ヘバ色欲食欲情欲等ノ快樂ハ想像ニヨリテ益益增長スルガ如シ或ハ又想像ヲ以テ人ノ希望ニ満足ヲ與フルコトアリ例ヘバ父母ハ其子ノ生長ヲ豫想シテ満足シ少年輩ハ將來ノ成業ヲ卜定シテ満足シ貧賤ナル者ハ他日ノ富貴ヲ豫期シテ満足シ老類シテ今世ニ望ミナキモノハ來世ノ快樂ヲ想像シテ満足スルガ如シ此ノ如ク想像ハ

能ク人ニ満足ヲ與ヘ快樂ヲ生ゼシムルヲ以テ詩人ハ其想像ヲ字句ノ間ニ表示シテ自ラ其快樂ヲ玩味シ之ヲ讀者ヲシテ又其快樂ヲ感受セシム而シテ其期スル所唯快樂ニアルヲ以テ或ハ大ニ事實ニ齟齬スルコトアリ唐人ノ詩ニ白髮三千丈依然如此長ト云フ句アリ縱ヒ愁ニヨリテ白髮ノ長ズルコトアルモ焉ゾ能ク三千丈ノ長ニ至ラシヤ其他詩中ニ見ル所涙千行恨斷腸杯ト云フ語モ事實ニ適合セザルコト明カナリ然レドモ若シ之ニ反シテ白髮二三尺淚一滴杯ト稱シテモ人ノ情ニ満足ヲ與フルコト能ハズ從フテ其快樂ヲ迎フルコト能ハザルハ必然ナリ稗史小説等又皆然リ馬琴ノ作之ヲ讀ミテ快樂ヲ感ズルハ其ヨク人ノ想像ヲ描キアラハシタルニ由ル若シ之ヲ西洋ノ究理書ヤ算術書ノ如ク綴リタランニハ更ニ無味ノ書トナル